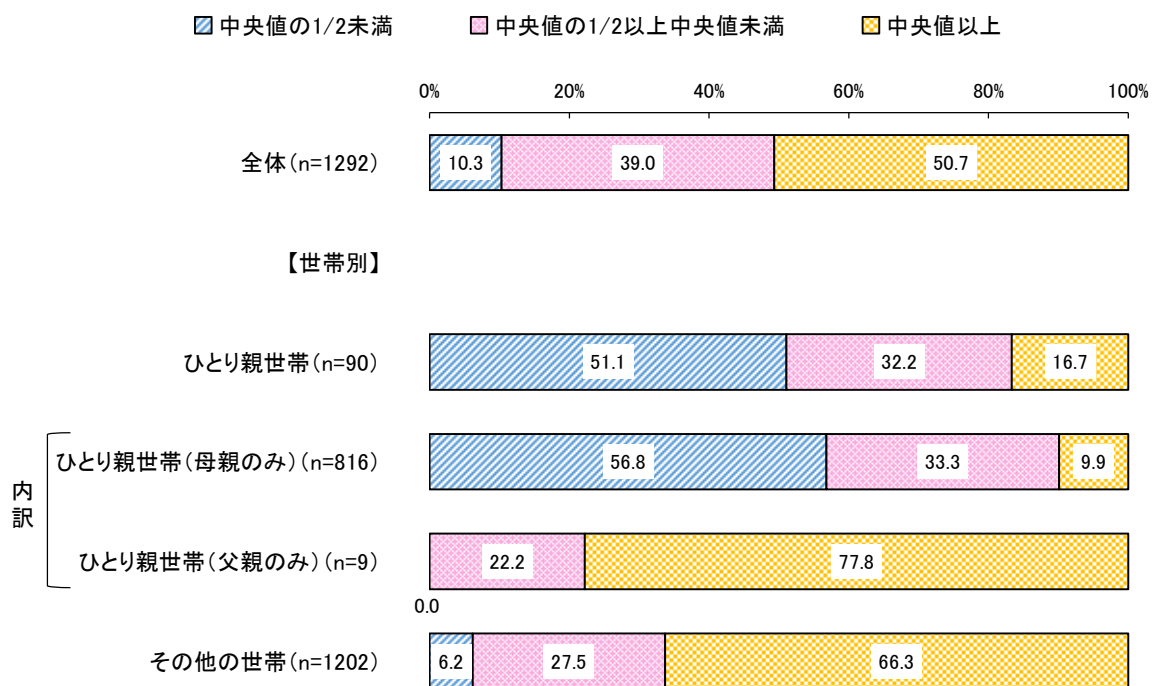


1. 保護者アンケート結果

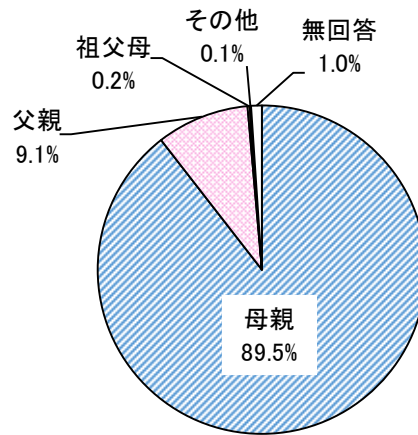
(1) 生活状況



生活状況は、全体では「中央値の1/2未満」が10.3%、「中央値の1/2以上中央値未満」が39.0%、「中央値以上」が50.7%となっている。世帯別にみると、ひとり親世帯で「中央値の1/2未満」の割合が高く、過半数を占めている。

(2) 回答者の続柄

問1 お子さんとあなたとの関係は、次のどれにあたりますか。お子さんからみた続柄でお答えください。(あてはまるもの1つに○)

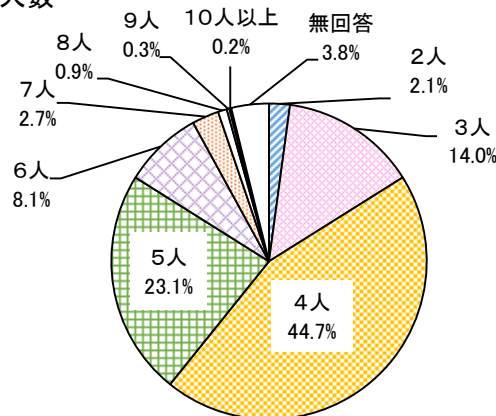


全体 (n=1455)

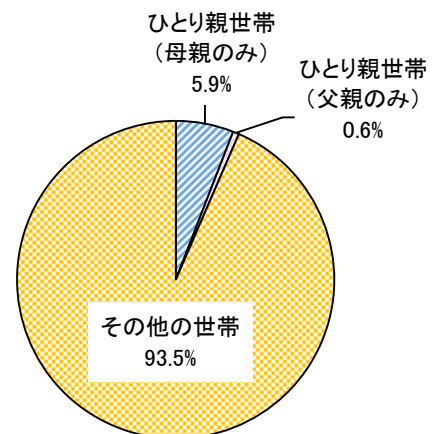
(3) 家族構成

問2 お子さんと同居し、生計を同一にしているご家族の構成と人数をお答えください。単身赴任中の方や学業のために世帯を離れているお子さんがいる場合には、ご家族の人数に含めて教えてください。(a~hそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

・同居家族の人数



全体 (n=1455)



全体 (n=1455)

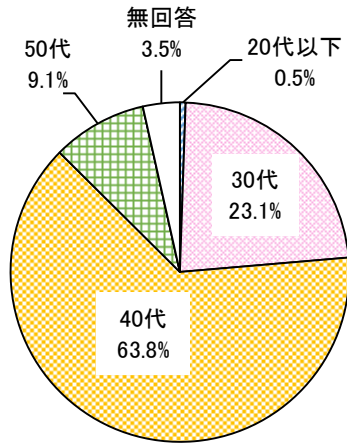
・家族構成

| 割合 (%) | いない | 1人 | 2人 | 3人 | 4人以上 | 無回答 |
|--------|------|------|------|-----|------|------|
| 祖母 | 66.4 | 11.5 | 0.4 | | | 21.6 |
| 祖父 | 70.3 | 7.4 | 0.1 | | | 22.2 |
| 母親 | 1.4 | 94.8 | | | | 4.3 |
| 父親 | 8.0 | 87.7 | | | | 4.3 |
| 姉・兄 | 32.5 | 40.1 | 9.9 | 1.4 | 0.1 | 16.0 |
| 妹・弟 | 36.4 | 32.2 | 10.9 | 1.2 | 0.5 | 18.8 |
| その他 | 61.9 | 1.0 | 0.3 | 0.1 | 0.1 | 36.6 |

(4) 親の年齢

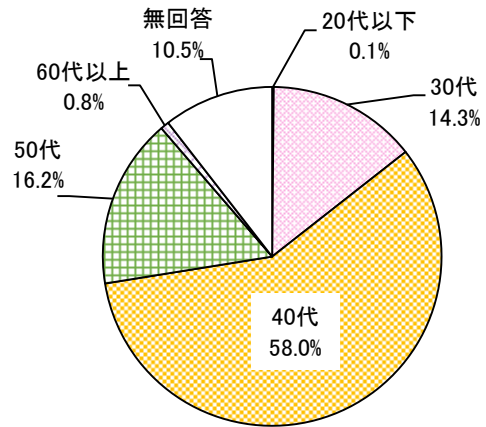
問3 お子さんの親の現在の年齢についてお答えください。

【母親の年齢】



全体 (n=1455)

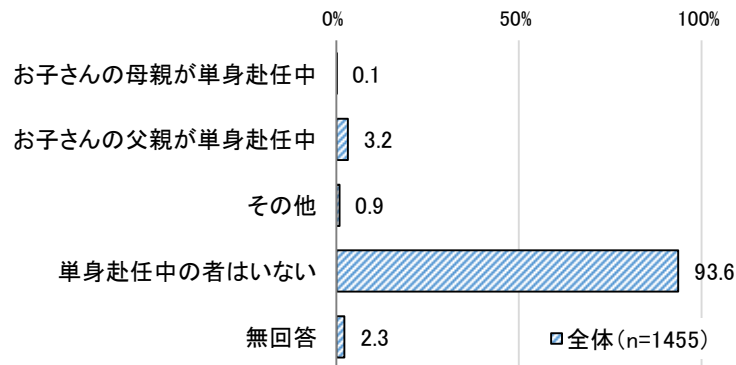
【父親の年齢】



全体 (n=1455)

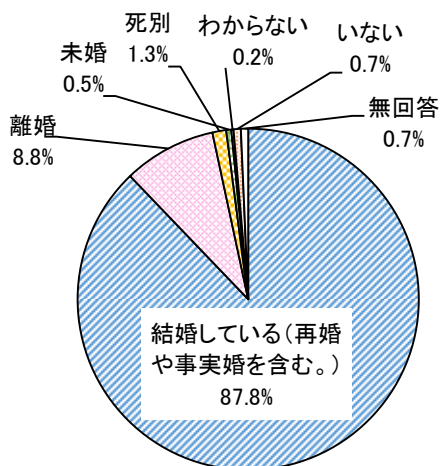
(5) 単身赴任者の有無

問4 お子さんのご家族のうち、現在単身赴任中の方はいらっしゃいますか。(1~3については、あてはまるものすべてに○)



(6) 親の婚姻状況

問5 お子さんと同居し、生計を同一にしている親の婚姻状況を教えてください。(あてはまるもの1つに○)



全体(n=1455)

【全体】

親の婚姻状況について、9割弱が結婚しており、「離婚」又は「未婚」、「死別」の割合は約1割となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-1 参照)

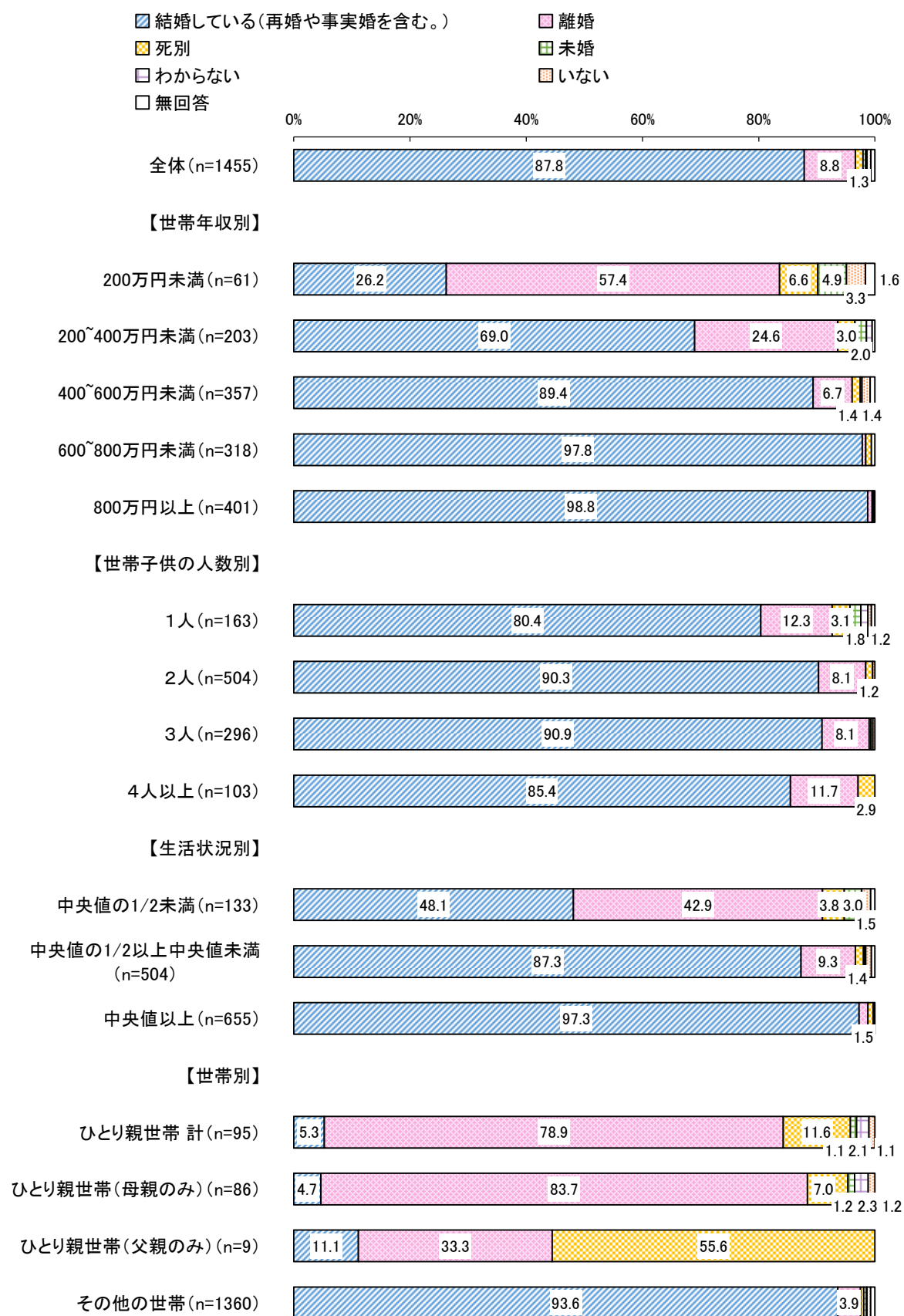
世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど「離婚」や「死別」の割合が高い傾向にある。

世帯子供の人数別では、大きな差は見られない。

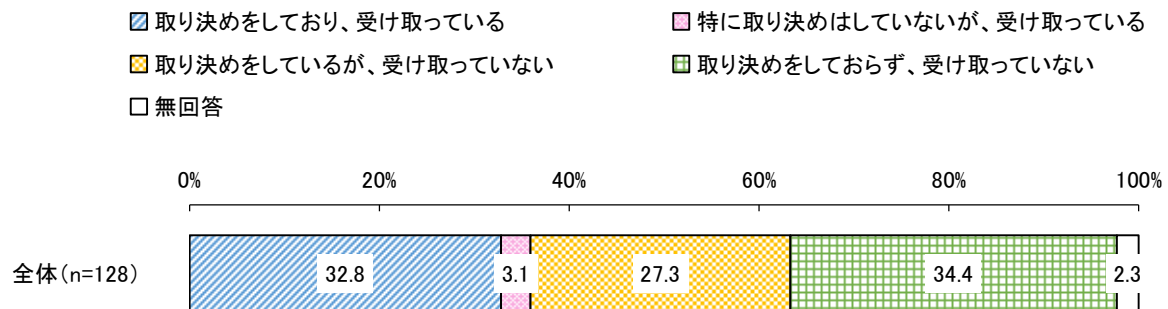
生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど「離婚」や「死別」の割合が高い傾向にある。

世帯別にみると、ひとり親世帯のうち母親のみの世帯では「離婚」(83.7%)、父親のみ世帯の世帯では「死別」(55.6%)の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-1-1 親の婚姻状況（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



問6 前問で「2 離婚」を選んだ場合、離婚相手と子供の養育費の取り決めをしていますか。また養育費を現在受け取っていますか。(あてはまるもの1つに○)



【全体】

離婚相手と子供の養育費の取り決めについて、「取り決めをしておらず、受け取っていない」(34.4%)の割合が最も高く、次いで「取り決めをしており、受け取っている」(32.8%)、「取り決めをしているが、受け取っていない」(27.3%)となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-2 参照)

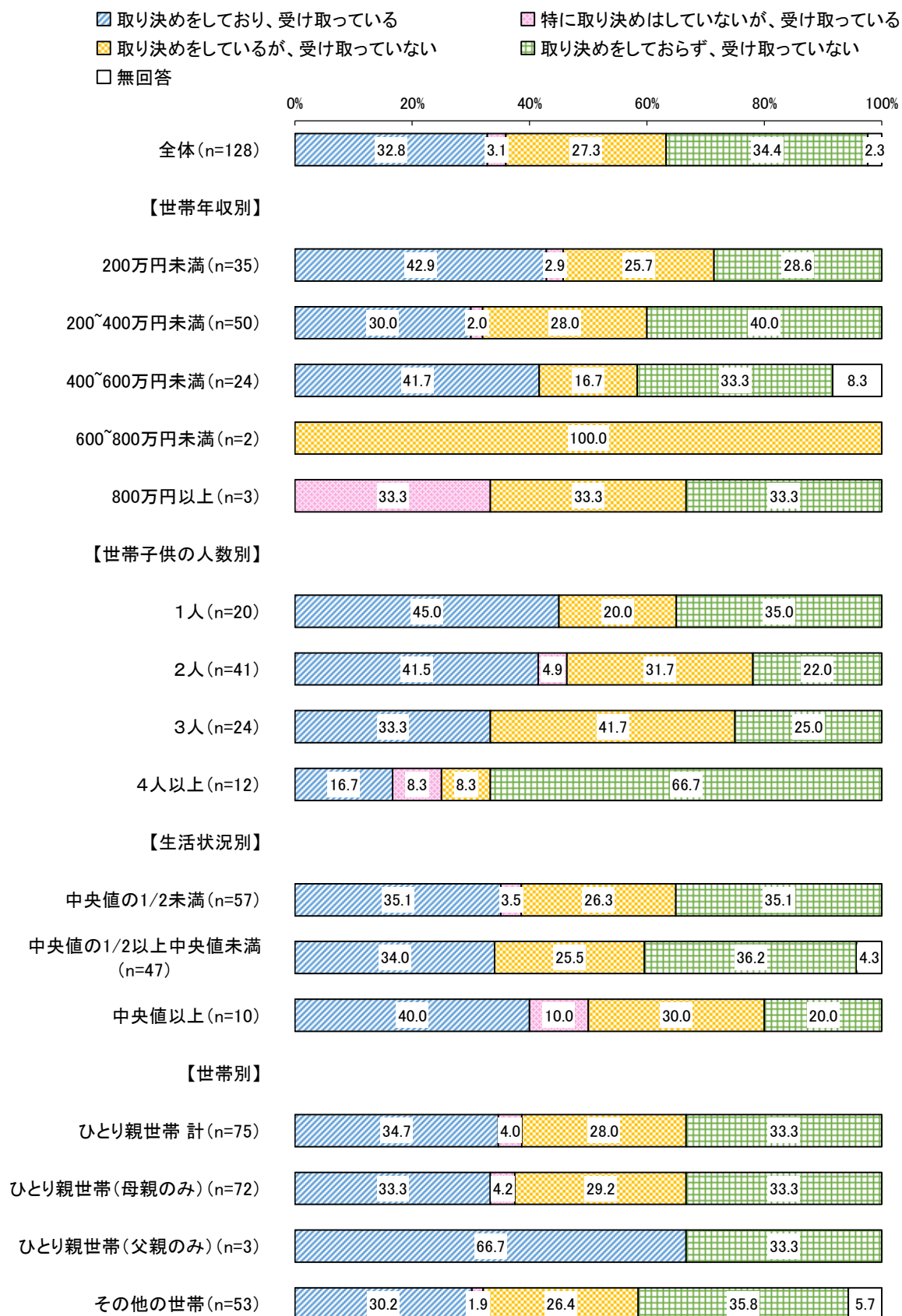
世帯年収別では、高年収世帯の該当者数が少ないため参考値としてグラフのみの掲載とする。

世帯子供の人数別にみると、取り決めしているしていないにかかわらず、子供の人数が多いほど養育費を受け取っていない傾向にある。

生活状況別にみると、「中央値の1/2未満」と「中央値の1/2以上中央値未満」で「取り決めをしておらず、受け取っていない」の割合が高い傾向にある。

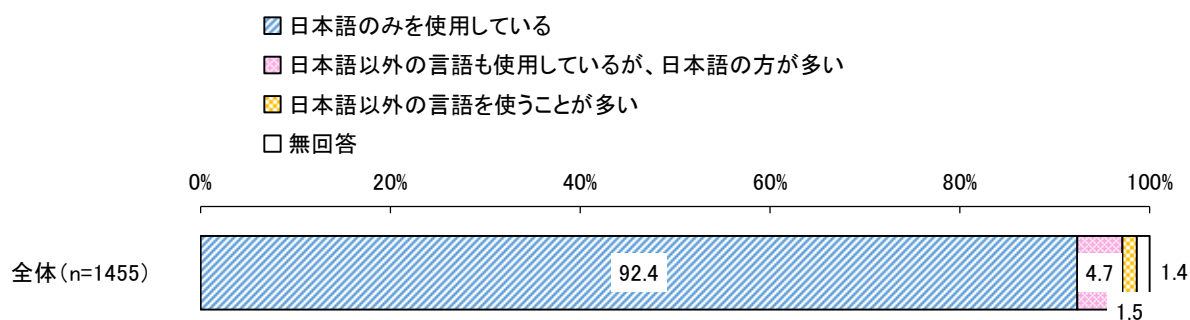
世帯別では、ひとり親世帯(父親のみ)の該当者数が少ないため参考値としてグラフのみの掲載とする。

図表Ⅱ-1-2 子供の養育費の取り決め（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



(7) 家庭で使用している言語

問7 ご家庭ではどれくらい、日本語以外の言語を使用していますか。(あてはまるもの1つに○)



【全体】

家庭での日本語以外の言語の使用について、「日本語のみを使用している」が9割以上となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-3 参照)

世帯年収別にみると、200万円未満の世帯で「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」の割合がやや高く、約1割となっている。

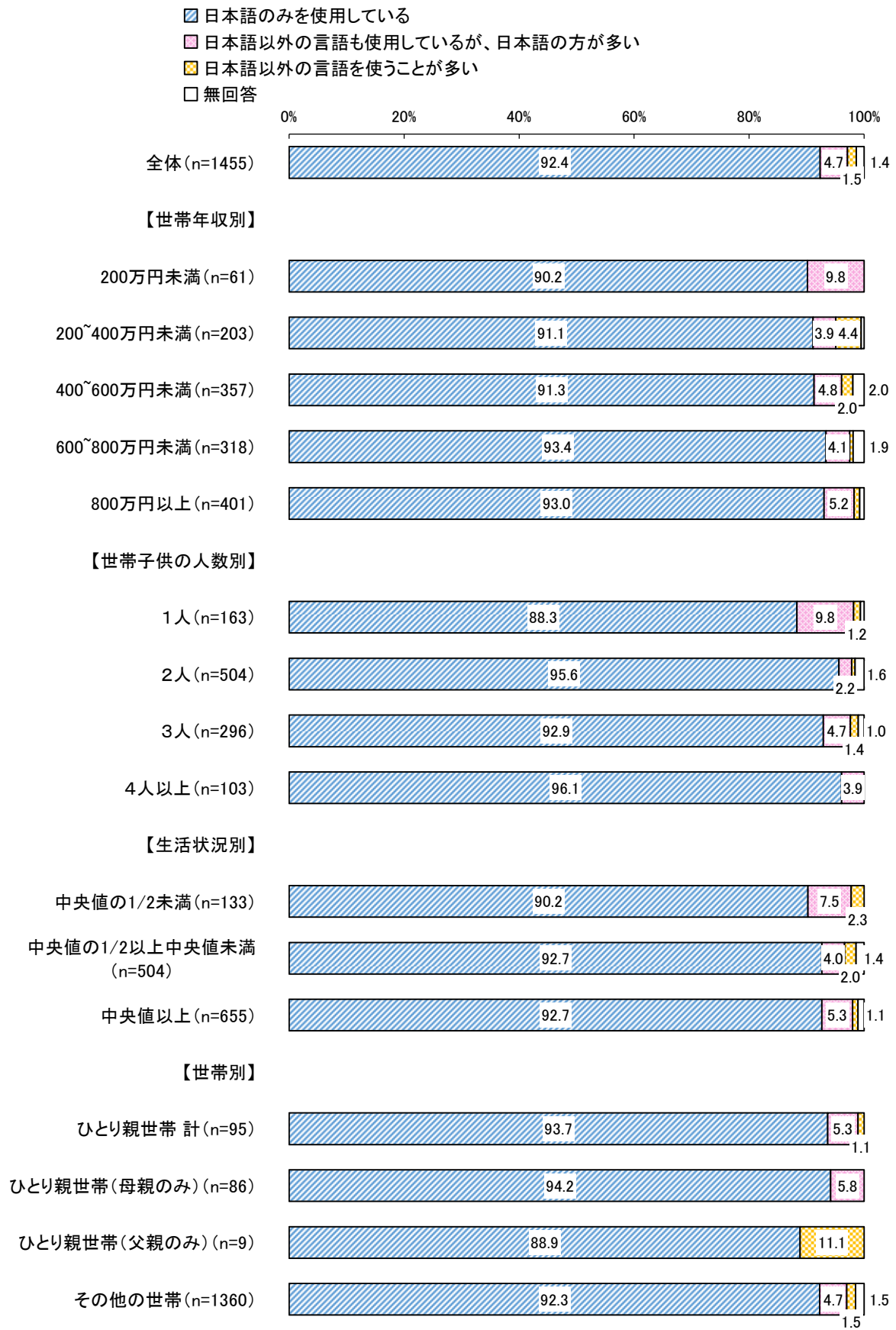
世帯子供の人数別にみると、子供の人数が1人の世帯で「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」の割合がやや高く、約1割となっている。

生活状況別にみると、「中央値の1/2未満」で「中央値以上」や「中央値の1/2以上中央値未満」より「日本語以外の言語も使用しているが、日本語の方が多い」の割合がやや高く、1割弱となっている。

世帯別では、大きな差は見られない。

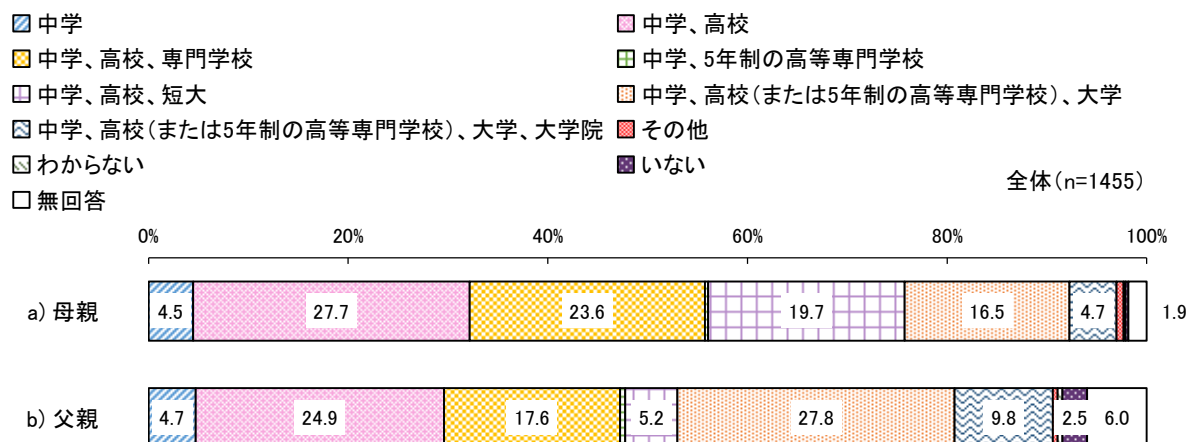
図表Ⅱ-1-3 参照 家庭で使用している言語

(世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別)



(8) 親の学歴

問8 お子さんの親が卒業・修了した学校をお答えください。(a, b それぞれについて、あてはまるものひとつに○)



【全体】

お子さんの親が卒業・修了した学校について、母親では「中学、高校」(27.7%)の割合が最も高く、次いで「中学、高校、専門学校」(23.6%)、「中学、高校、短大」(19.7%)の順となっている。一方、父親では「中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学」(27.8%)の割合が最も高く、次いで「中学、高校」(24.9%)、「中学、高校、専門学校」(17.6%)の順となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-4 参照)

世帯年収別にみると、母親、父親ともに、世帯年収が低いほど高校までの割合が高い傾向にあり、200万円未満の世帯の母親では「中学、高校」までが過半数を占めている。

世帯子供の人数別にみると、母親、父親ともに、「中学、高校」の割合は子供の人数が多いほど高い傾向にある。

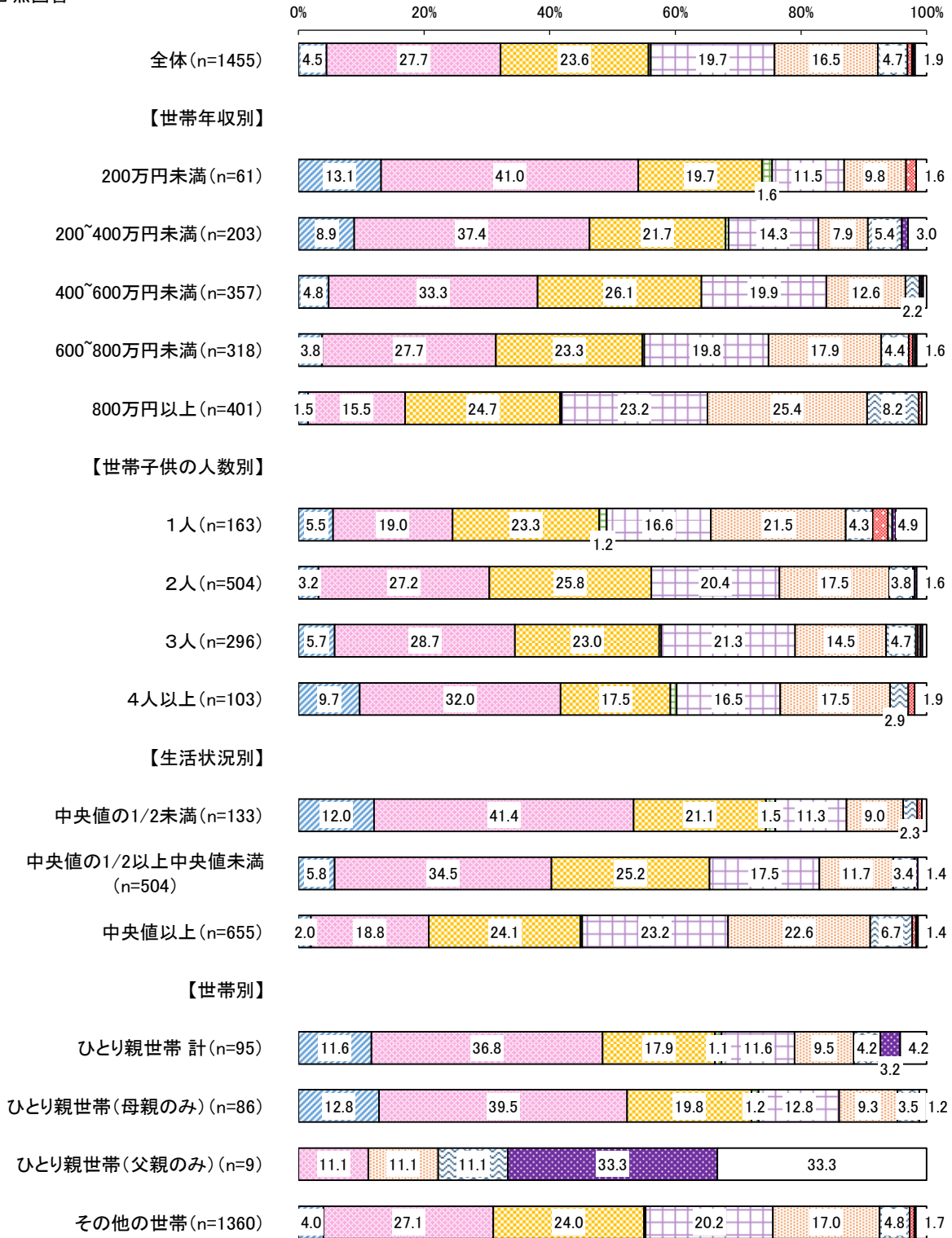
生活状況別にみると、母親では等価世帯収入が低いほど「中学、高校」までの割合が高い傾向にあり、「中央値の1/2未満」では過半数を占めている。

世帯別にみると、ひとり親世帯(母親のみ)で「中学、高校」までの割合が高く、過半数を占めている。

図表Ⅱ-1-4 親の婚姻状況（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

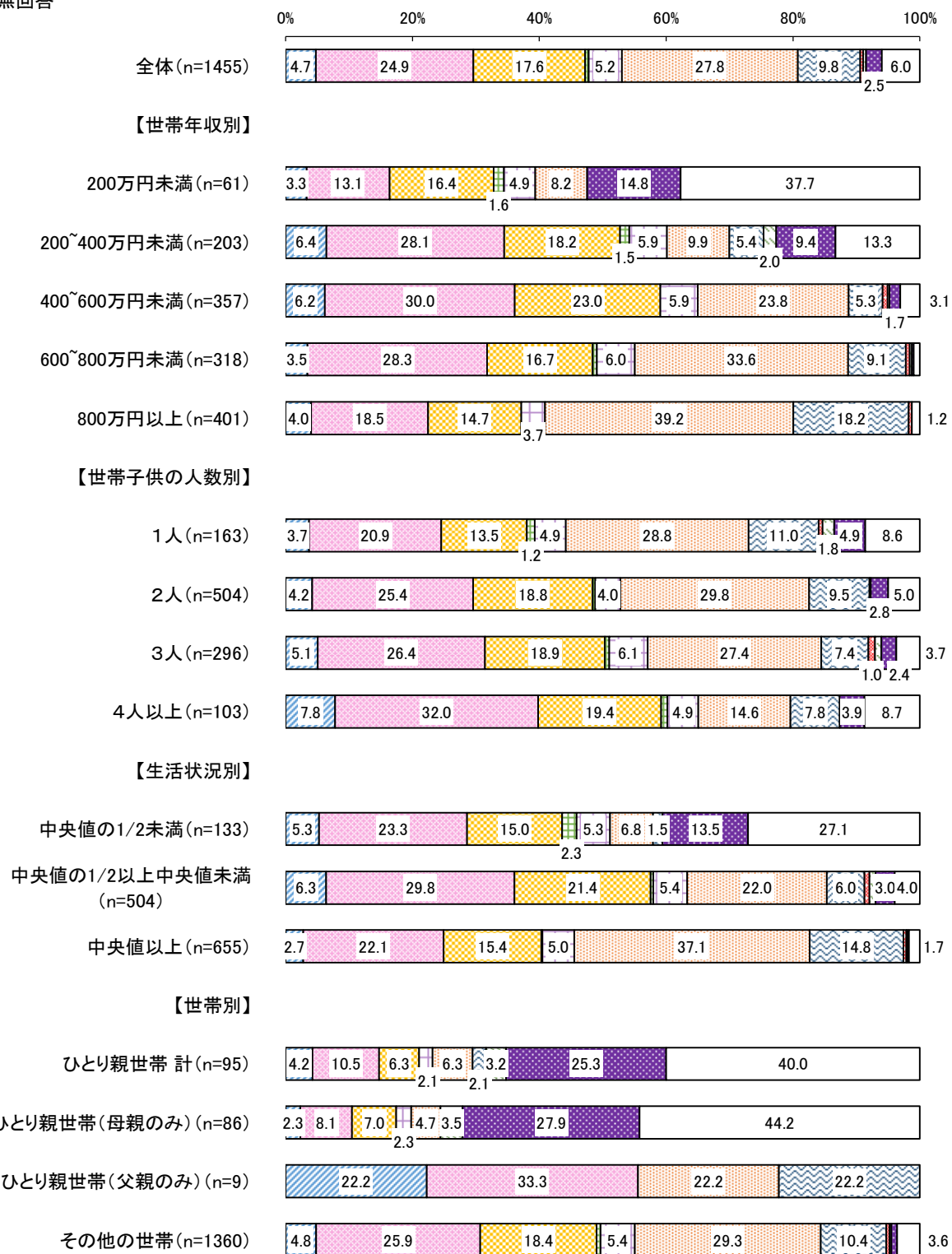
a) 母親

- 中学
- 中学、高校、専門学校
- 中学、高校、短大
- 中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院
- 中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院
- わからない
- 無回答
- 中学、高校
- 中学、5年制の高等専門学校
- 中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学
- その他
- いない



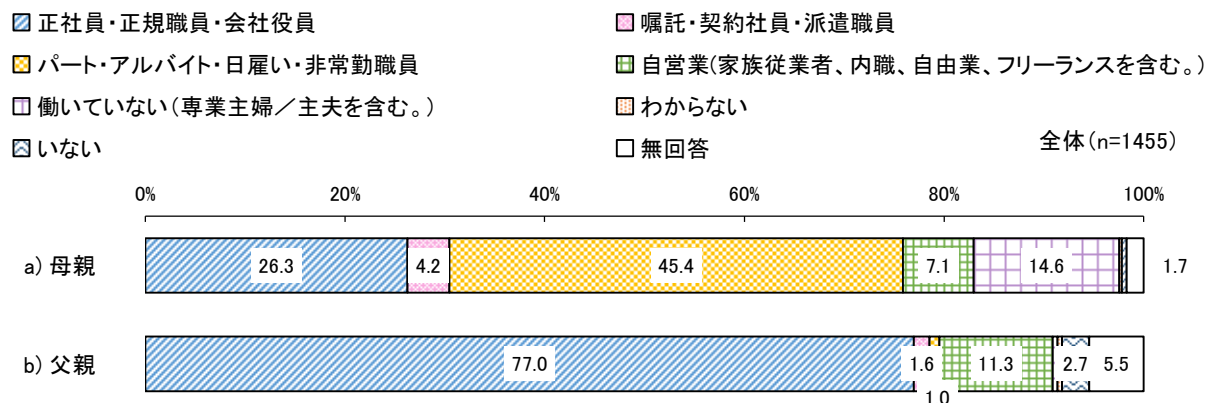
b) 父親

- 中学
- 中学、高校、専門学校
- 中学、高校、短大
- 中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学、大学院
- わからない
- 無回答
- 中学、高校
- 中学、5年制の高等専門学校
- 中学、高校(または5年制の高等専門学校)、大学
- その他
- いない



(9) 親の就労状況

問9 お子さんの親の就労状況について、あてはまるものを回答してください。(a, b それぞれについて、あてはまるものひとつに○)



【全体】

お子さんの親の就労状況について、母親では「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」(45.4%)の割合が最も高く、次いで「正社員・正規職員・会社役員」(26.3%)、「働いていない(専業主婦/主夫を含む。)」(14.6%)の順となっている。一方、父親では「正社員・正規職員・会社役員」(77.0%)の割合が7割以上で最も高く、次いで「自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)」(11.3%)となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-5 参照)

世帯年収別にみると、母親、父親ともに、世帯年収が低いほど「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低い傾向にある。

世帯子供の人数別にみると、母親では子供の人数が4人以上の世帯で「働いていない(専業主婦/主夫を含む。)」の割合が高く、2割強となっている。

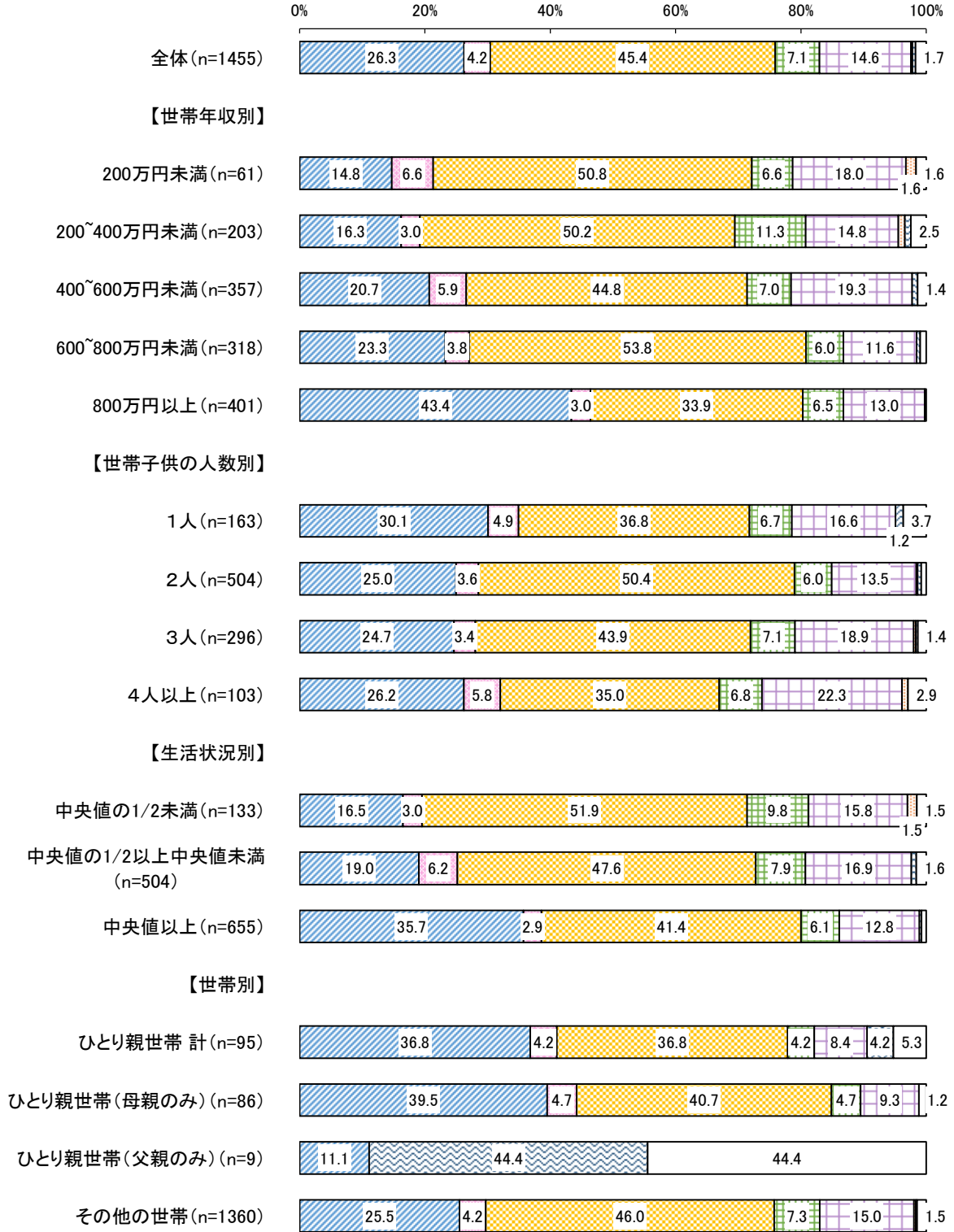
生活状況別にみると、母親、父親ともに、等価世帯収入が低いほど「正社員・正規職員・会社役員」の割合が低く、「パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員」の割合が高い傾向にある。

世帯別にみると、ひとり親世帯の母親では、その他の世帯の母親より「働いていない(専業主婦/主夫を含む。)」の割合が低い。

図表Ⅱ-1-5 親の就労状況（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

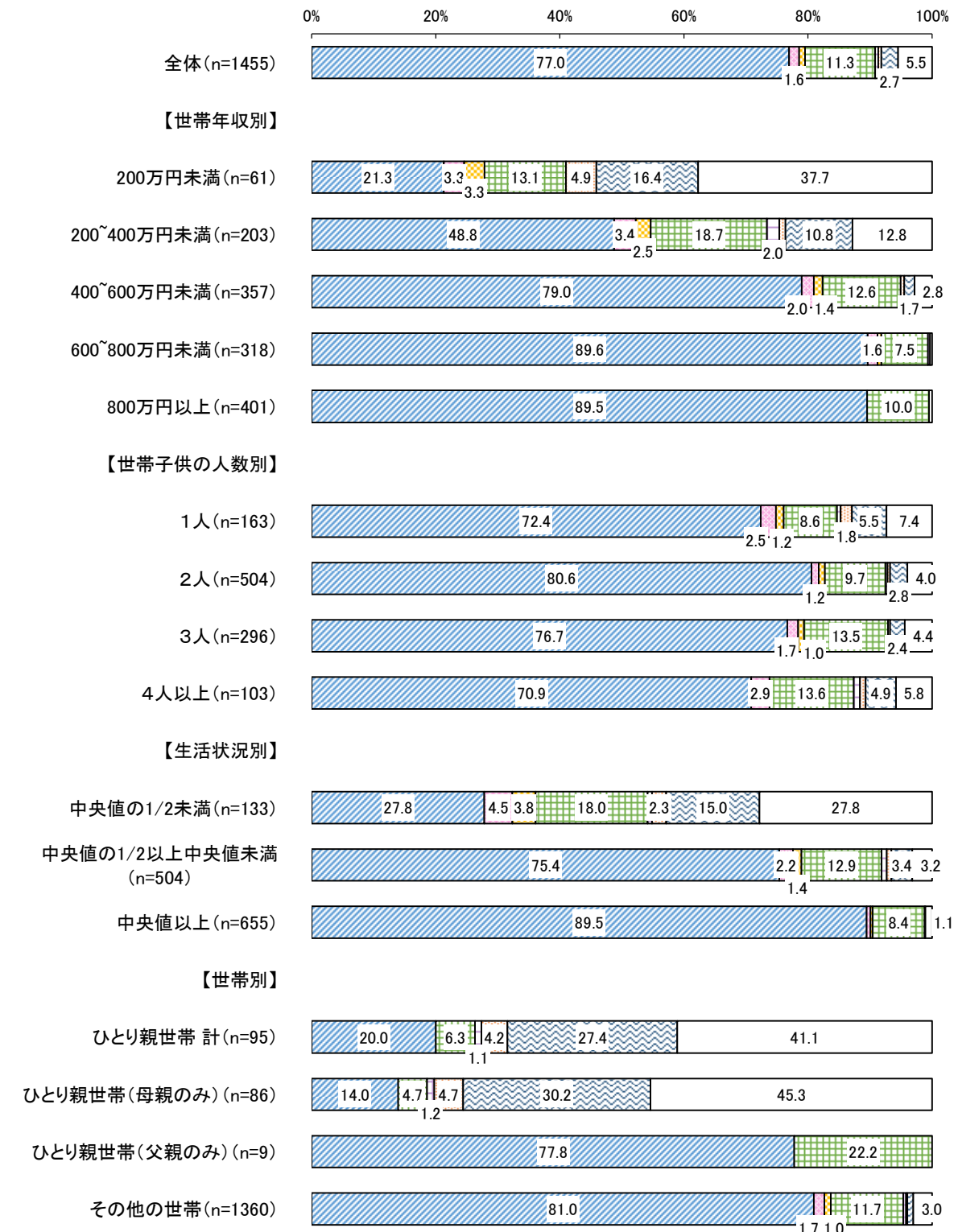
a) 母親

- 正社員・正規職員・会社役員
- パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員
- 働いていない(専業主婦/主夫を含む。)
- いない
- 嘱託・契約社員・派遣職員
- 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)
- わからない
- 無回答

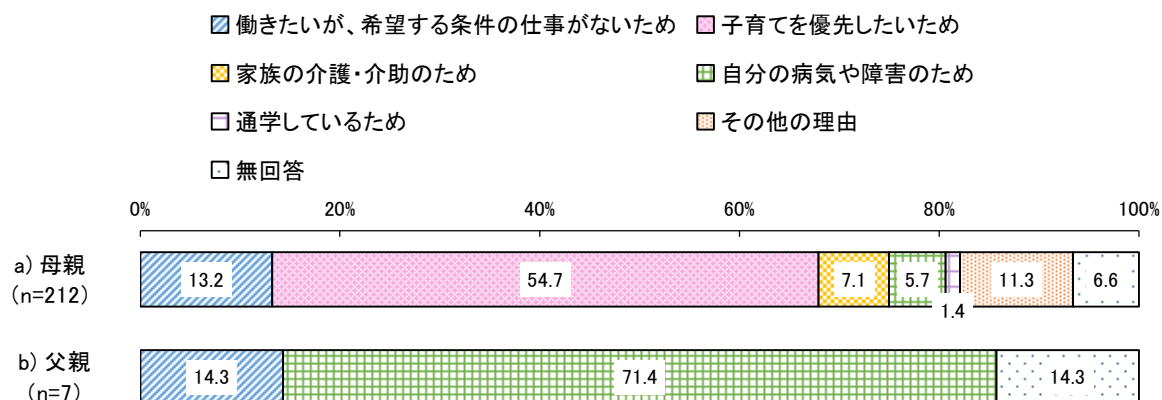


b) 父親

- 正社員・正規職員・会社役員
- パート・アルバイト・日雇い・非常勤職員
- 働いていない(専業主婦/主夫を含む。)
- いない
- 嘱託・契約社員・派遣職員
- 自営業(家族従業者、内職、自由業、フリーランスを含む。)
- わからない
- 無回答



問10 前の質問で「5 働いていない」と答えた場合、働いていない最も主な理由を教えてください。(a, bそれぞれについて、あてはまるものひとつに○)



【全体】

働いていない最も主な理由について、母親では「子育てを優先したいため」(54.7%)の割合が最も高く、過半数を占めている。次いで「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」(13.2%)となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-6 参照)

世帯年収別にみると、母親では世帯年収が低いほど「自分の病気や障害のため」の割合が高く、「子育てを優先したいため」の割合が低い傾向にある。

世帯子供の人数別にみると、母親では子供の人数が3人以上の世帯で「子育てを優先したいため」の割合が高く、6割以上となっている。子供の人数が2人の世帯では「働きたいが、希望する条件の仕事がないため」(22.1%)の割合が高くなっている。

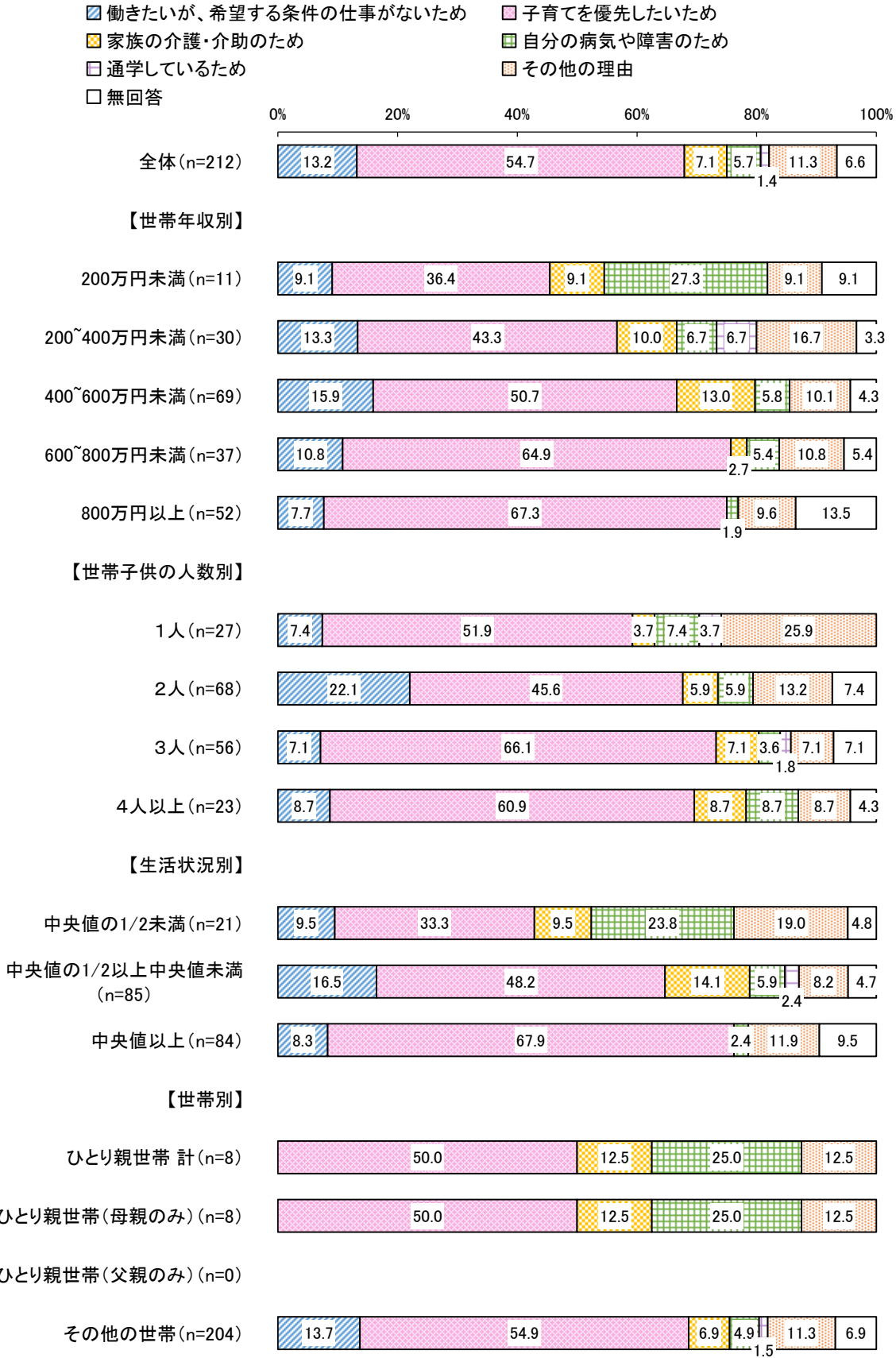
生活状況別にみると、母親では等価世帯収入が低いほど「自分の病気や障害のため」の割合が高く、「子育てを優先したいため」の割合が低い傾向にある。

世帯別では、該当者数が少ないため参考値としてグラフのみの掲載とする。

※父親は該当者数が少ないため参考値として全体グラフのみの掲載とする。

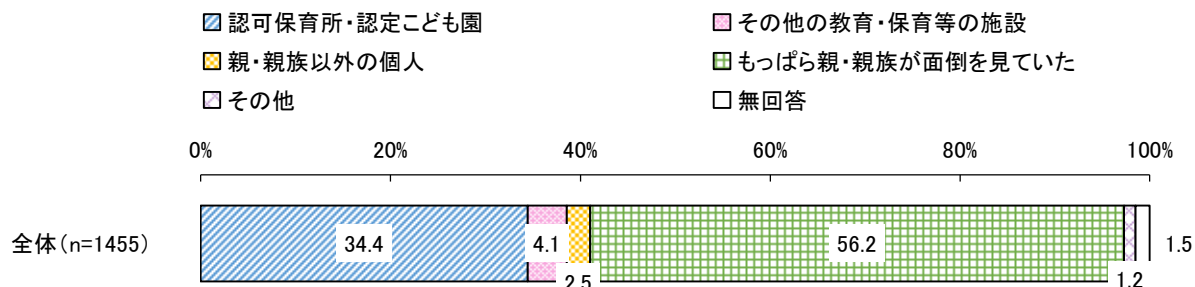
図表Ⅱ-1-6 働いていない理由（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

a) 母親



(10) 幼児期の教育

問11 お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）



【全体】

お子さんが0～2歳の間に通っていた教育・保育施設等について、「もっばら親・親族が面倒を見ていた」(56.2%)の割合が最も高く、過半数を占めている。次いで「認可保育所・認定こども園」(34.4%)が3割以上となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-7参照)

世帯年収別にみると、800万円未満までは世帯年収が高いほど「もっばら親・親族が面倒を見ていた」の割合が高く、世帯年収が低いほど「認可保育所・認定こども園」の割合が高い傾向にあるが、800万円以上の世帯では「認可保育所・認定こども園」の割合が高くなっている。

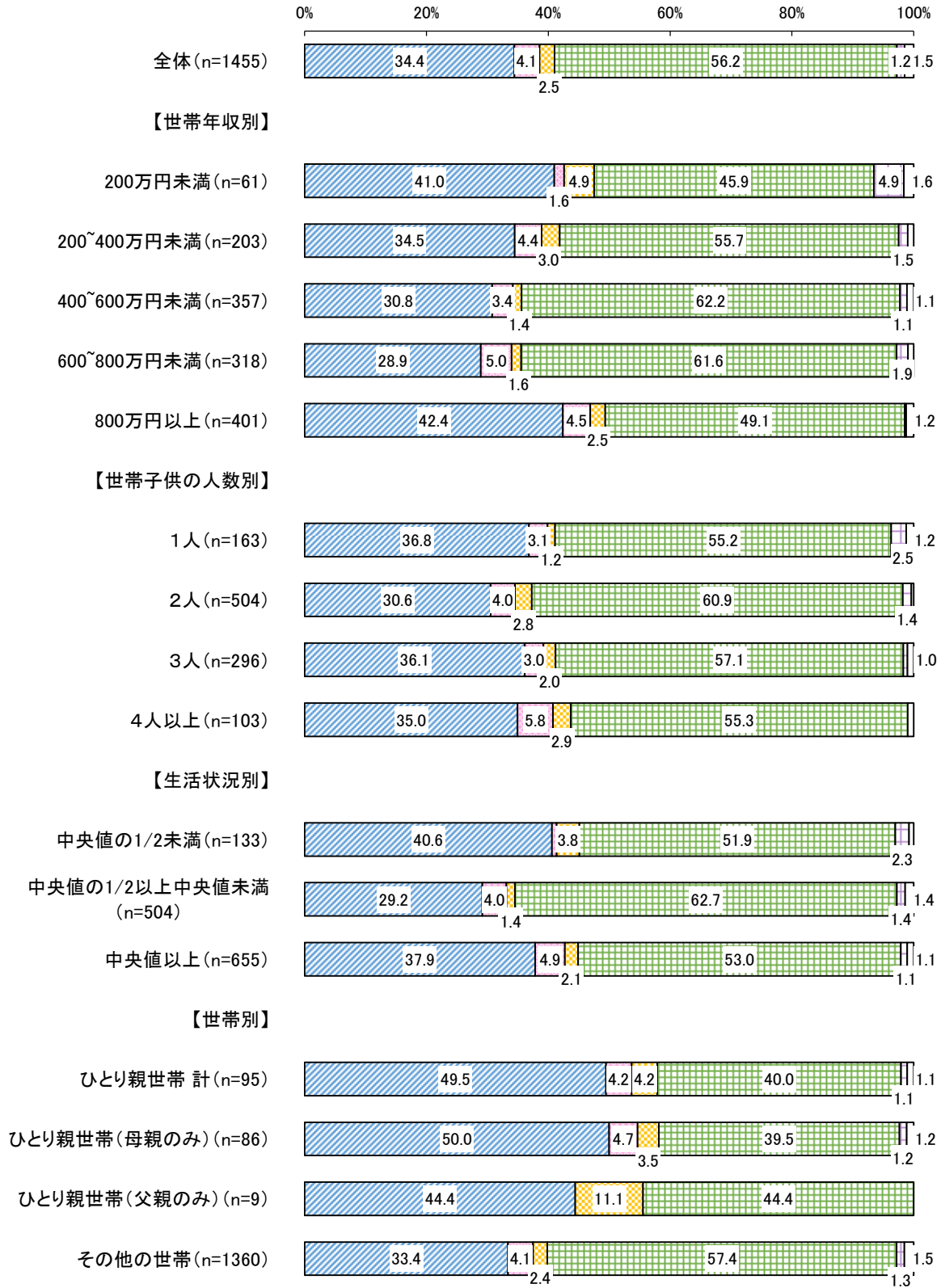
世帯子供の数別では、大きな差は見られない。

生活状況別にみると、「中央値の1/2以上中央値未満」では「中央値以上」や「中央値の1/2未満」と比べて「もっばら親・親族が面倒を見ていた」の割合が高く、「認可保育所・認定こども園」の割合が低くなっている。

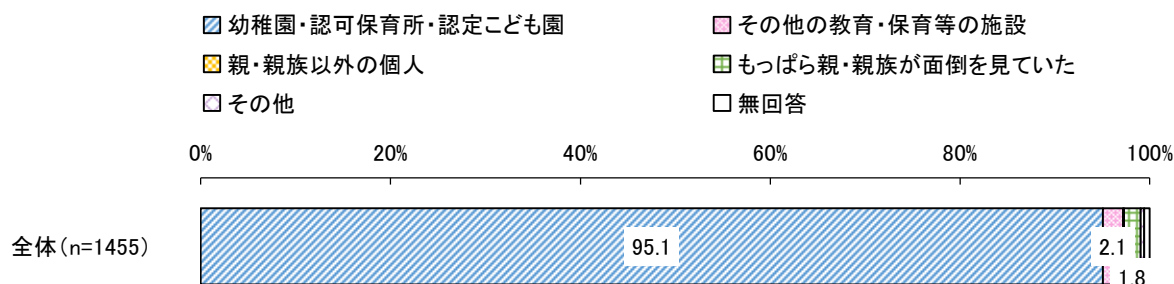
世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より「もっばら親・親族が面倒を見ていた」の割合が低く、「認可保育所・認定こども園」の割合が高くなっている。

図表Ⅱ-1-7 幼児期の教育（0～2歳）（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

- 認可保育所・認定こども園
- その他の教育・保育等の施設
- 親・親族以外の個人
- もっぱら親・親族が面倒を見ていた
- その他
- 無回答



問12 お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等で最も主なもの（期間が長いもの）をお答えください。（あてはまるもの1つに○）



【全体】

お子さんが3～5歳の間に通っていた教育・保育施設等について、「幼稚園・認可保育所・認定こども園」（95.1%）の割合が最も高く、9割以上を占めている。

【属性別】（図表Ⅱ-1-8 参照）

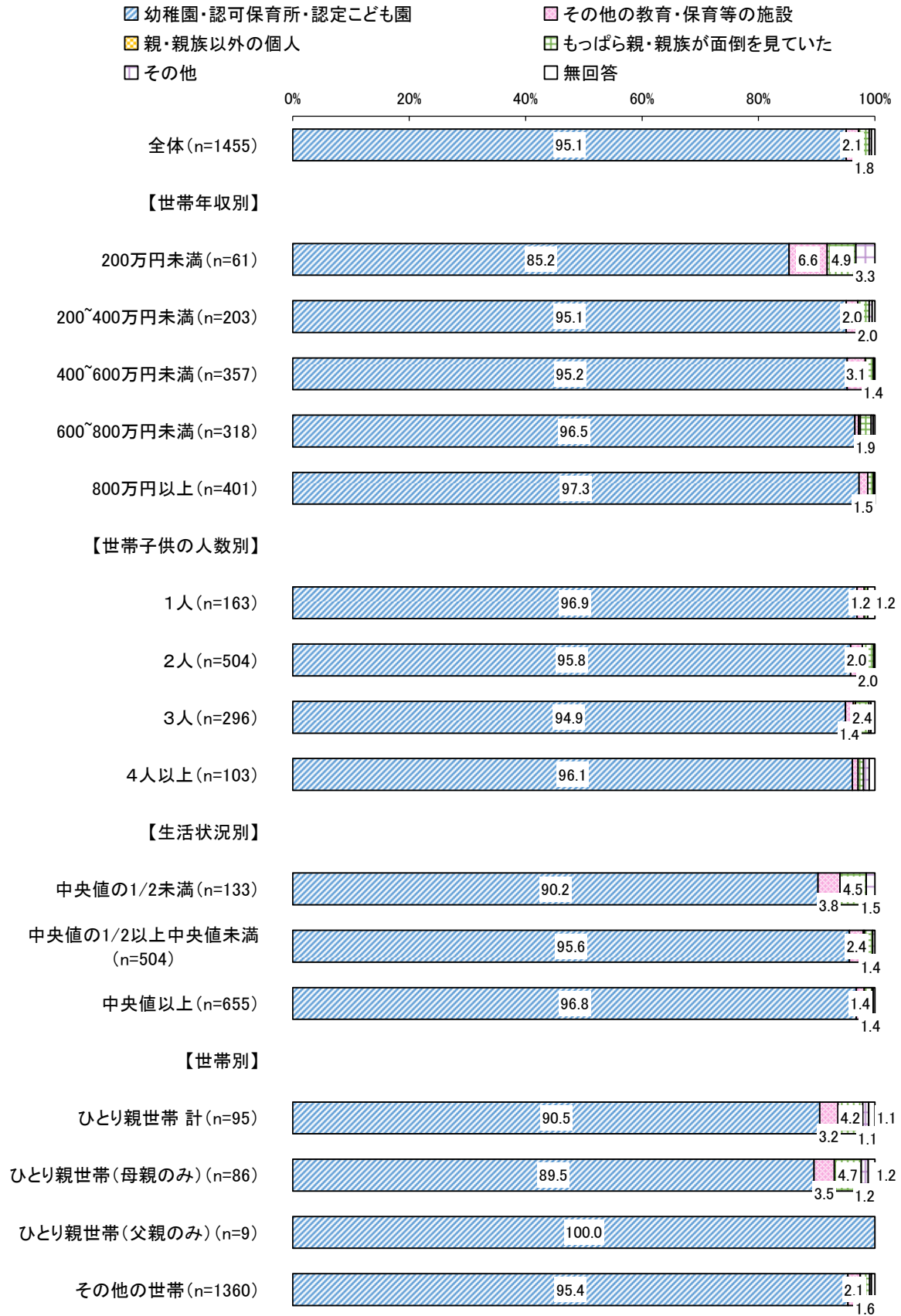
世帯年収別にみると、200万円未満の世帯では他の世帯より「その他の教育・保育等の施設」、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合がやや高くなっている。

世帯子供の人数別では、大きな差は見られない。

生活状況別にみると、「中央値の1/2未満」では「中央値以上」や「中央値の1/2以上中央値未満」より「その他の教育・保育等の施設」、「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合がやや高くなっている。

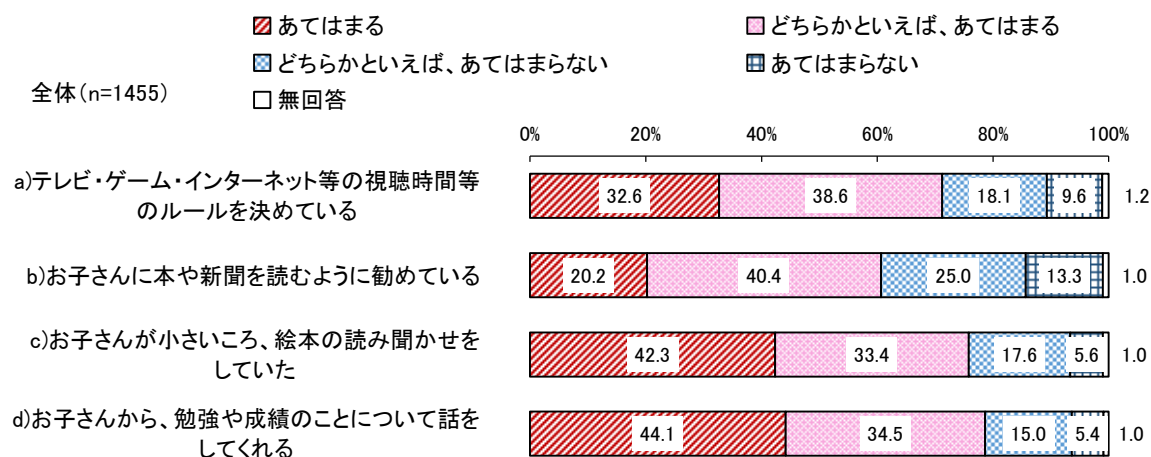
世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より「もっぱら親・親族が面倒を見ていた」の割合がやや高くなっている。

図表Ⅱ-1-8 幼児期の教育（3～5歳）（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



(11) 保護者の関わり方

問13 あなたとお子さんの関わり方について、次のようなことにどれくらい当てはまりますか。(a~dそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)



【全体】

お子さんとの関わり方について、「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合は、「a)テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている」が71.2%、「b)お子さんに本や新聞を読むように勧めている」が60.6%、「c)お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」が75.7%、「d)お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる」が78.6%となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-9 参照)

世帯年収別にみると、200万円未満の世帯ではすべての項目で「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が低くなっている。

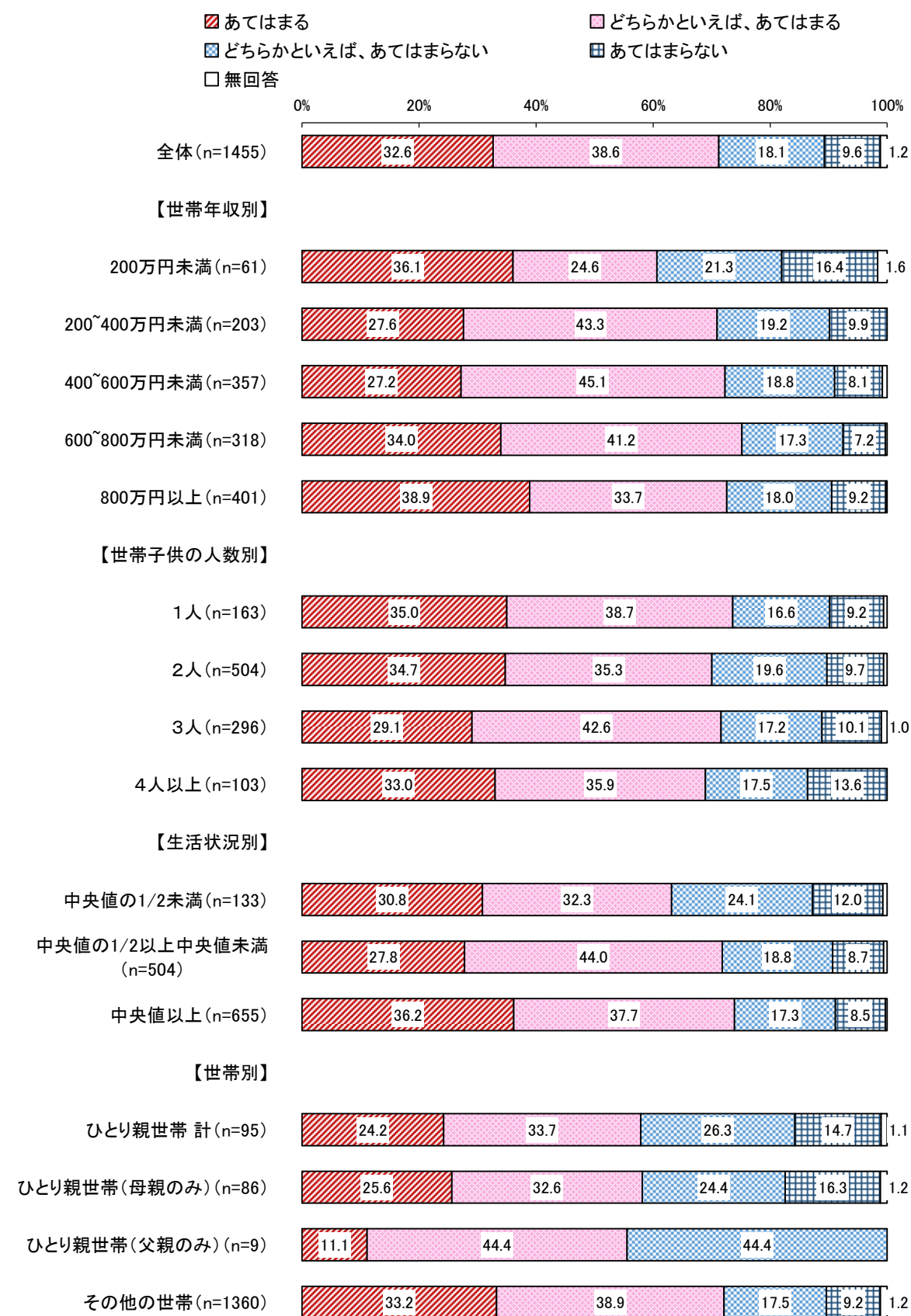
世帯子供の人数別にみると、「b)お子さんに本や新聞を読むように勧めている」と「c)お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」では、世帯子供の人数の少ないほど「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が高い傾向にある。

生活状況別にみると、「c)お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた」以外の項目すべてで等価世帯収入が低いほど「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が低い傾向にある。

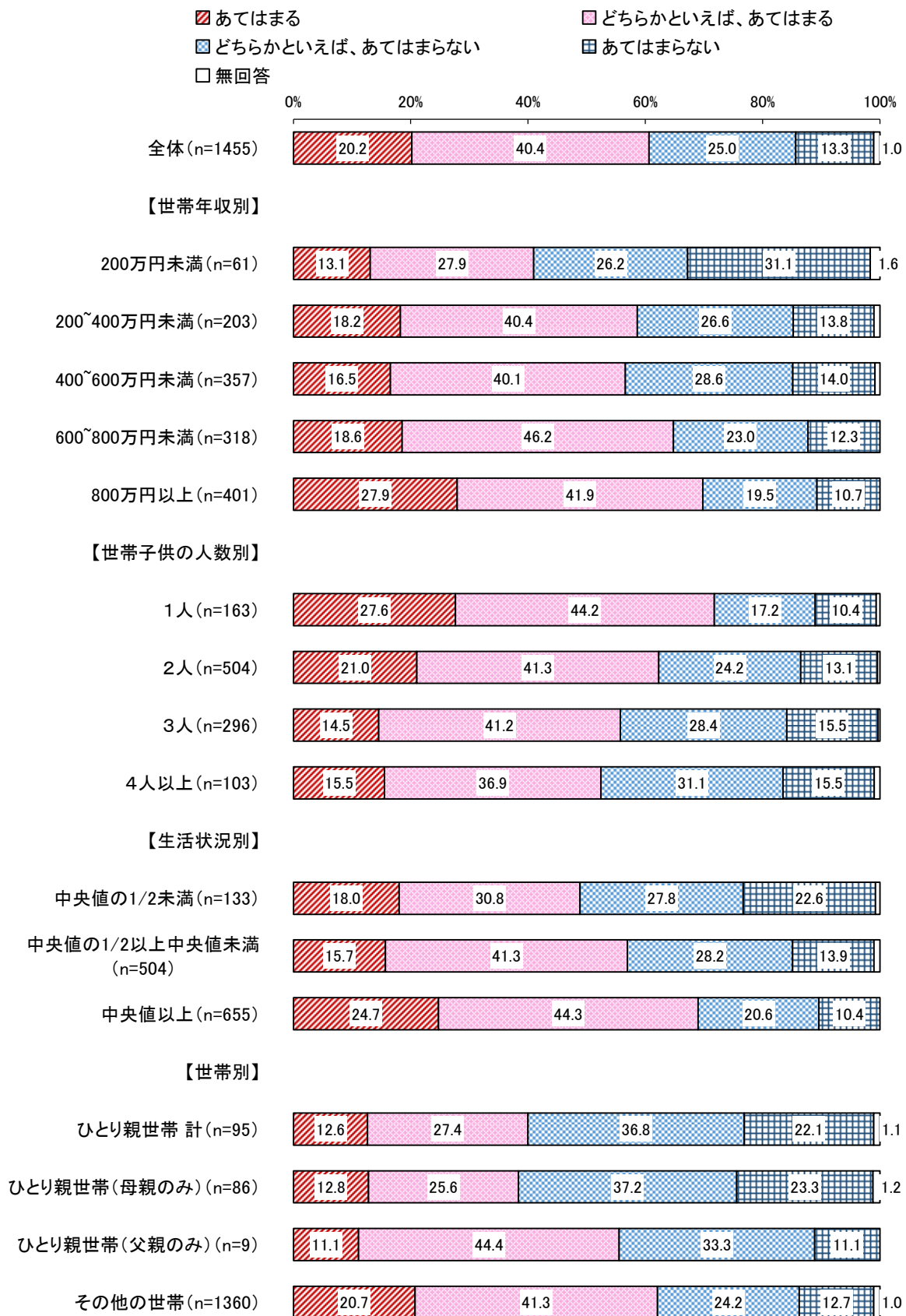
世帯別にみると、すべての項目でひとり親世帯はその他の世帯より「あてはまる」と「どちらかといえば、あてはまる」を合わせた割合が低くなっている。

図表Ⅱ-1-9 保護者の関わり方（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

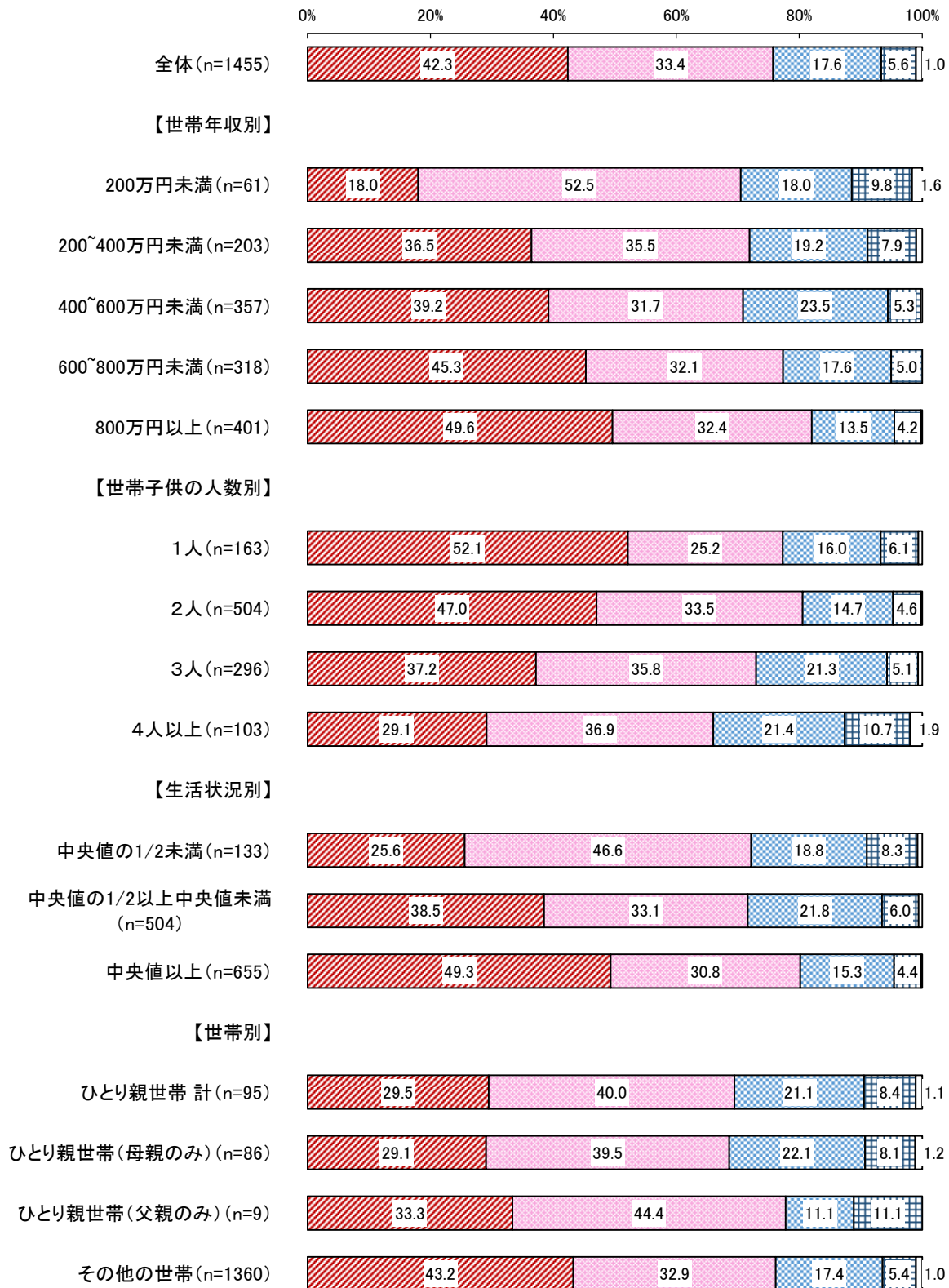
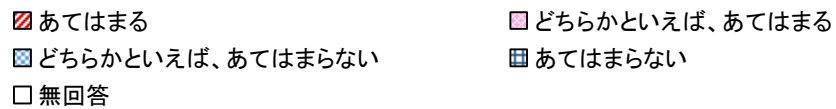
a) テレビ・ゲーム・インターネット等の視聴時間等のルールを決めている



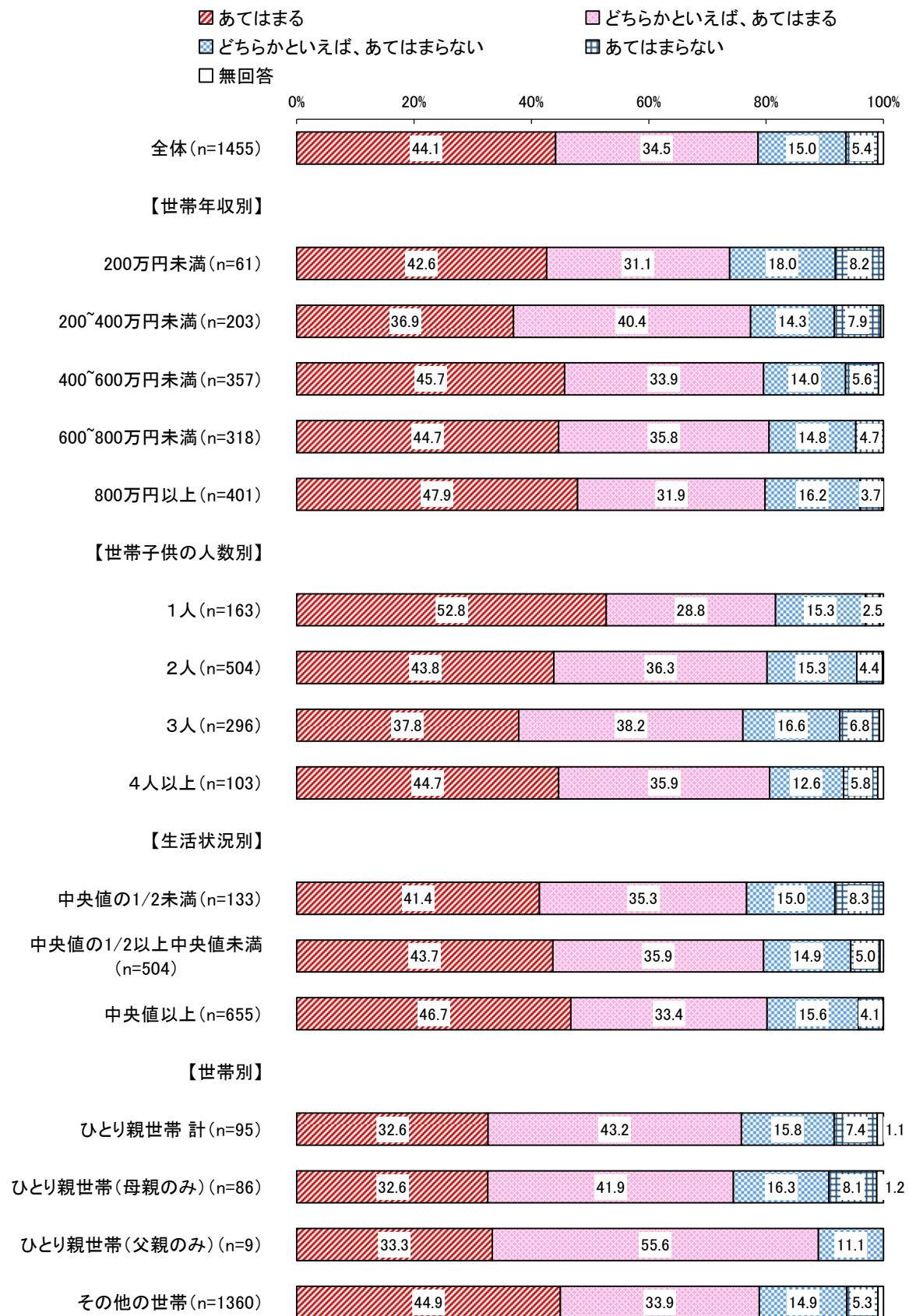
b) お子さんに本や新聞を読むように勧めている



c) お子さんが小さいころ、絵本の読み聞かせをしていた

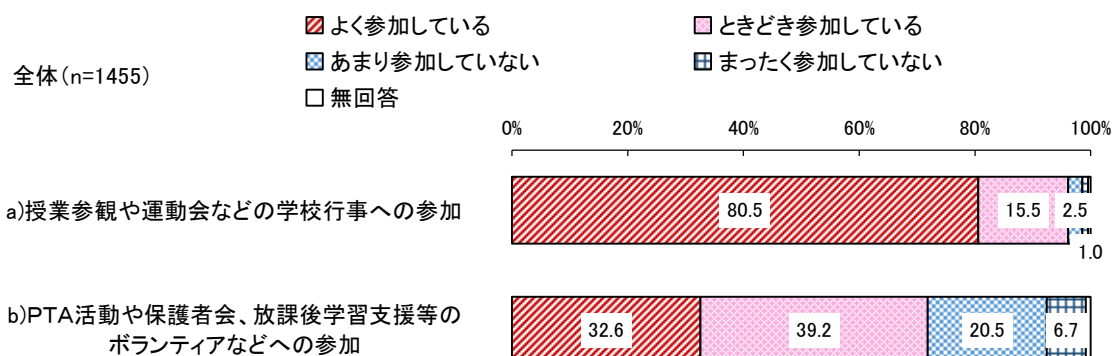


d) お子さんから、勉強や成績のことについて話をしてくれる



(12) 学校行事への参加

問14 あなたは、次のようなことをどの程度していますか。(a, b それぞれについて、あてはまるもの1つに○)



【全体】

学校行事等への参加について、「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合は、「a)授業参観や運動会などの学校行事への参加」が96.1%、「b)PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加」が71.8%となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-10参照)

世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど学校行事等への参加の割合が低い傾向にある。

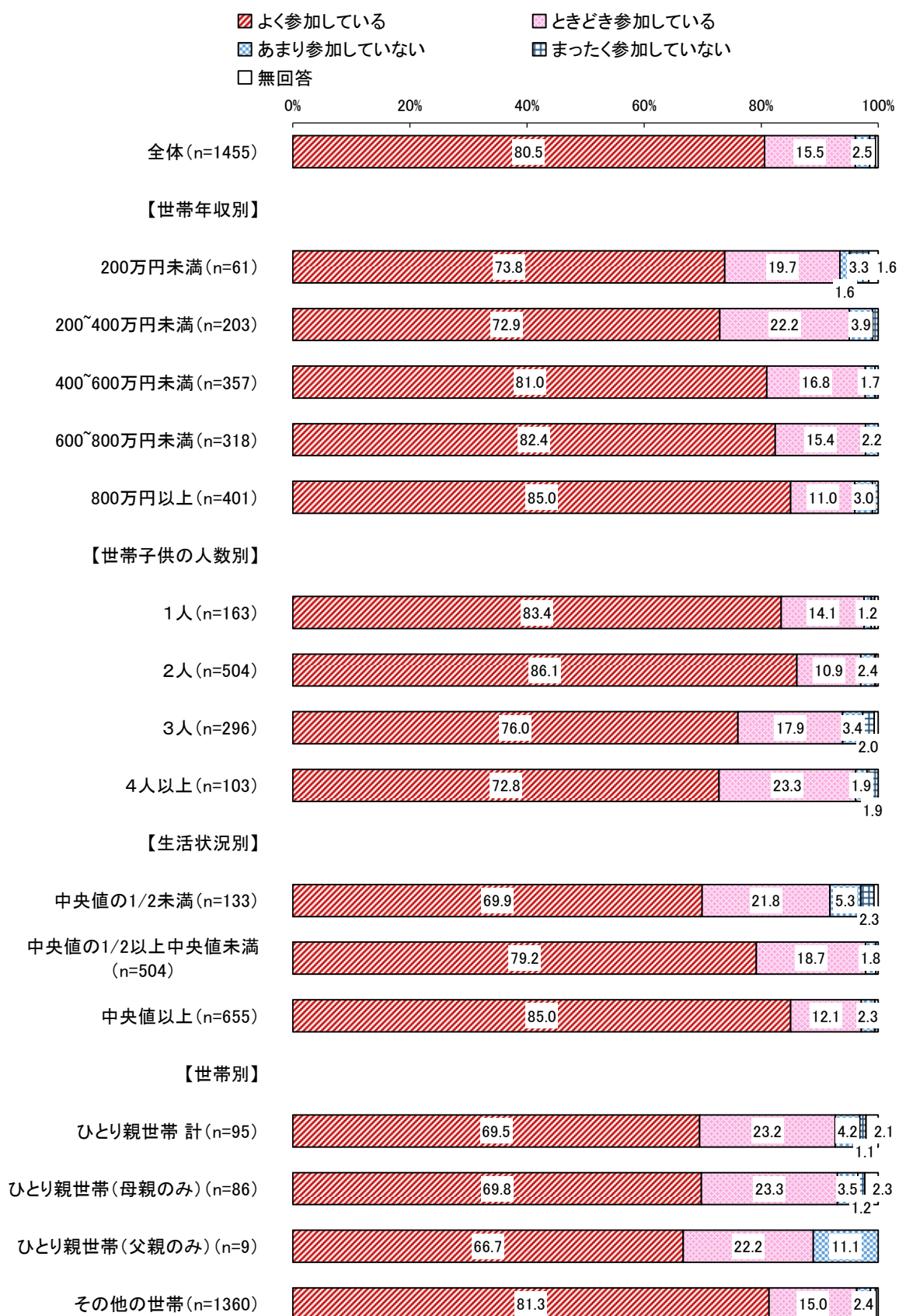
世帯子供の人数別にみると、子供の人数が2人の世帯では他の世帯より「b)PTA活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加」で「よく参加している」と「ときどき参加している」を合わせた割合が高くなっている。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど学校行事等への参加の割合が低い傾向にある。

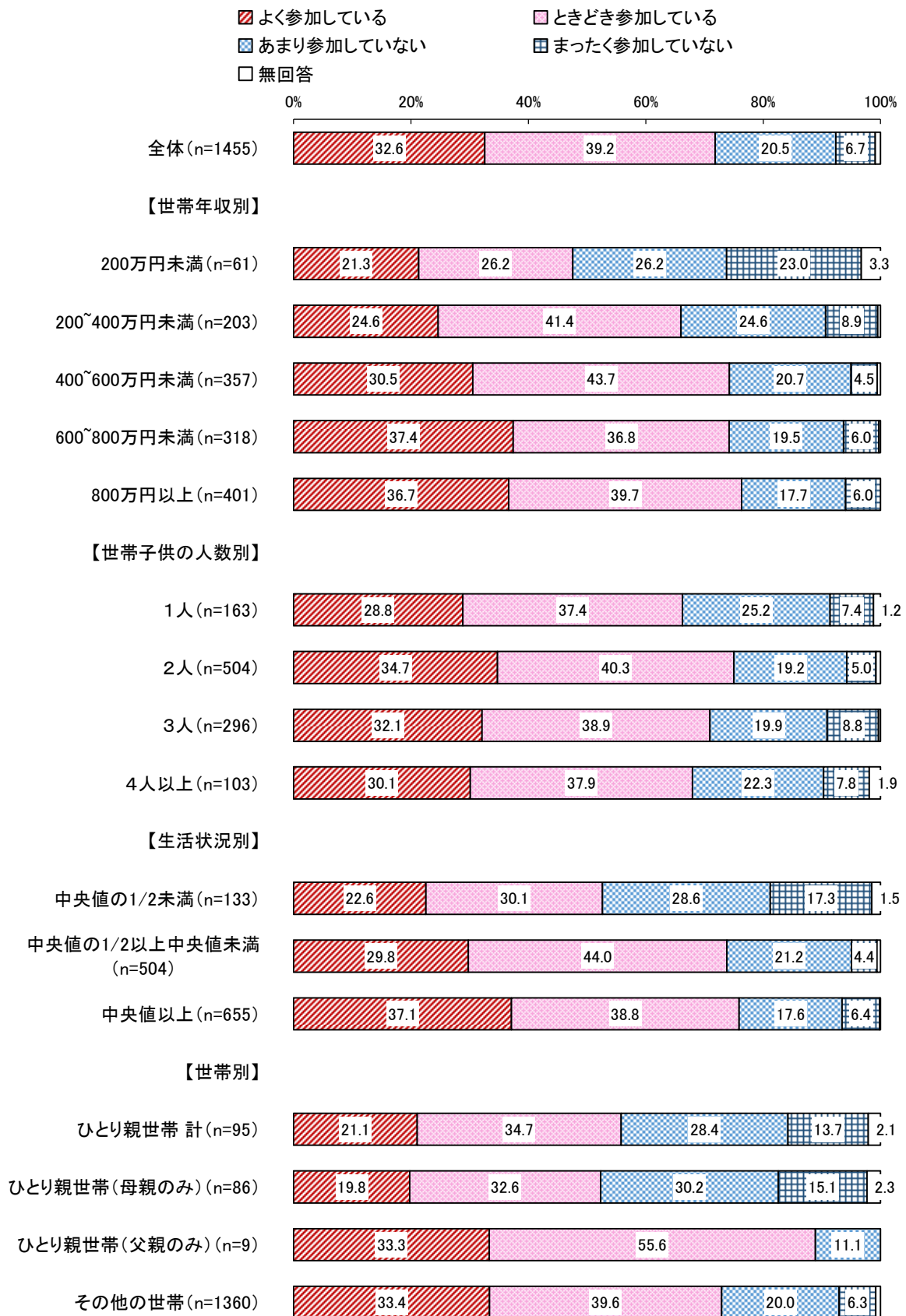
世帯別にみると、ひとり親世帯はその他の世帯より学校行事等への参加の割合が低くなっている。

図表Ⅱ-1-10 学校行事への参加（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

a) 授業参観や運動会などの学校行事への参加

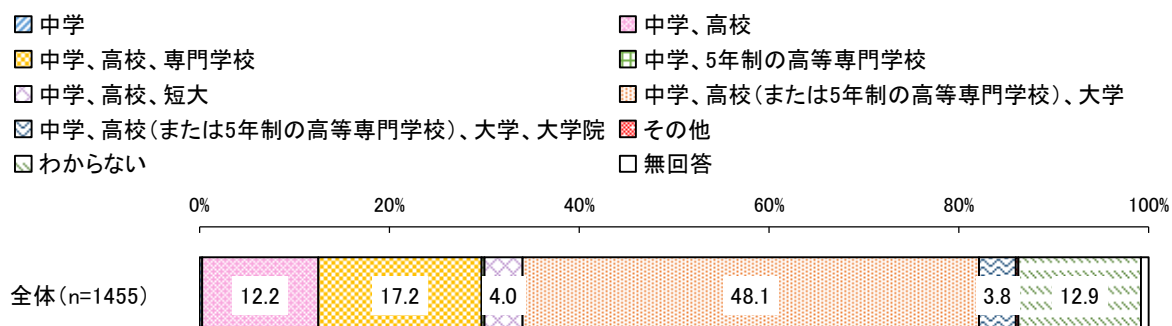


b) P T A 活動や保護者会、放課後学習支援等のボランティアなどへの参加



(13) 進学の見通し

問15 お子さんは将来、現実的に見てどの学校に進学すると思いますか。(あてはまるものひとつに○)



【全体】

お子さんの進学の見通しについて、「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」（48.1%）の割合が最も高く、次いで「中学、高校、専門学校」（17.2%）、「わからない」（12.9%）、「中学、高校」（12.2%）となっている。

【属性別】（図表Ⅱ-1-11 参照）

世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が低く、「中学、高校、専門学校」までの割合が高い傾向にある。

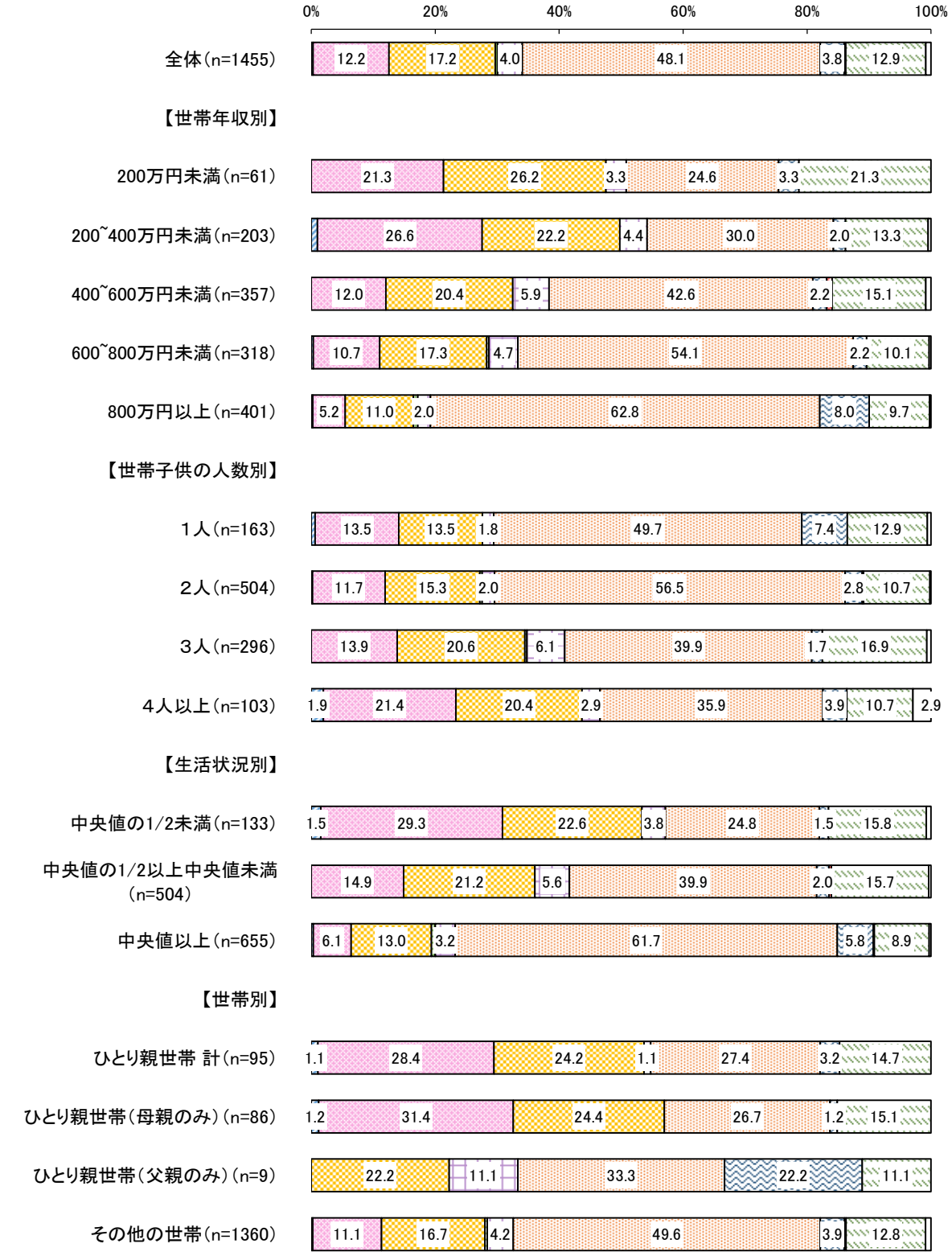
世帯子供の人数別にみると、子供の人数が2人以上の世帯では子供の人数が多いほど「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が低く、「中学、高校、専門学校」までの割合が高い傾向にある。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が低く、「中学、高校」までの割合が高い傾向にある。

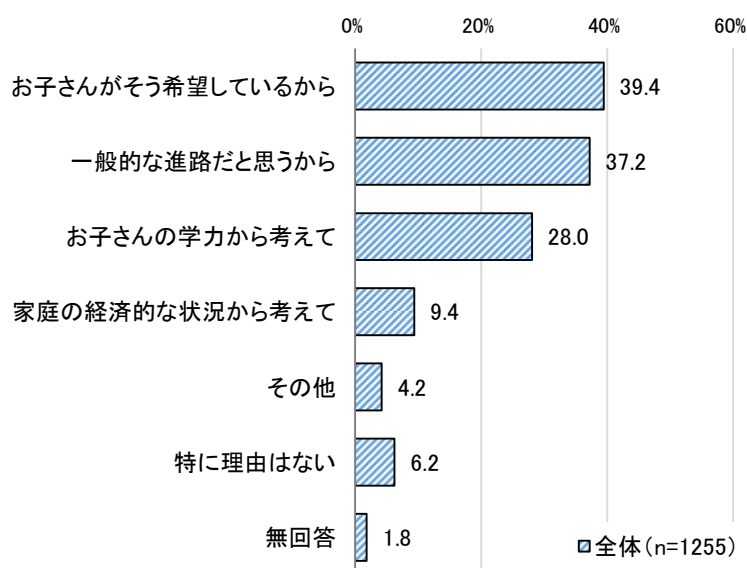
世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より「中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学」の割合が低く、「中学、高校」までの割合が高くなっている。

図表Ⅱ-1-11 進学の見通し（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

- 中学
- 中学、高校、専門学校
- 中学、高校、短大
- 中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学、大学院
- わからない
- 中学、高校
- 中学、5年制の高等専門学校
- 中学、高校（または5年制の高等専門学校）、大学
- その他
- 無回答



問16 前問で1～8と答えた場合、その理由は何ですか。(1～5については、あてはまるものすべてに○)



【全体】

お子さんの進学の見通しについてそう思う理由は、「お子さんがそう希望しているから」(39.4%)の割合が最も高く、次いで「一般的な進路だと思うから」(37.2%)、「お子さんの学力から考えて」(28.0%)となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-12 参照)

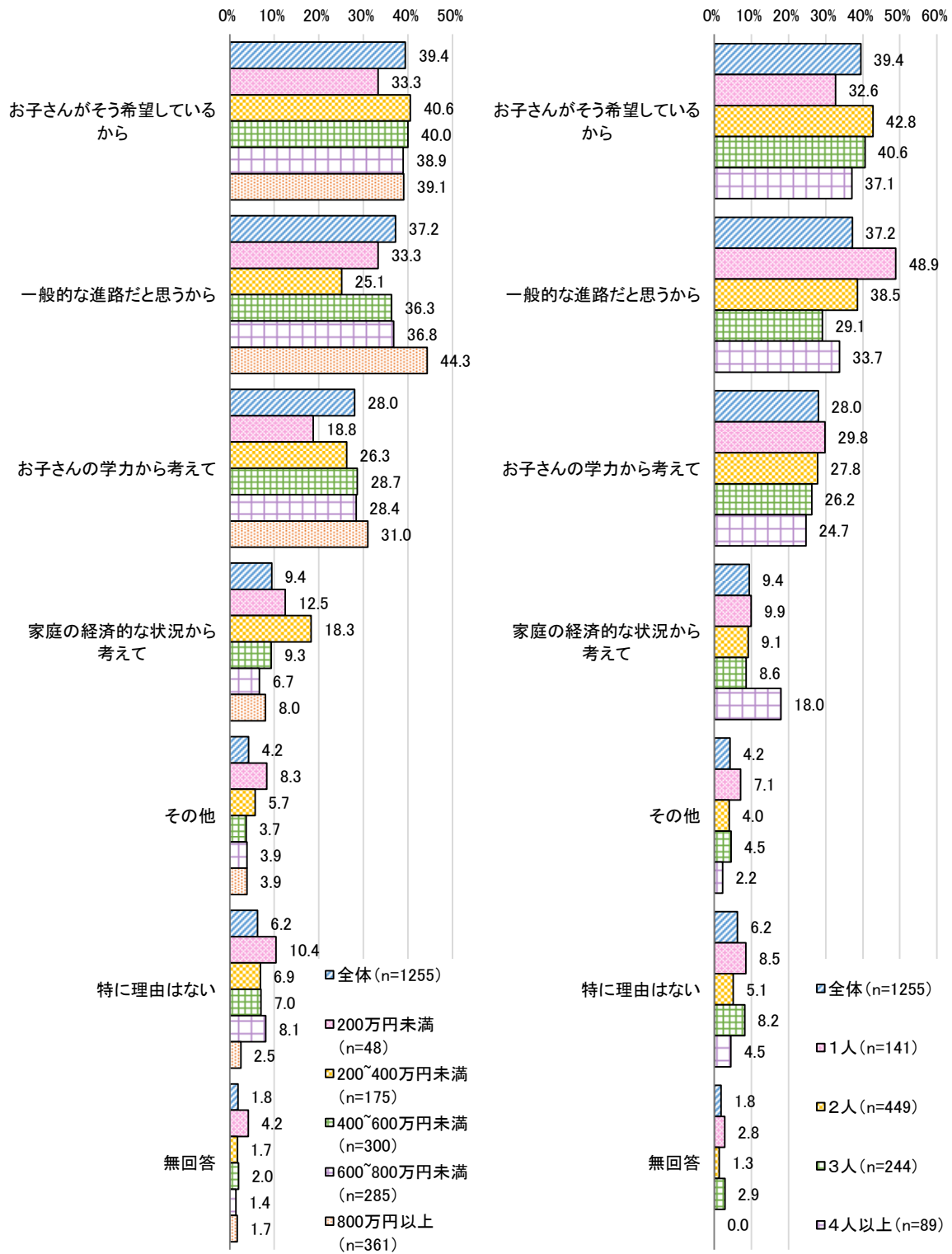
世帯年収別にみると、他の世帯と比べて200万円未満の世帯では「お子さんの学力から考えて」(18.8%)の割合が低く、200～400万円未満の世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」(18.3%)、800万円以上の世帯では「一般的な進路だと思うから」(44.3%)の割合が高くなっている。

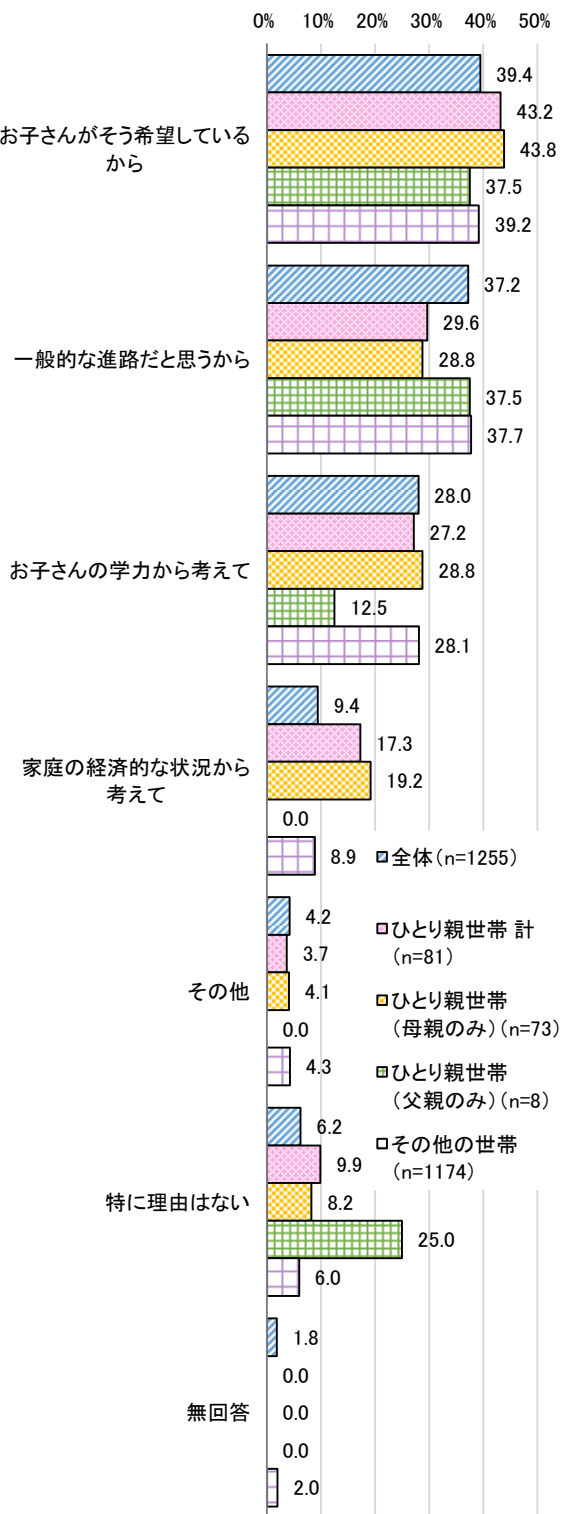
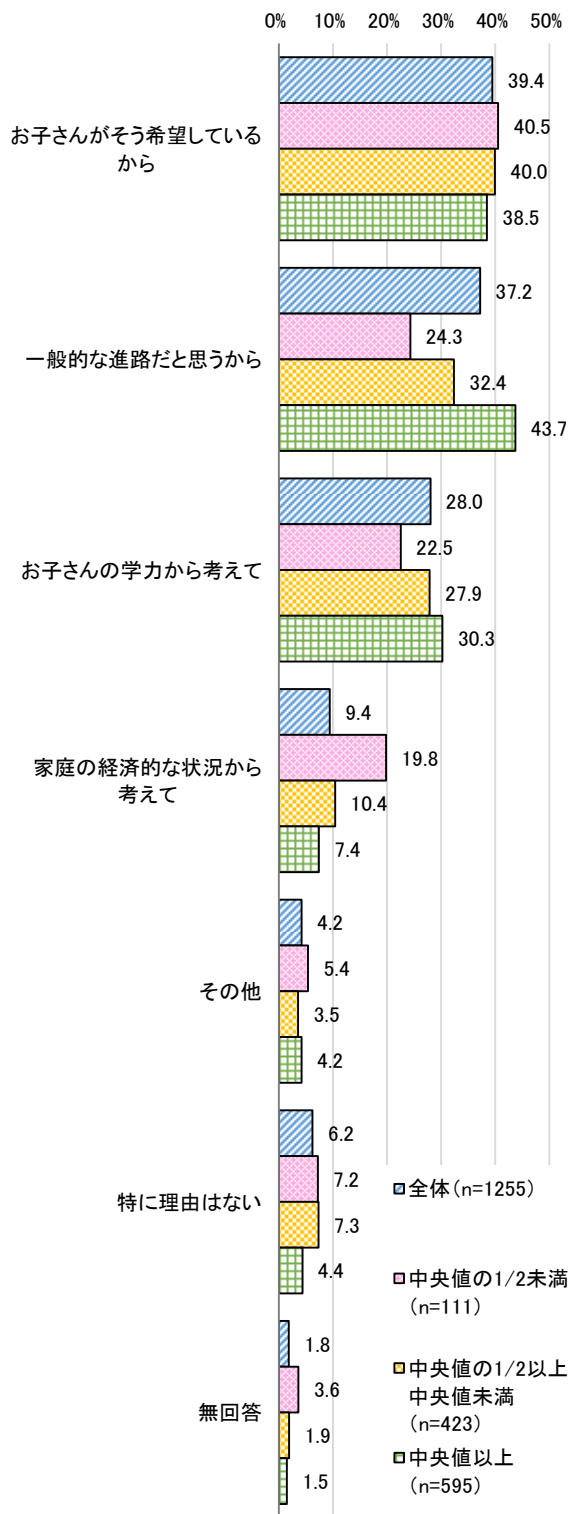
世帯子供の人数別にみると、他の世帯と比べて子供の人数が1人の世帯では「一般的な進路だと思うから」(48.9%)、4人以上の世帯では「家庭の経済的な状況から考えて」(18.0%)の割合が高くなっている。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど「家庭の経済的な状況から考えて」の割合が高い傾向にある。「中央値の1/2未満」では約2割となっている。

世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より「家庭の経済的な状況から考えて」(17.3%)の割合が高くなっている。

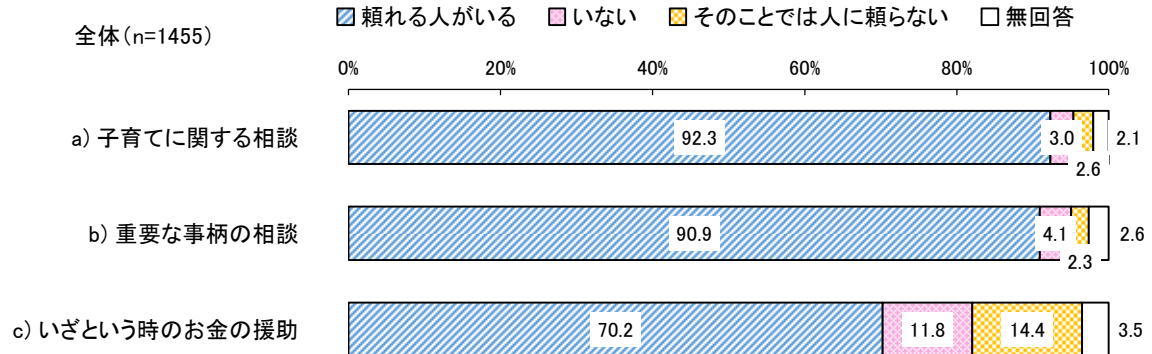
図表Ⅱ-1-12 進学すると思う理由（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



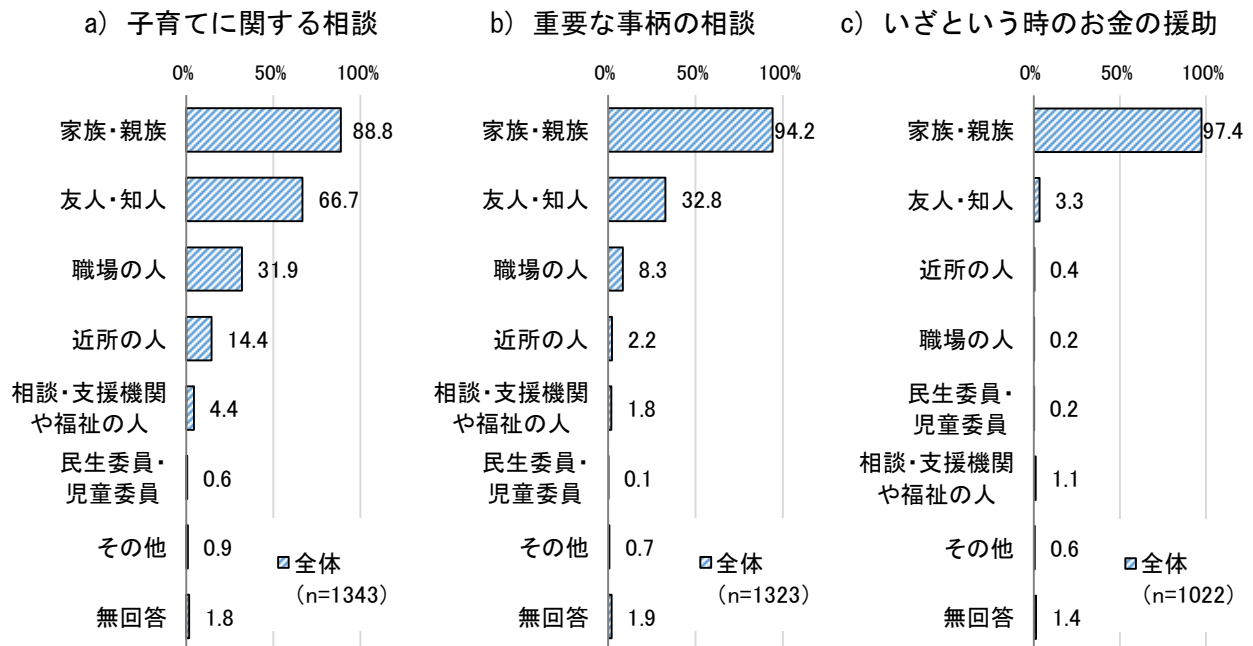


(14) 保護者の頼れる相手

問17 あなたは次に挙げる事柄で頼れる人はいますか。(a~c それぞれについて、1~3のあてはまるもの1つに○)



・頼れる相手



【全体】

保護者の頼れる相手について、「頼れる人がいる」の割合は、「a) 子育てに関する相談」(92.3%)と「b) 重要な事柄の相談」(90.9%)では9割を超えている。「c) いざという時のお金の援助」(70.2%)では約7割となっている。

いずれも頼れる相手は「家族・親族」の割合が最も高く、9割前後となっている。「a) 子育てに関する相談」では「友人・知人」(66.7%)の割合も6割以上と高くなっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-13、図表Ⅱ-1-14 参照)

世帯年収別にみると、いずれの事柄でも200万円未満の世帯では他の世帯より頼れる人が「いない」割合が高く、「a) 子育てに関する相談」(18.0%)と「b) 重要な事柄の相談」(21.3%)では約2割、「c) いざという時のお金の援助」(29.5%)では約3割となっている。

また、頼れる相手では他の世帯より「家族・親族」の割合が低くなっている。

世帯子供の数別では、大きな差は見られない。

生活状況別にみると、いずれの事柄でも「中央値の1/2未満」では「中央値以上」や「中央値の1/2以上中央値未満」より頼れる人が「いない」割合が高く、「a) 子育てに関する相談」(9.8%)と「b) 重要な事柄の相談」(12.8%)では約1割、「c) いざという時のお金の援助」(26.3%)では3割弱となっている。

また、頼れる相手では他の世帯より「家族・親族」の割合が低くなっている。

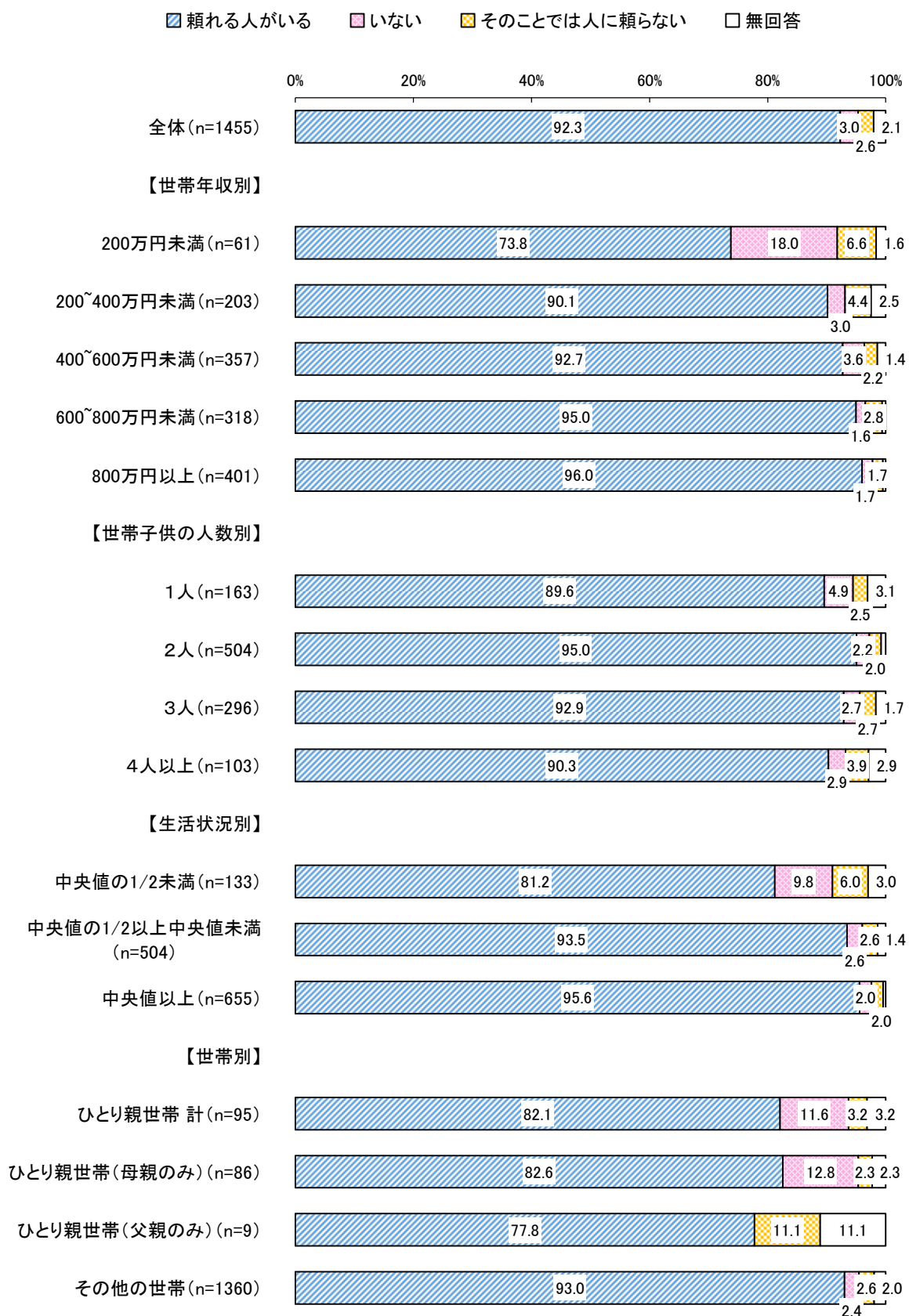
世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より頼れる人が「いない」割合が高く、「a) 子育てに関する相談」(11.6%)と「b) 重要な事柄の相談」(15.8%)では1割以上、「c) いざという時のお金の援助」(31.6%)では約3割となっている。

また、頼れる相手では他の世帯より「家族・親族」の割合が低くなっている。

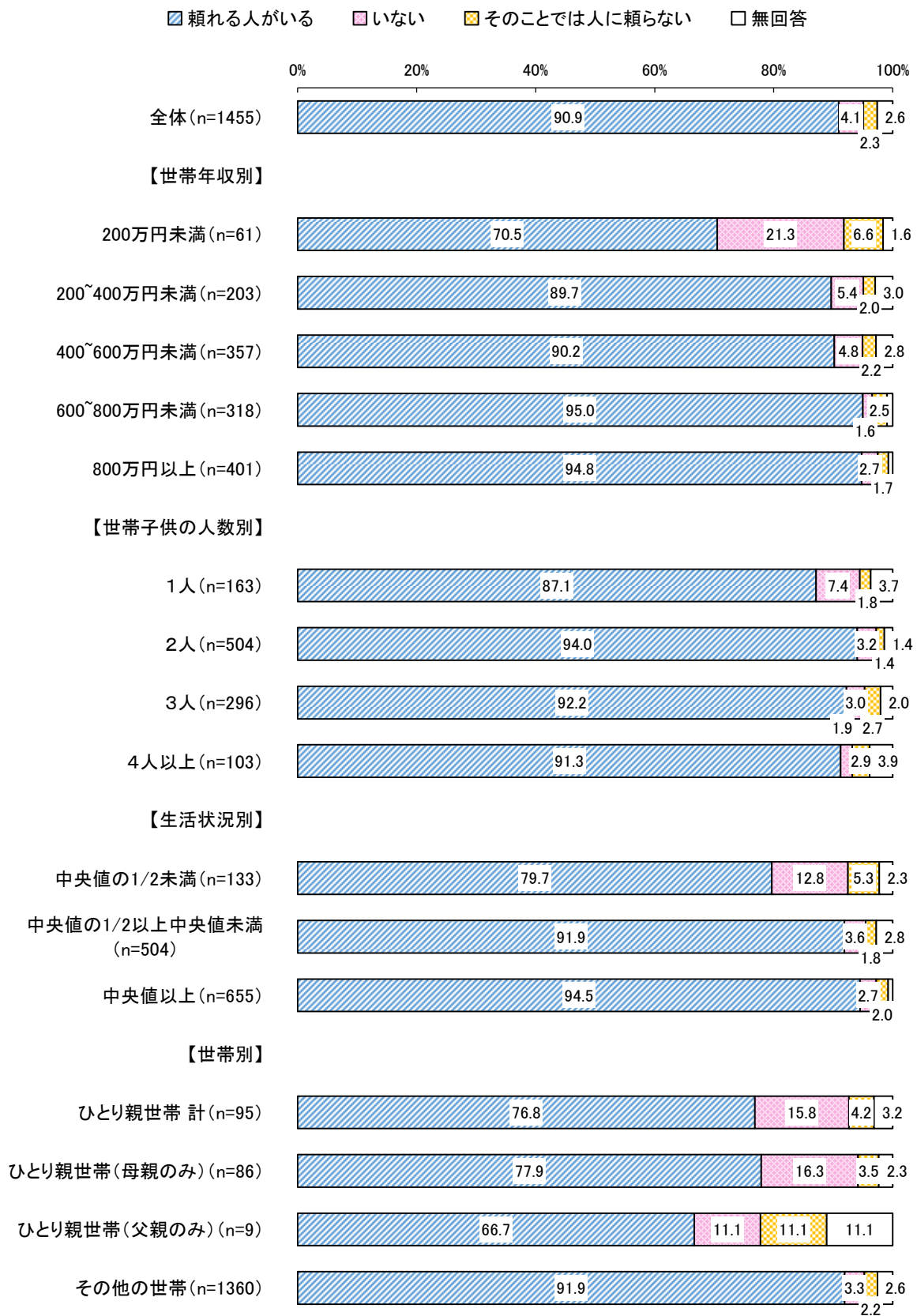
図表Ⅱ-1-13 保護者の頼れる相手の有無

(世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別)

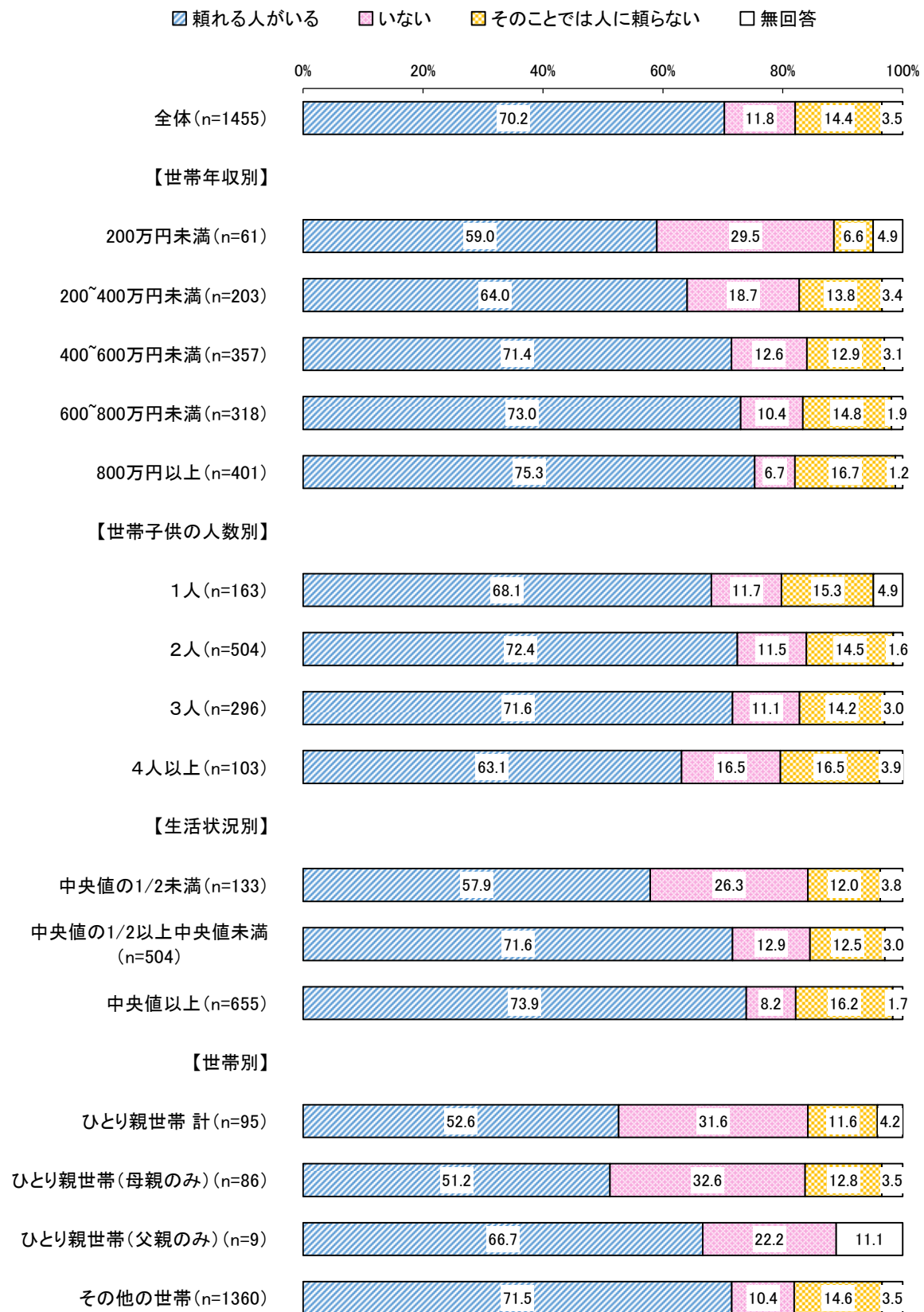
a) 子育てに関する相談



b) 重要な事柄の相談

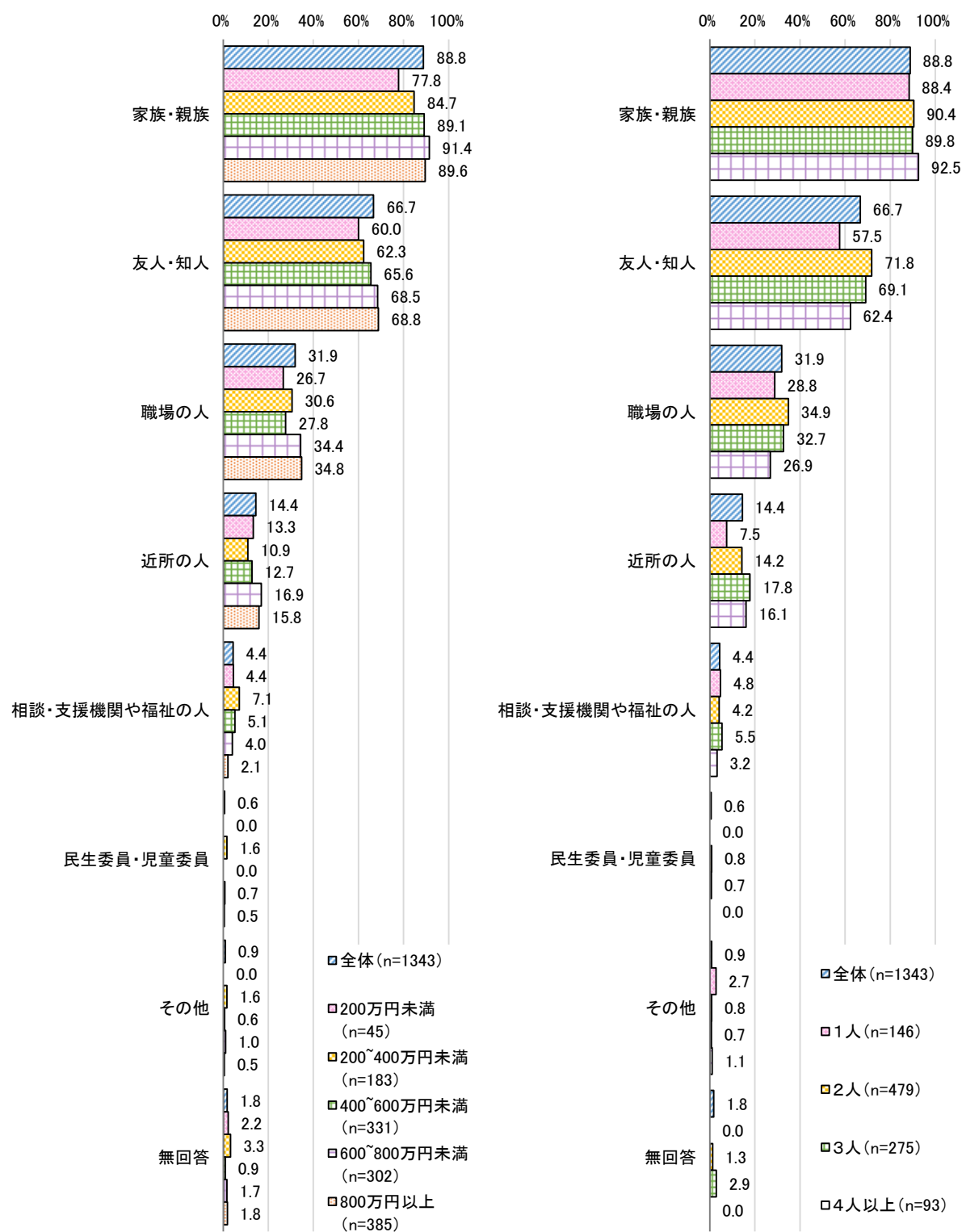


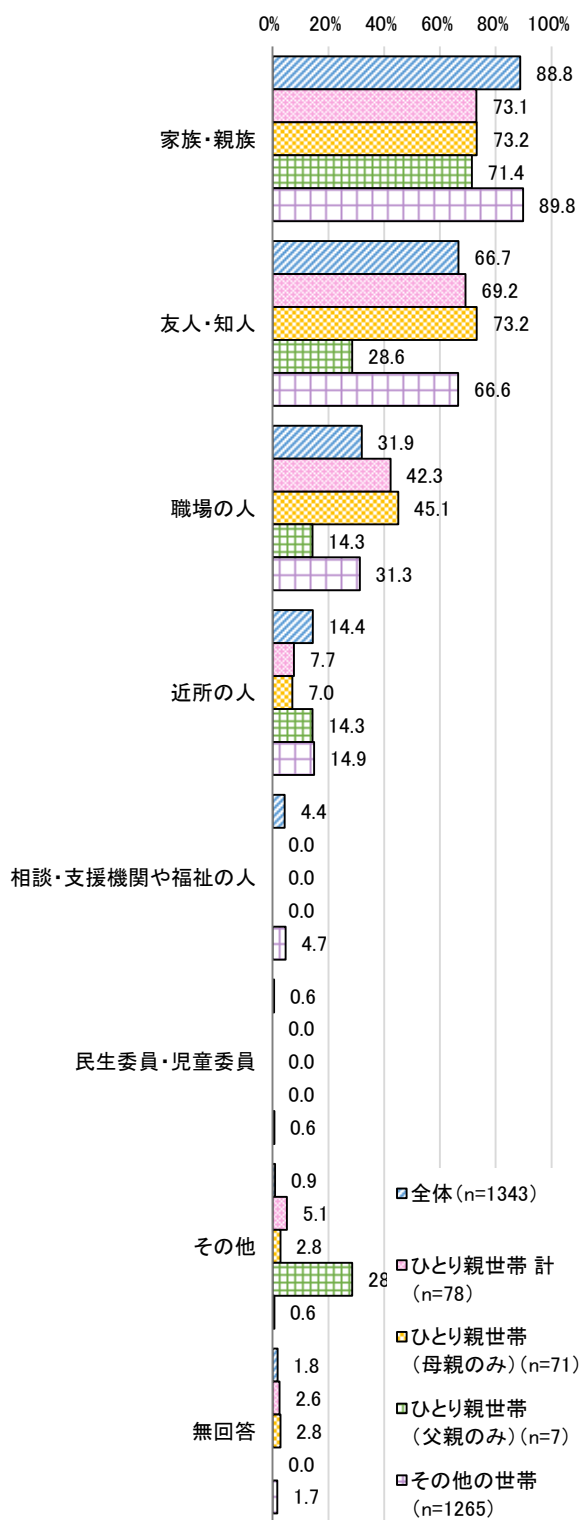
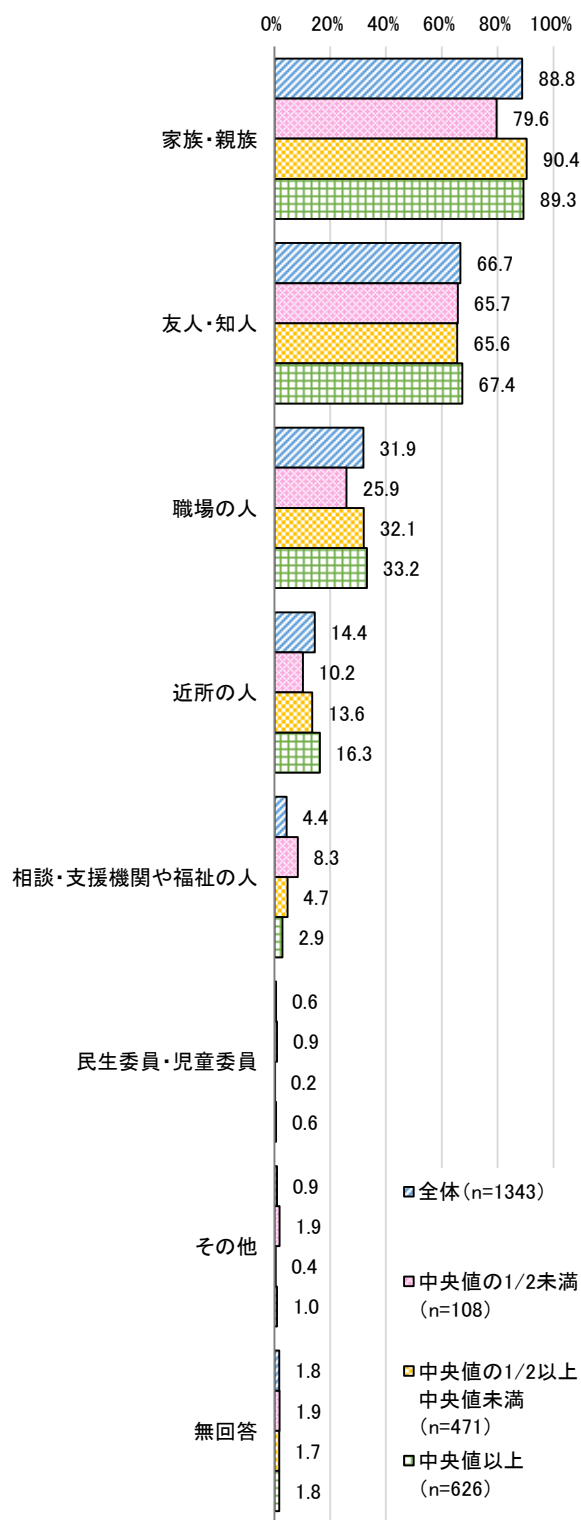
c) いざという時のお金の援助



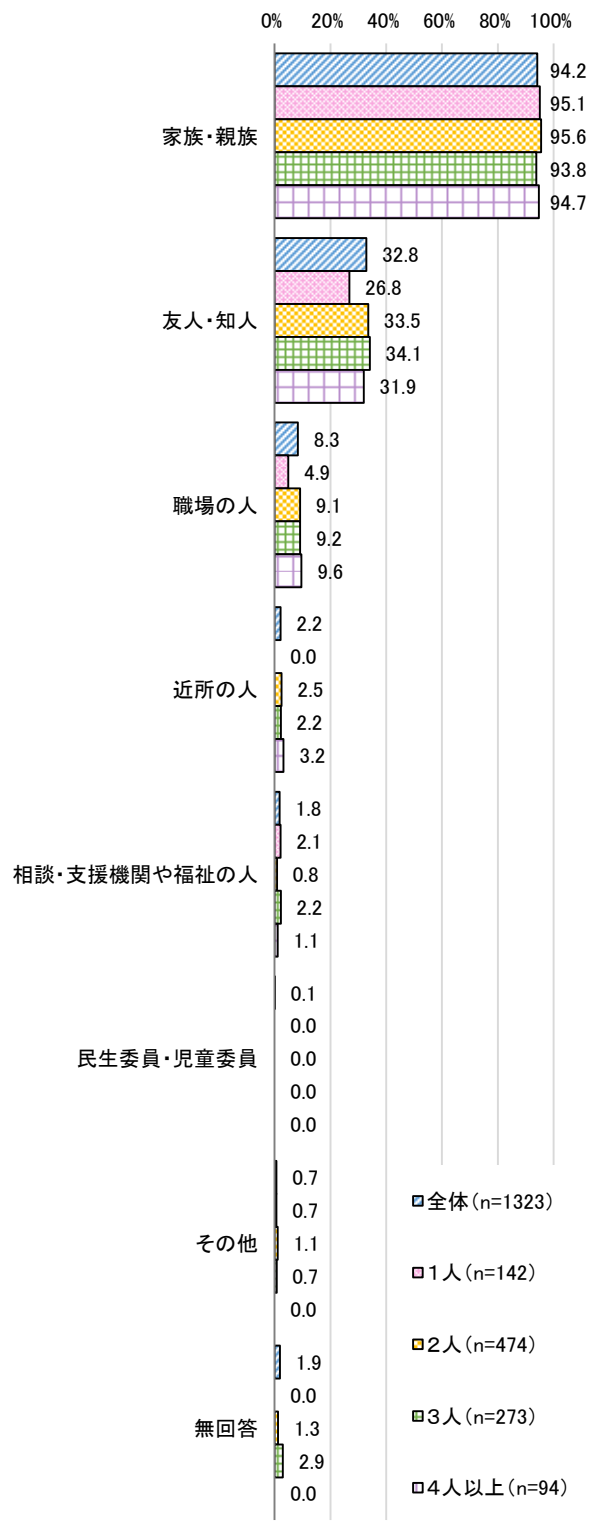
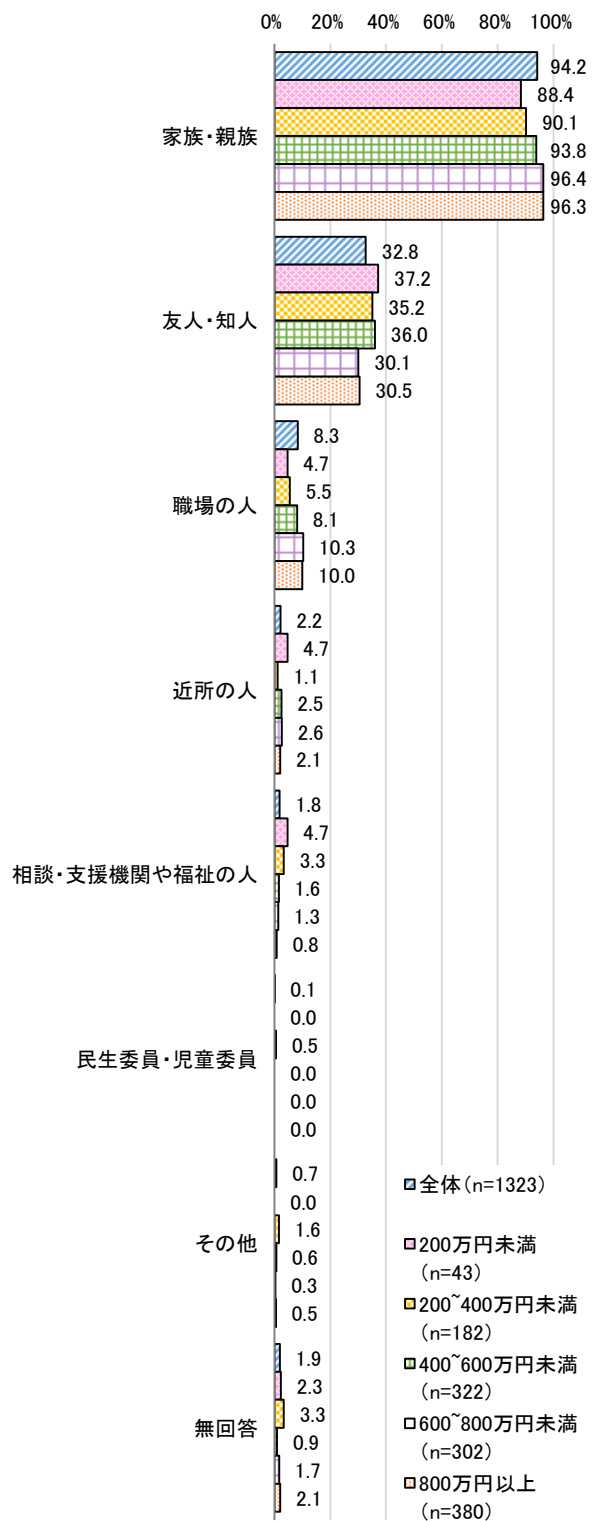
図表Ⅱ-1-14 保護者の頼れる相手（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

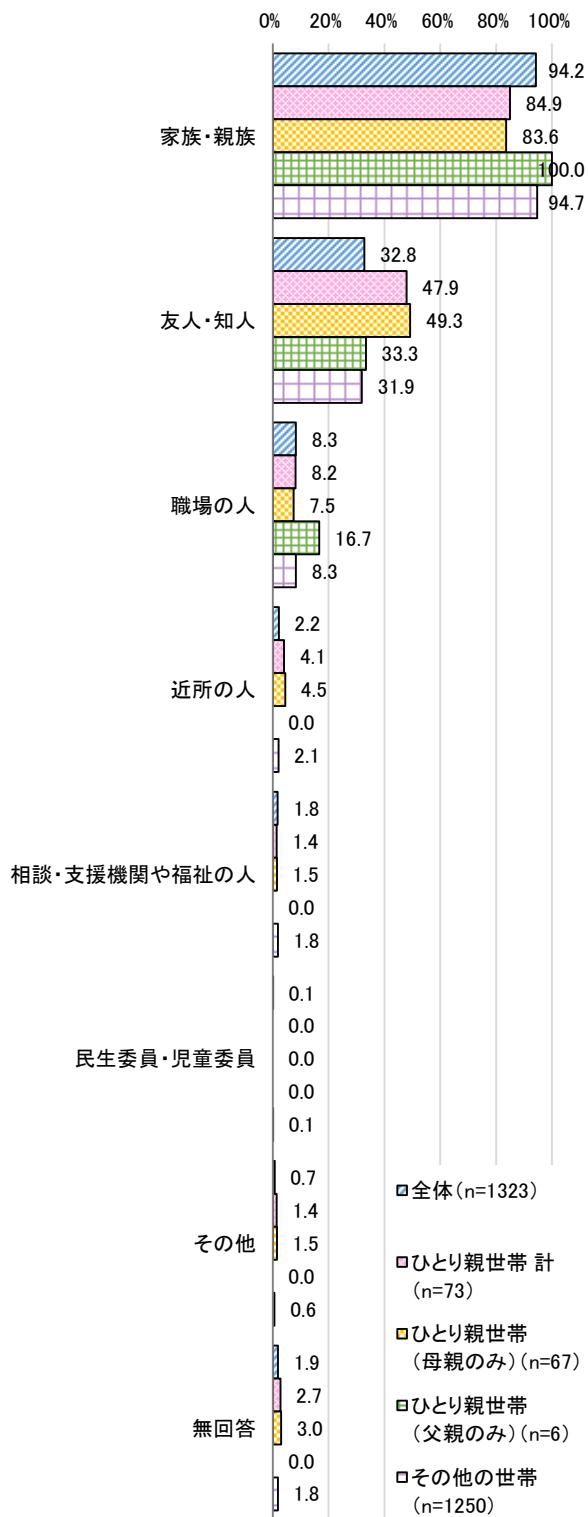
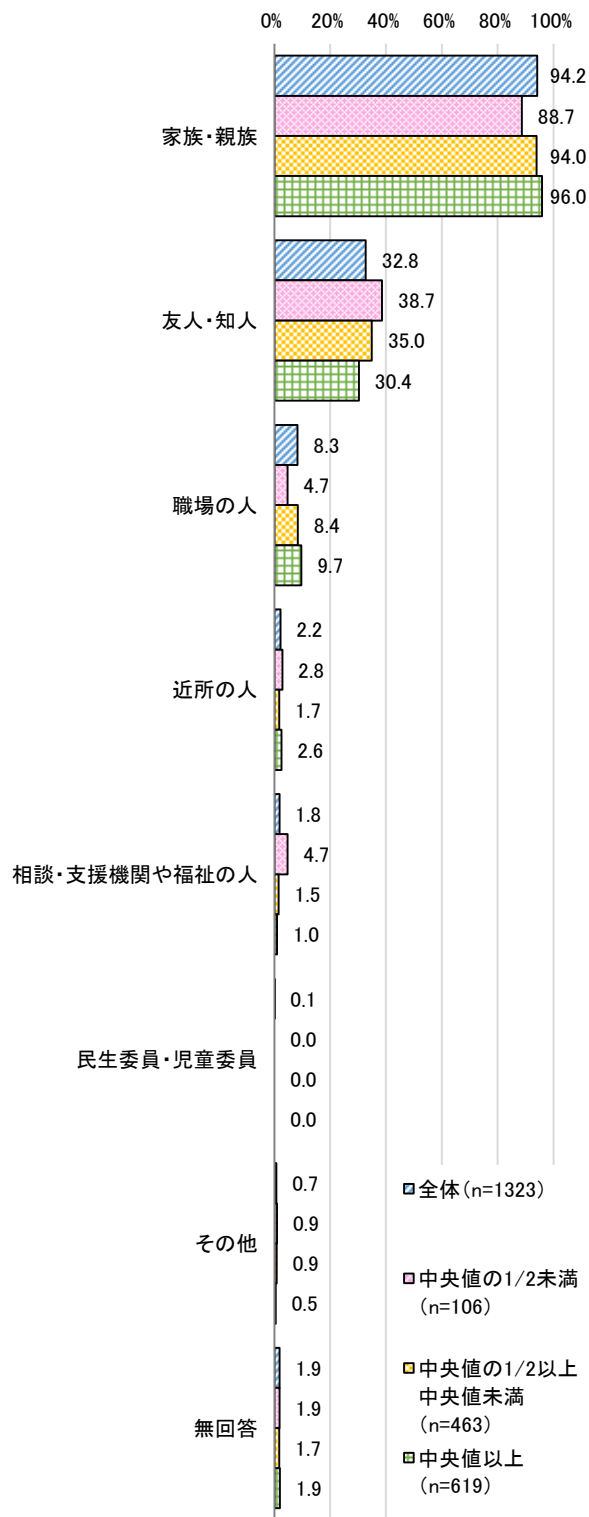
a) 子育てに関する相談 頼れる相手



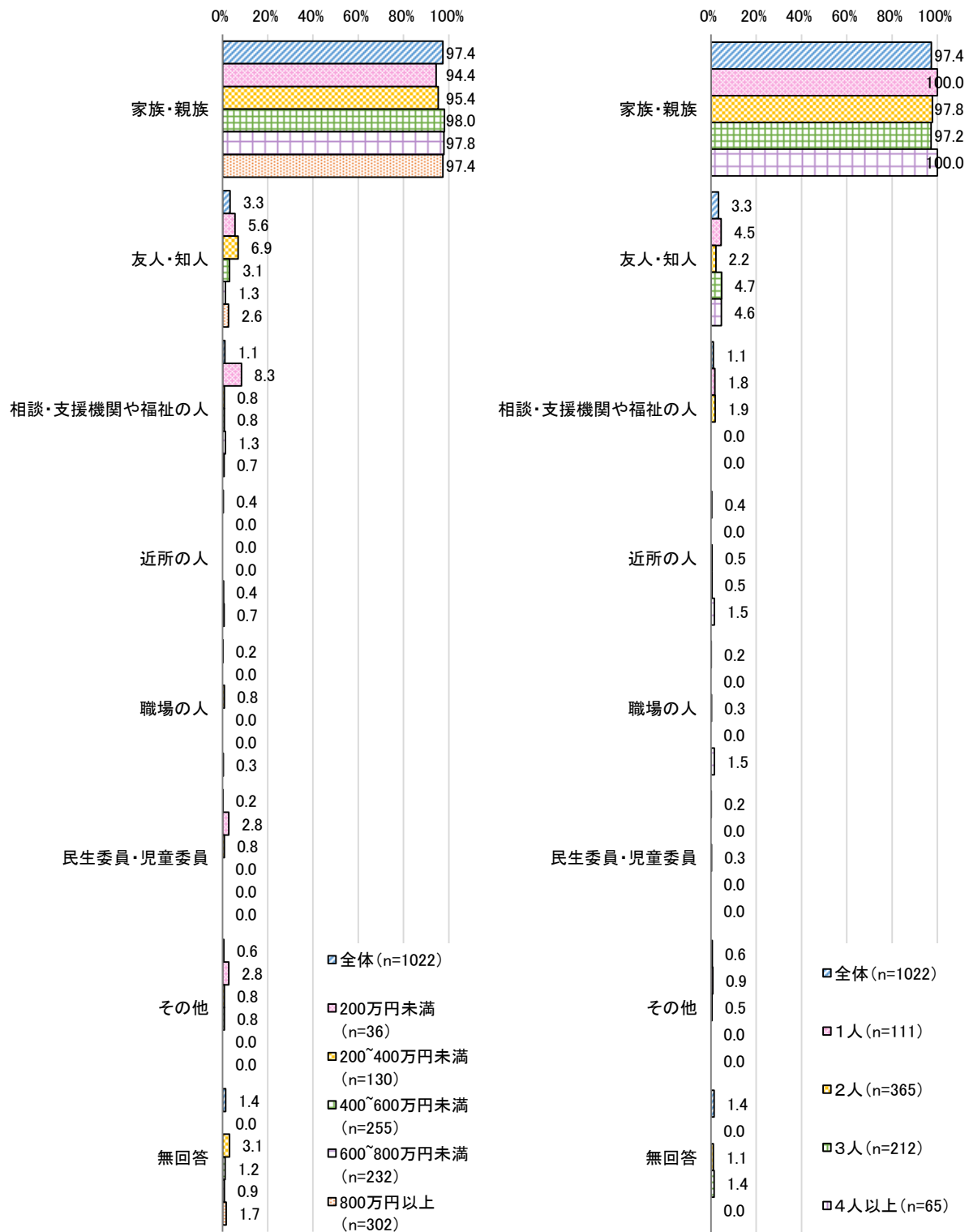


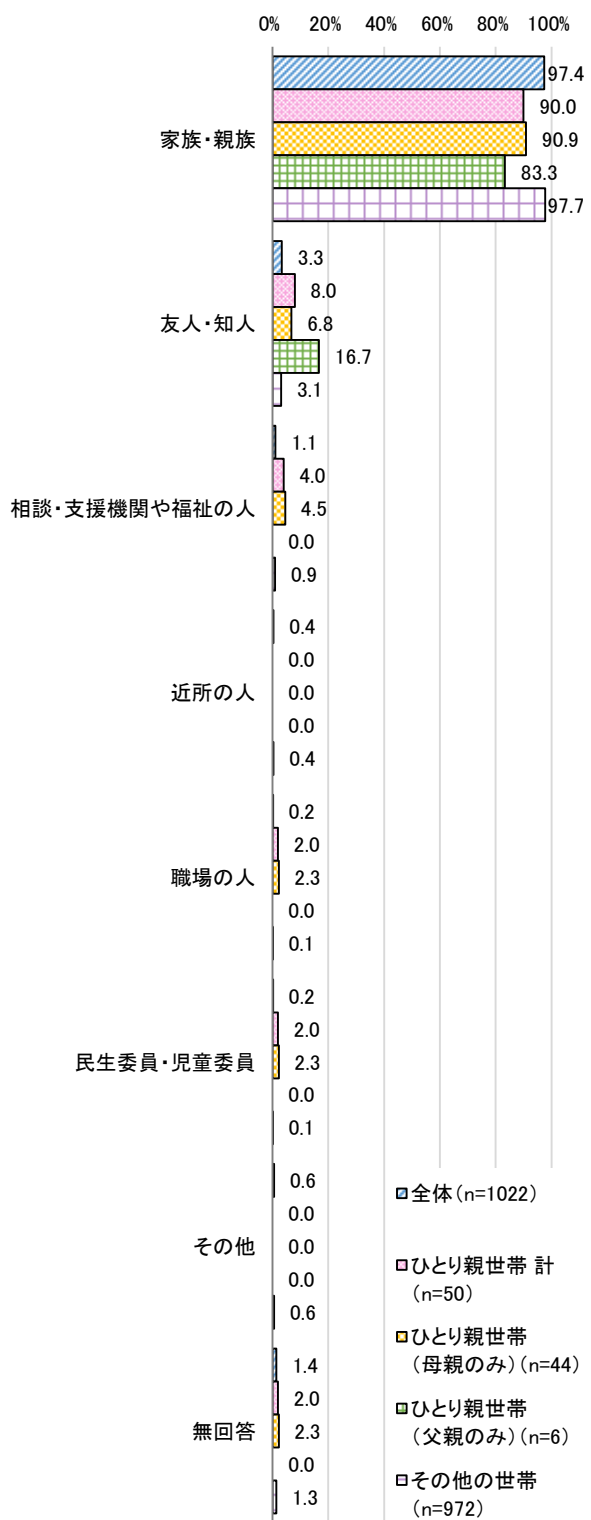
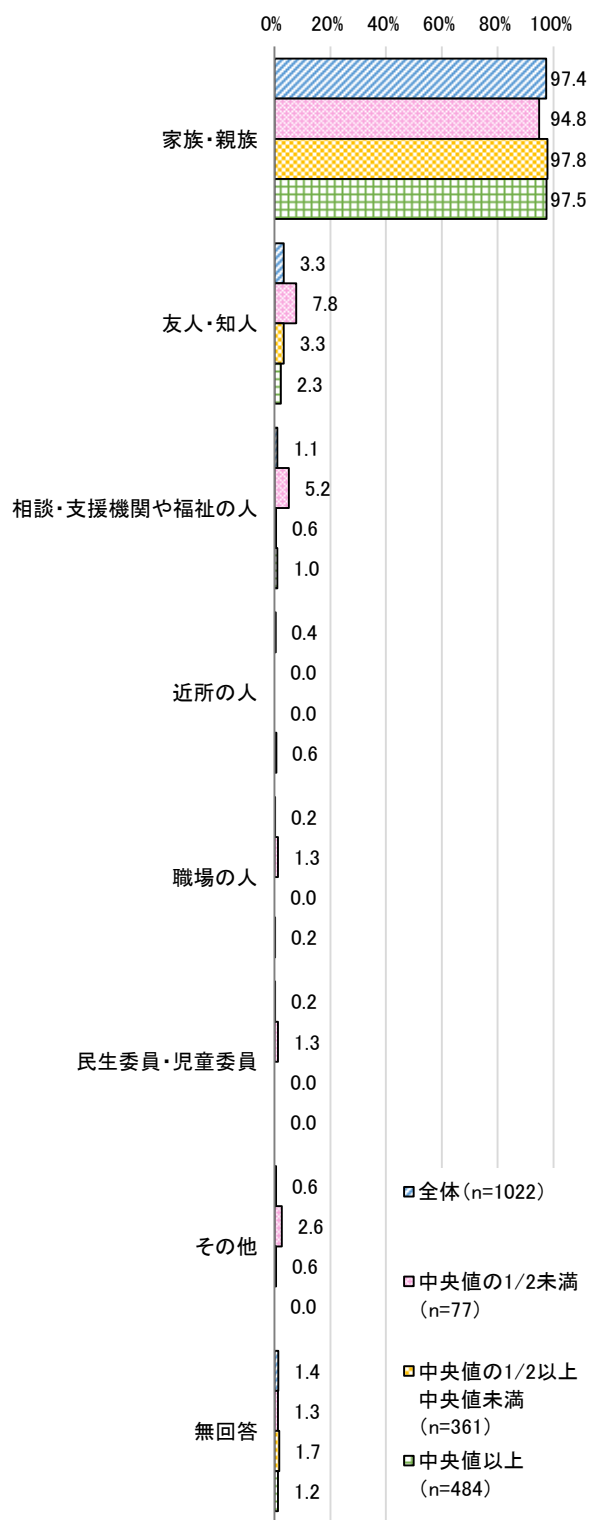
b) 重要な事柄の相談 頼れる相手





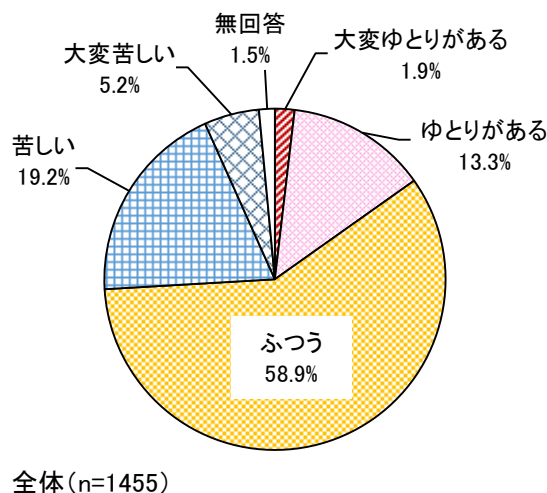
c) いざという時のお金の援助 頼れる相手





(15) 暮らしの状況（主観）

問18 あなたは、現在の暮らしの状況をどのように感じていますか。（あてはまるもの1つに○）



全体 (n=1455)

【全体】

現在の暮らしの状況について、「ふつう」（58.9%）の割合が最も高く、約6割となっている。「大変ゆとりがある」と「ゆとりがある」を合わせた割合は15.2%、「大変苦しい」と「苦しい」を合わせた割合は24.4%となっている。

【属性別】（図表Ⅱ-1-15 参照）

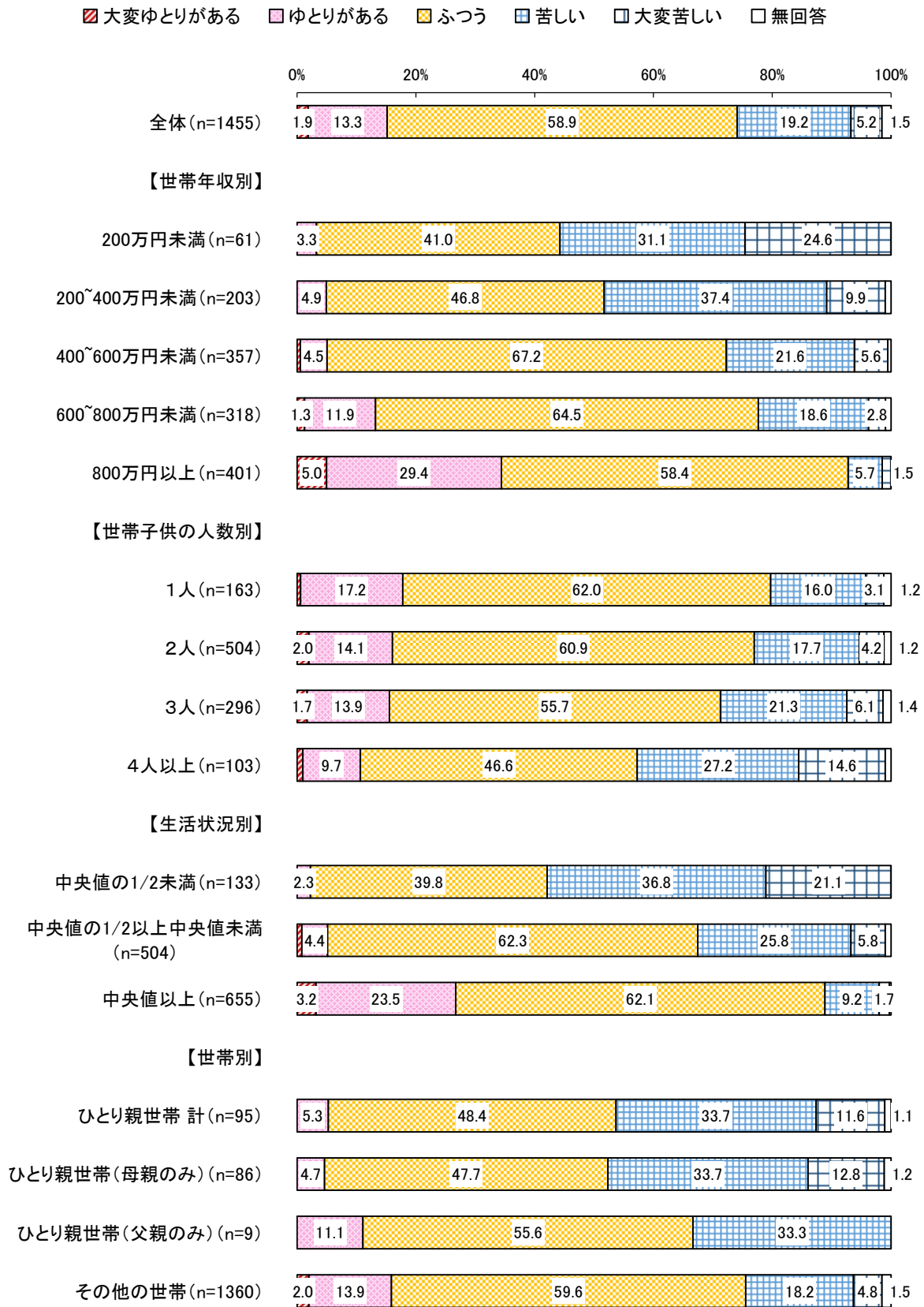
世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど「大変苦しい」と「苦しい」を合わせた割合が高く、200万円未満の世帯では過半数を占めている。

世帯子供の人数別にみると、子供の人数が多いほど「大変苦しい」と「苦しい」を合わせた割合が高く、子供が4人以上の世帯では約4割となっている。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど「大変苦しい」と「苦しい」を合わせた割合が高く、「中央値の1/2未満」では6割弱となっている。

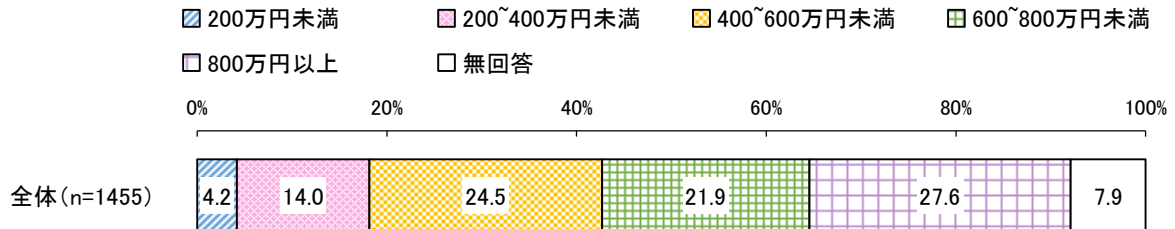
世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より「大変苦しい」と「苦しい」を合わせた割合が高く、4割以上となっている。

図表Ⅱ-1-15 暮らしの状況（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



(16) 世帯収入

問19 世帯全体のおおよその年間収入(税込)はいくらですか。(あてはまるもの1つに○)



【全体】

世帯全体のおおよその年間収入は、「800万円以上」(27.6%)の割合が最も高く、次いで「400~600万円未満」(24.5%)、「600~800万円未満」(21.9%)、「200~400万円未満」(14.0%)、「200万円未満」(4.2%)となっている。

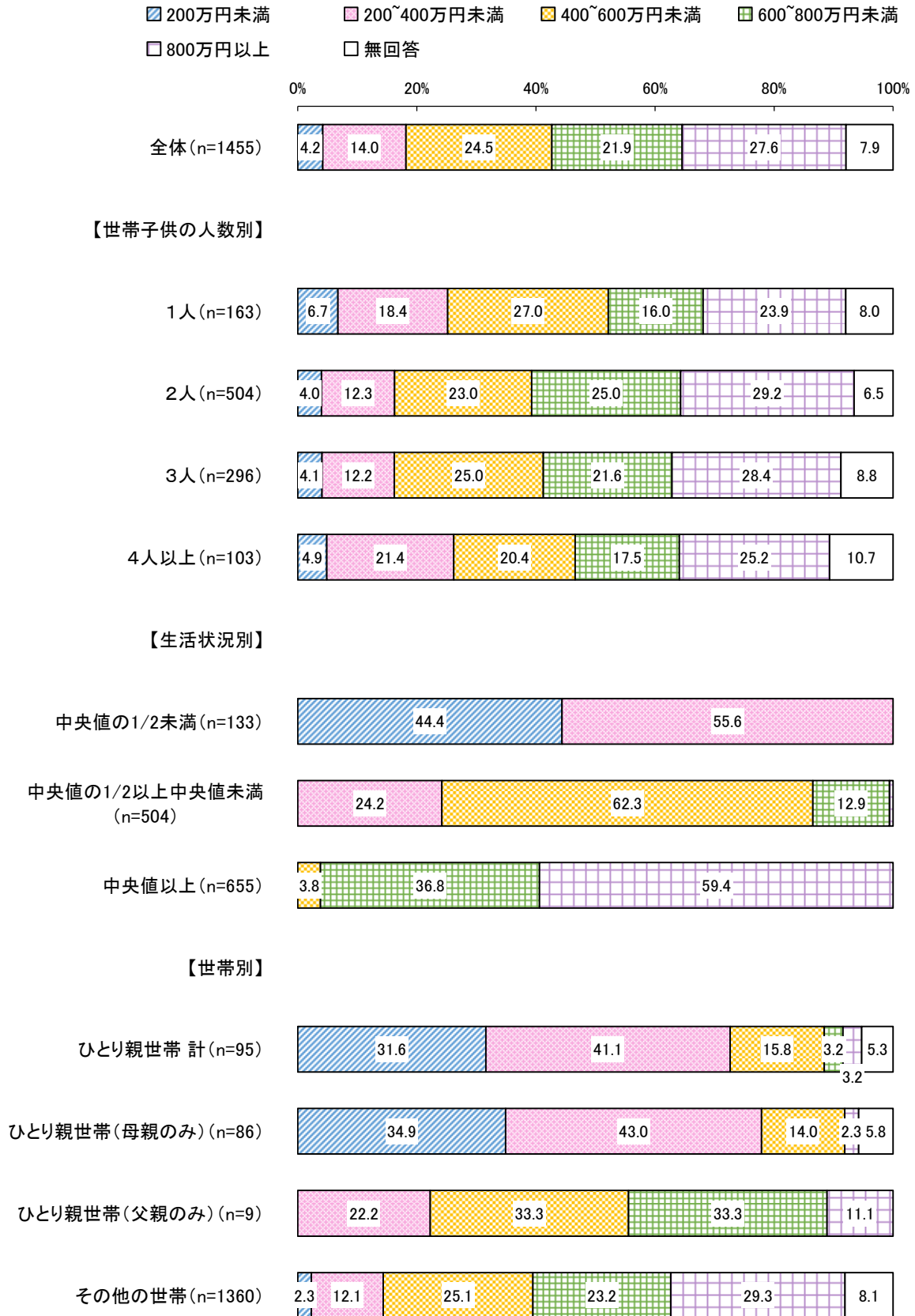
【属性別】(図表Ⅱ-1-16参照)

世帯子供の人数別にみると、子供の人数が2、3人の世帯で他の世帯より年間収入がやや高い。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど年間収入が低い。

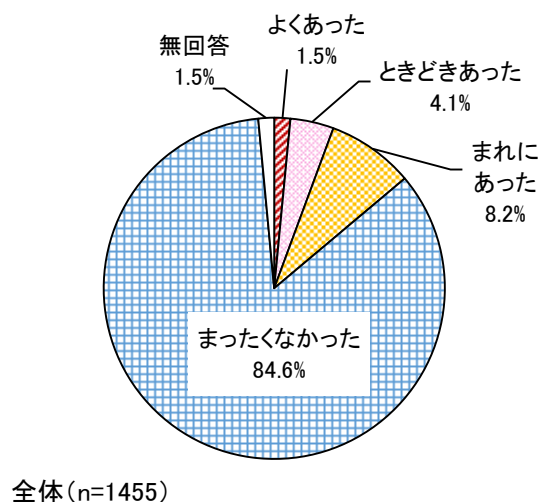
世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より年間収入が低い。

図表Ⅱ-1-16 世帯収入（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



(17) 滞納・欠乏経験

問20 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする食料が買えないことがありましたか。ただし、嗜好品は含みません。(あてはまるもの1つに○)



【全体】

家族が必要とする食料が買えない経験について、「まったくなかった」(84.6%)の割合が最も高く、8割以上となっている。経験があると回答した割合は1割強となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-17参照)

世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど経験があると回答した割合が高く、200万円未満の世帯では4割弱となっている。

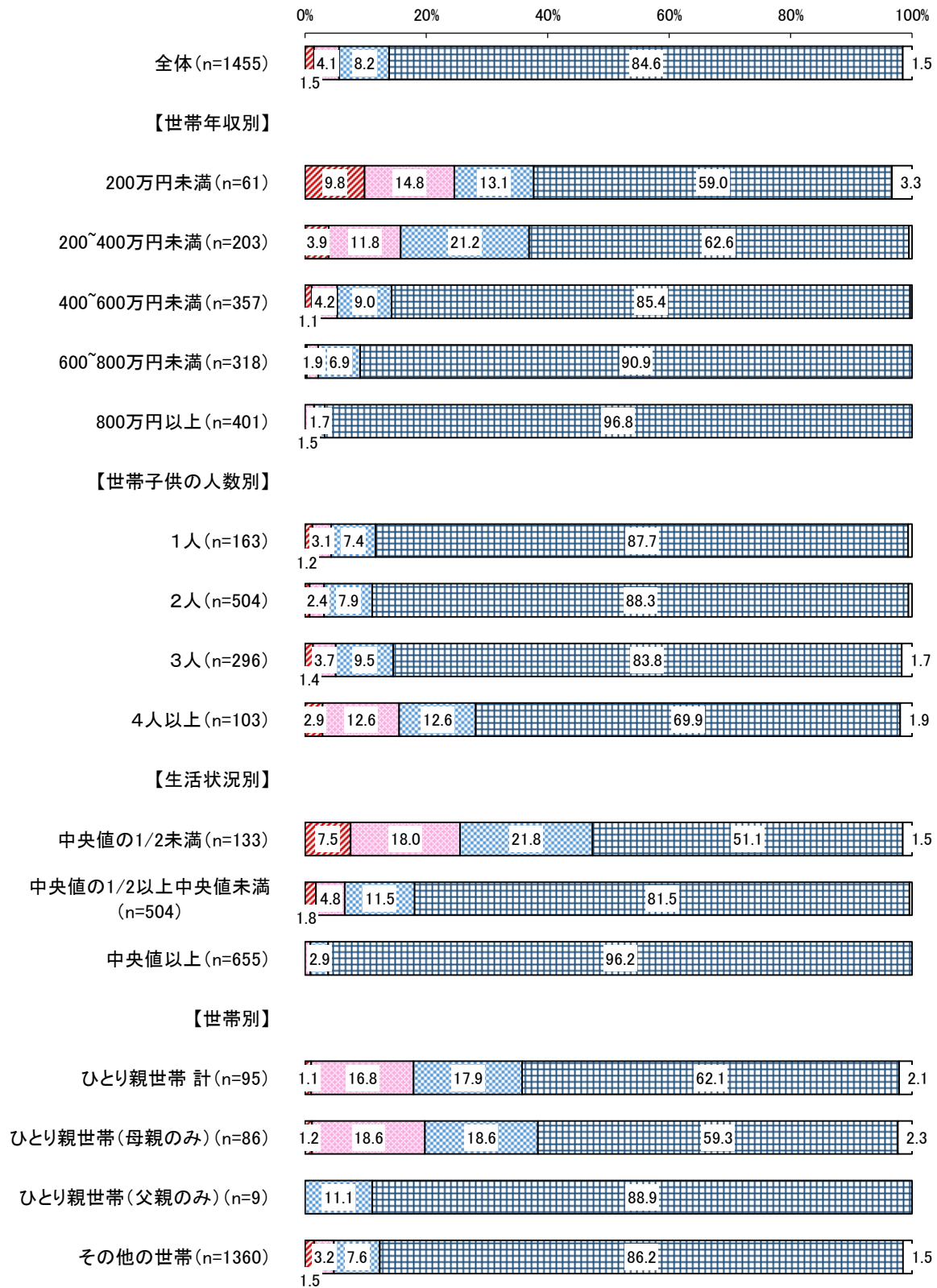
世帯子供の人数別にみると、子供の人数が多いほど経験があると回答した割合が高く、子供が4人以上の世帯では約3割となっている。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど経験があると回答した割合が高く、「中央値の1/2未満」では半数近くを占めている。

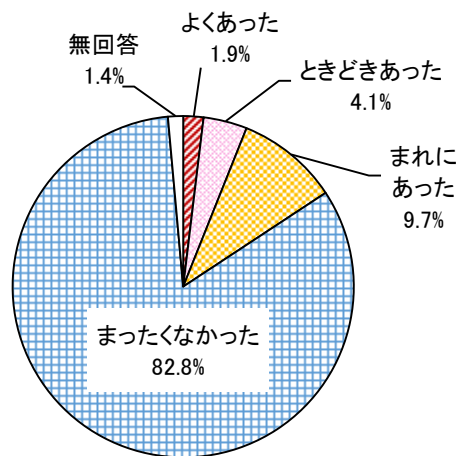
世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より経験があると回答した割合が高く、3割以上となっている。

図表Ⅱ-1-17 食料が買えない経験（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

よくあった ときどきあった まれにあった まったくなかった 無回答



問21 あなたの世帯では、過去1年の間に、お金が足りなくて、家族が必要とする衣服が買えないことがありましたか。ただし、高価な衣服や貴金属・宝飾品は含みません。(あてはまるもの1つに○)



全体(n=1455)

【全体】

家族が必要とする衣服が買えない経験について、「まったくなかった」(82.8%)の割合が最も高く、8割以上となっている。経験があると回答した割合は2割弱となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-18参照)

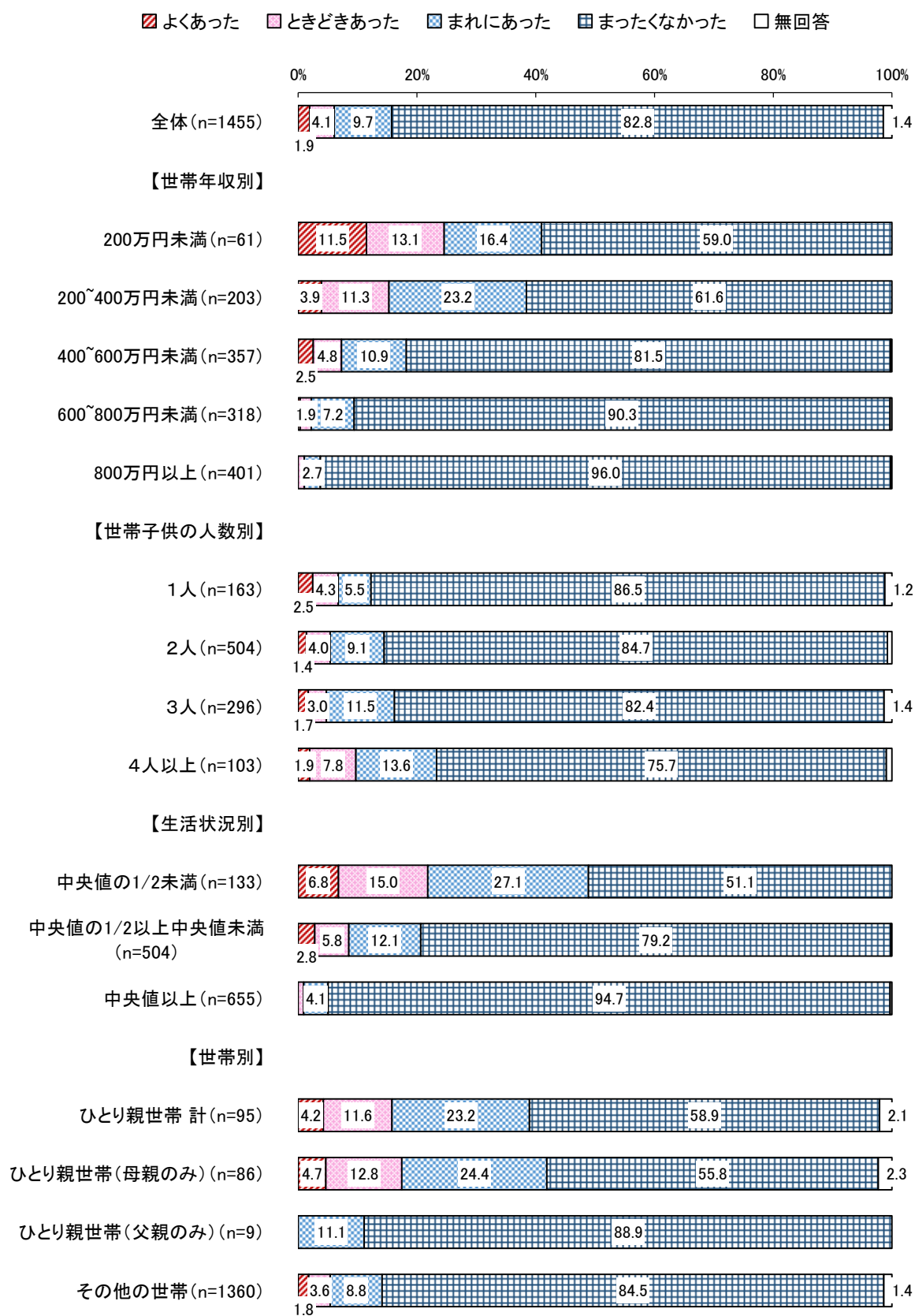
世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど経験があると回答した割合が高く、200万円未満の世帯では約4割となっている。

世帯子供の人数別にみると、子供の人数が多いほど経験があると回答した割合が高く、子供が4人以上の世帯では2割強となっている。

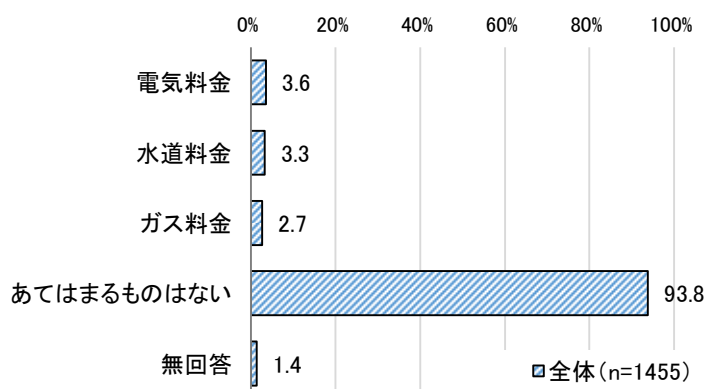
生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど経験があると回答した割合が高く、「中央値の1/2未満」では半数近くを占めている。

世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より経験があると回答した割合が高く、4割弱となっている。

図表Ⅱ-1-18 衣服が買えない経験（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



問22 あなたの世帯では、過去1年の間に、以下の料金について、経済的な理由で未払いになったことがありますか。(1～3については、あてはまるものすべてに○)



【全体】

経済的な理由で未払いになった経験について、「あてはまるものはない」(93.8%)の割合が最も高く、9割以上となっている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-19参照)

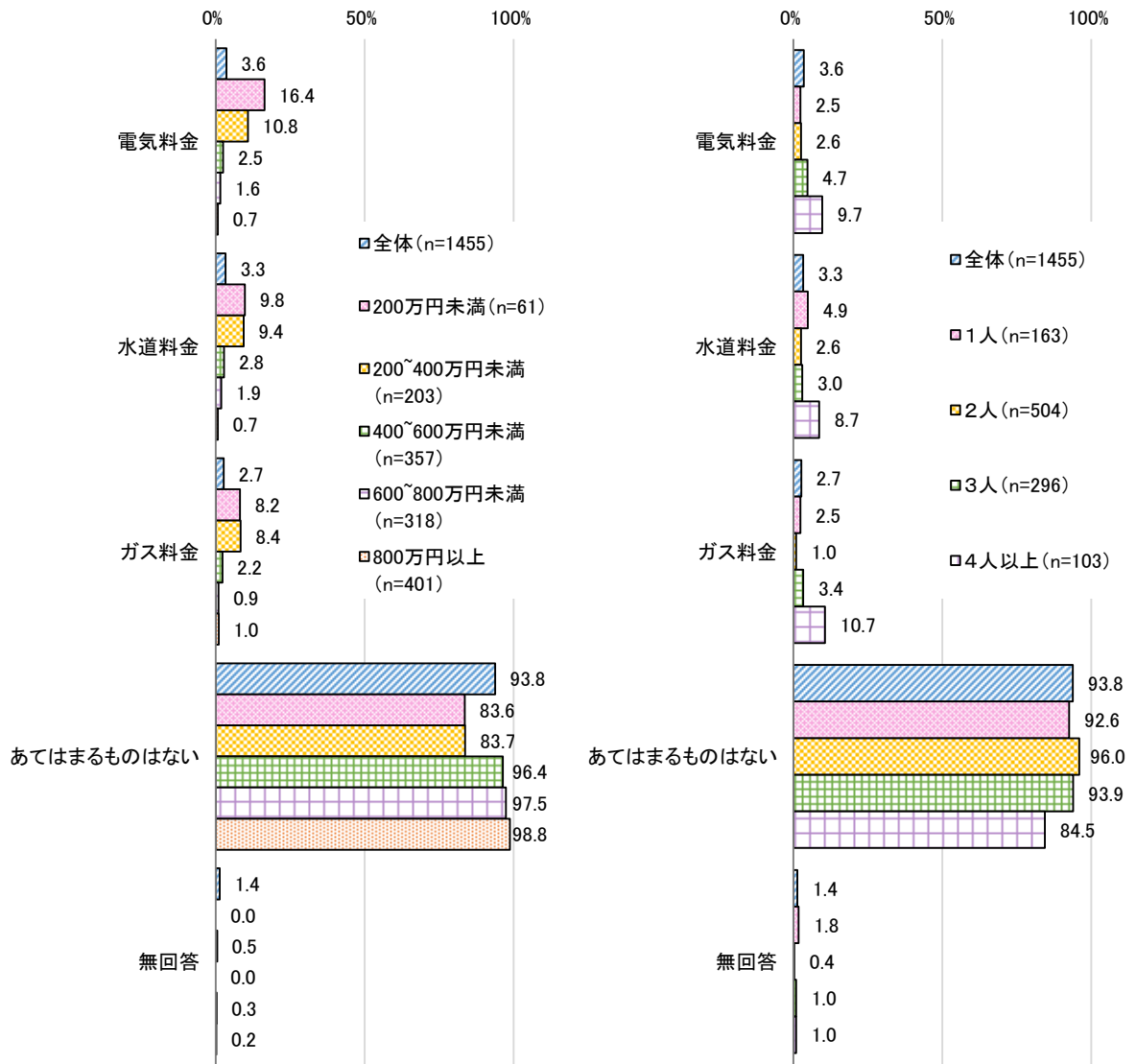
世帯年収別にみると、世帯年収が低いほどいずれも未払いになった経験があると回答した割合が高くなっている。

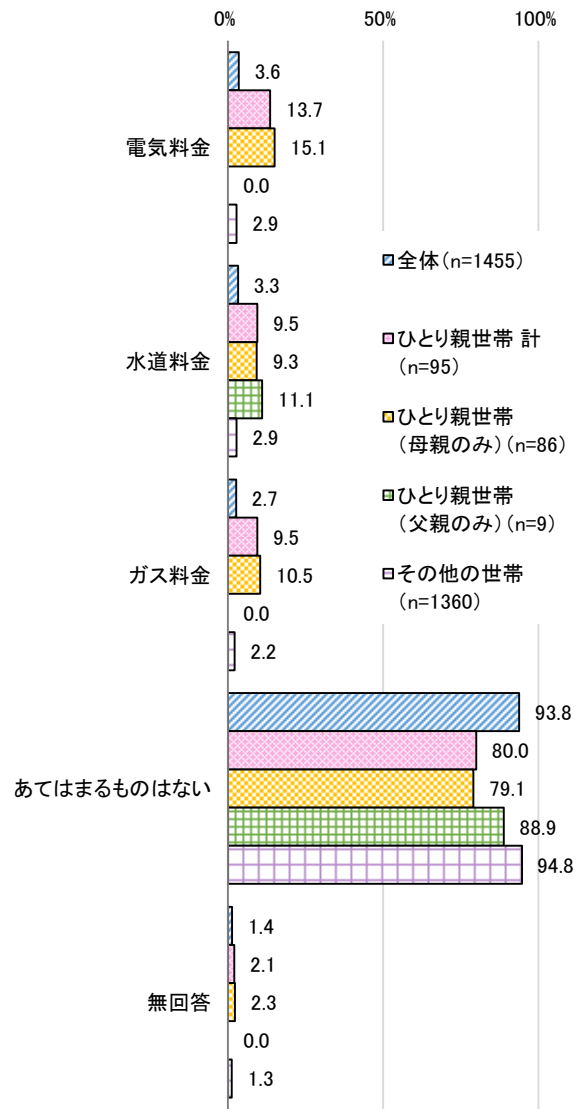
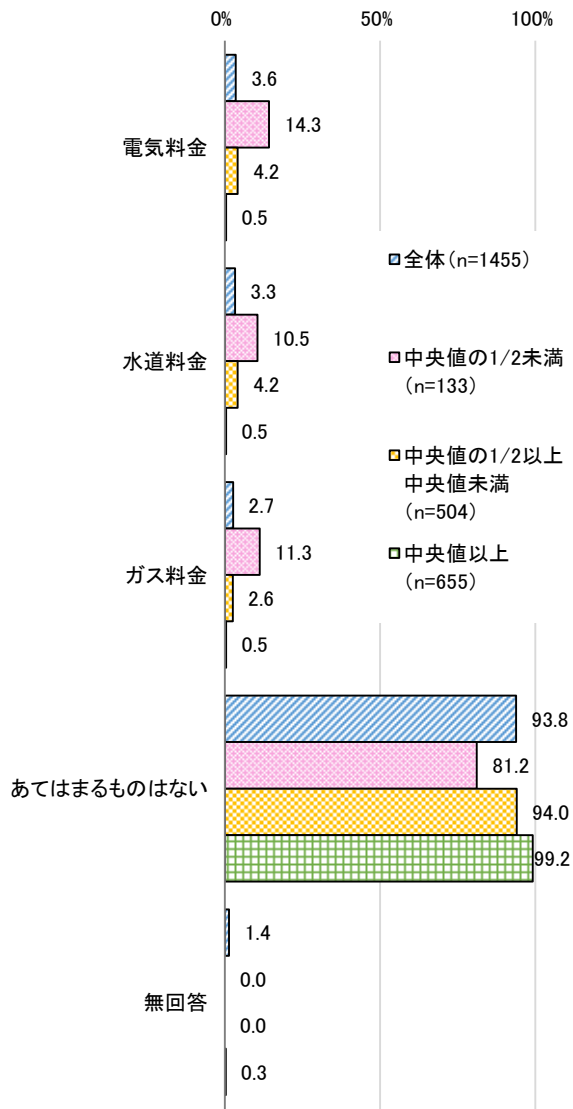
世帯子供の人数別にみると、子供が4人以上の世帯でいずれも未払いになった経験があると回答した割合が高くなっている。

生活状況別にみると、「中央値の1/2未満」でいずれも未払いになった経験があると回答した割合が高く、「電気料金」(14.3%)、「水道料金」(10.5%)、「ガス料金」(11.3%)で未払いになった経験があると回答した割合がそれぞれ1割以上となっている。

世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯よりいずれも未払いになった経験があると回答した割合が高くなっている。

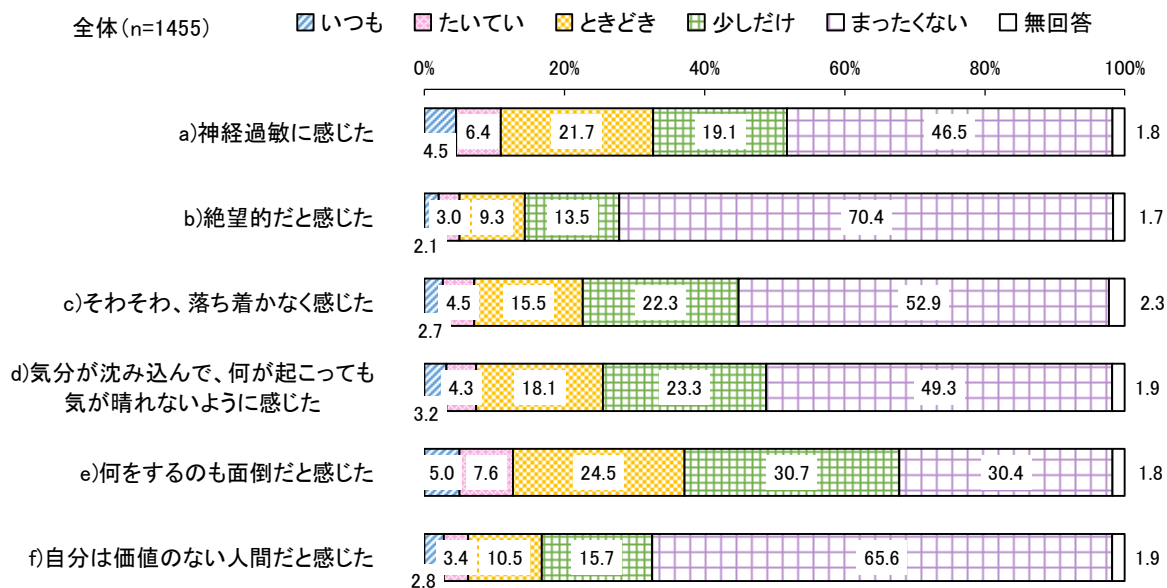
図表Ⅱ-1-19 未払いの経験（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）





(18) 精神状態

問23 次のa)～f)の質問について、この1か月のあなたの気持ちはどのようでしたか。
(a～fそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)



「保護者の心理的な状態」に関して、調査では「K6」と呼ばれる指標を把握するための6つの項目を設定した。この6つの調査項目の結果を足し合わせて、K6のスコアを算出した。

K6はうつ病・不安障害などの精神疾患をスクリーニングすることを目的として開発され、調査で心理的ストレスを含む何らかの精神的な問題の程度を表す指標として利用されている。採点方法は、ひとつの質問ごとに0点(まったく)から4点(いつも)を振り、0点から24点で合計を計算した。高くなるほど抑うつ状態が強いことを示している。

【全体】

K6スコアについて、「0～4点」(56.3%)の割合が最も高く、過半数を占めている。

【属性別】(図表Ⅱ-1-20参照)

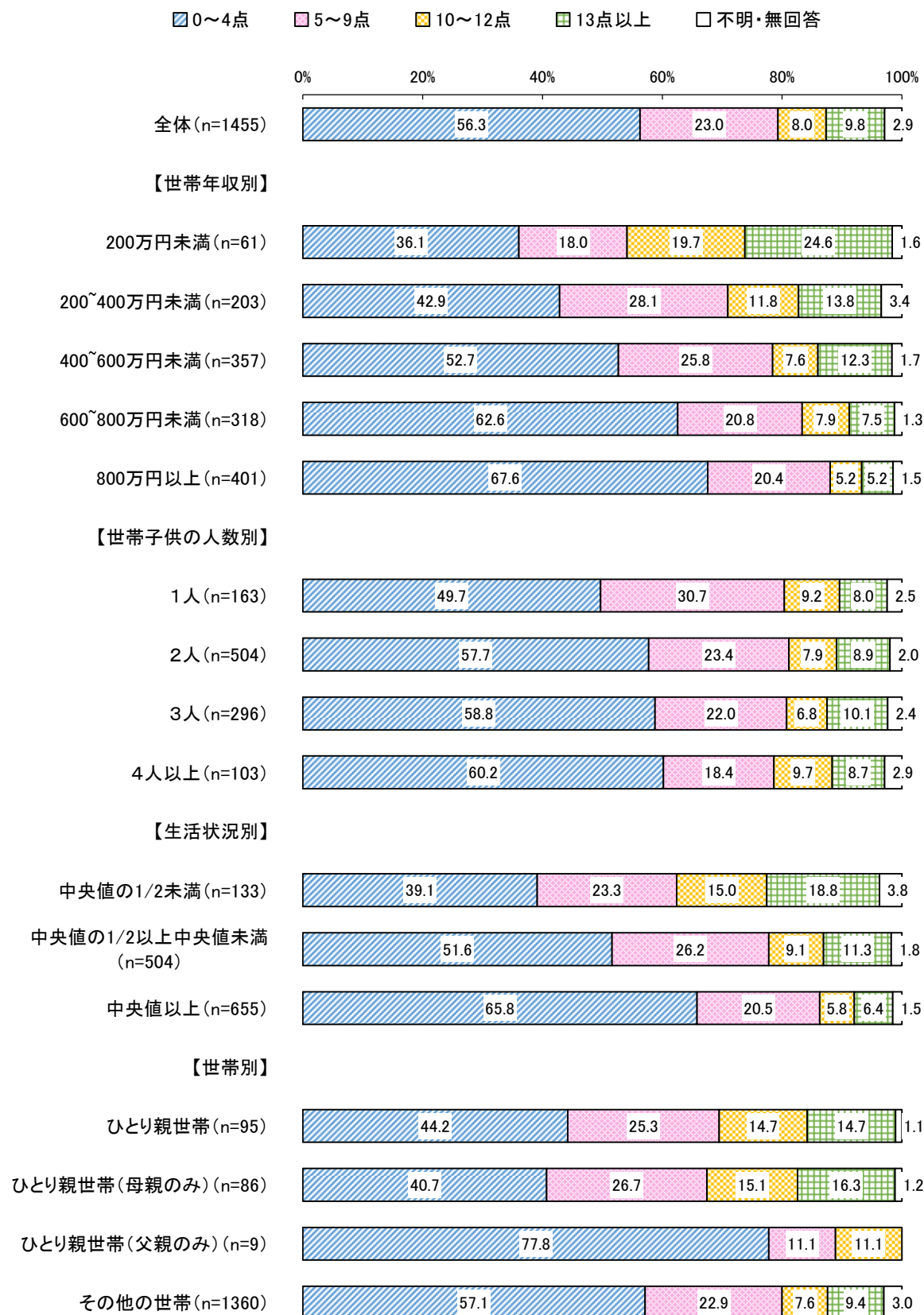
世帯年収別にみると、世帯年収が低いほどK6スコアが高くなっている。

世帯子供の人数別では、大きな差はみられない。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほどK6スコアが高くなっている。

世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯よりK6スコアが高くなっている。

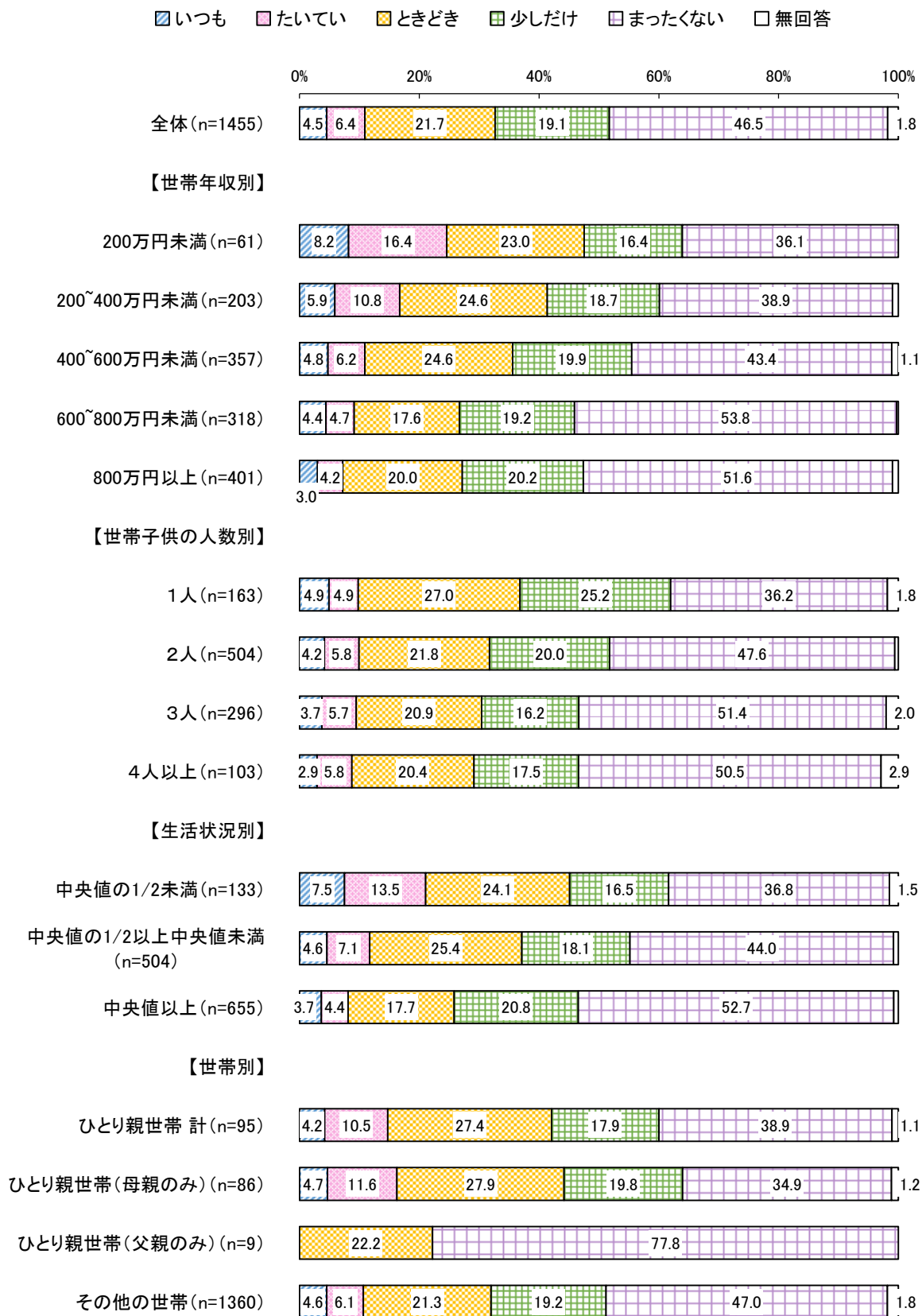
図表Ⅱ-1-20 K6スコア（世帯年収別/世帯子供の数別/生活状況別/世帯別）



《参考》

図表Ⅱ-1-21 直近1か月間の精神状態（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

a) 神経過敏に感じた



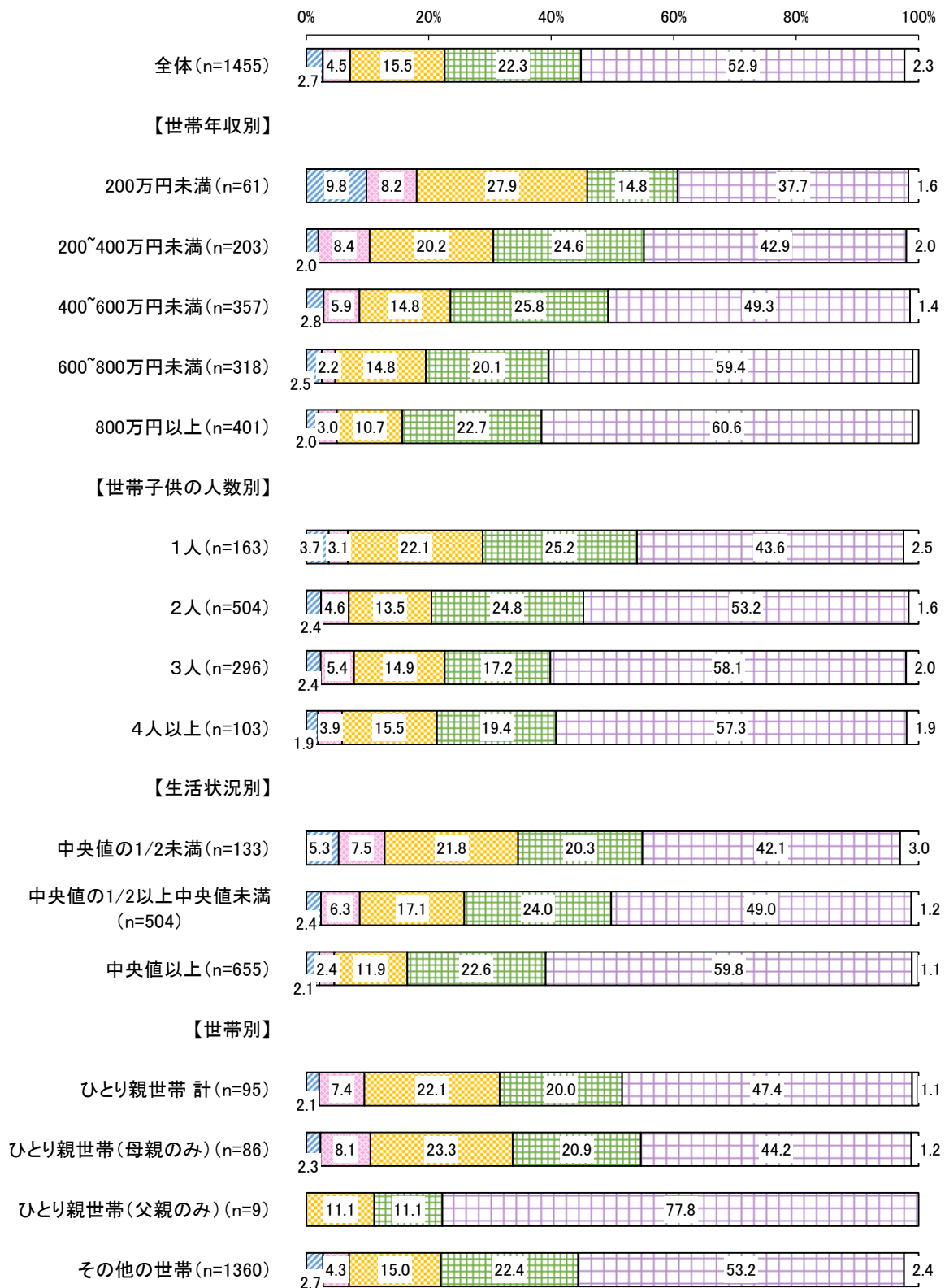
b) 絶望的だと感じた

■いつも ■たいてい ■ときどき ■少しだけ ■まったくない ■無回答



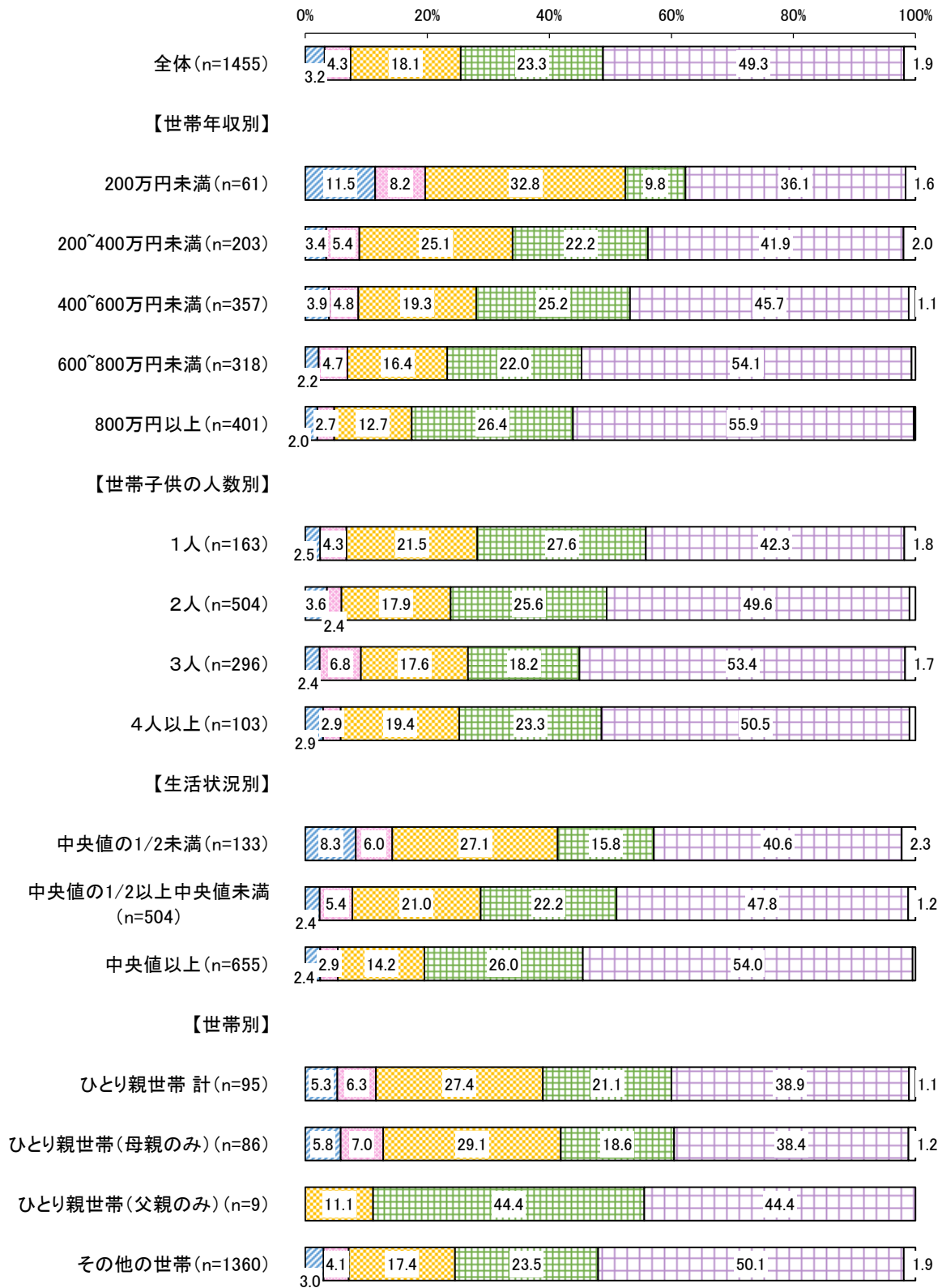
c) そわそわ、落ち着かなく感じた

■いつも ■たいてい ■ときどき ■少しだけ ■まったくない ■無回答

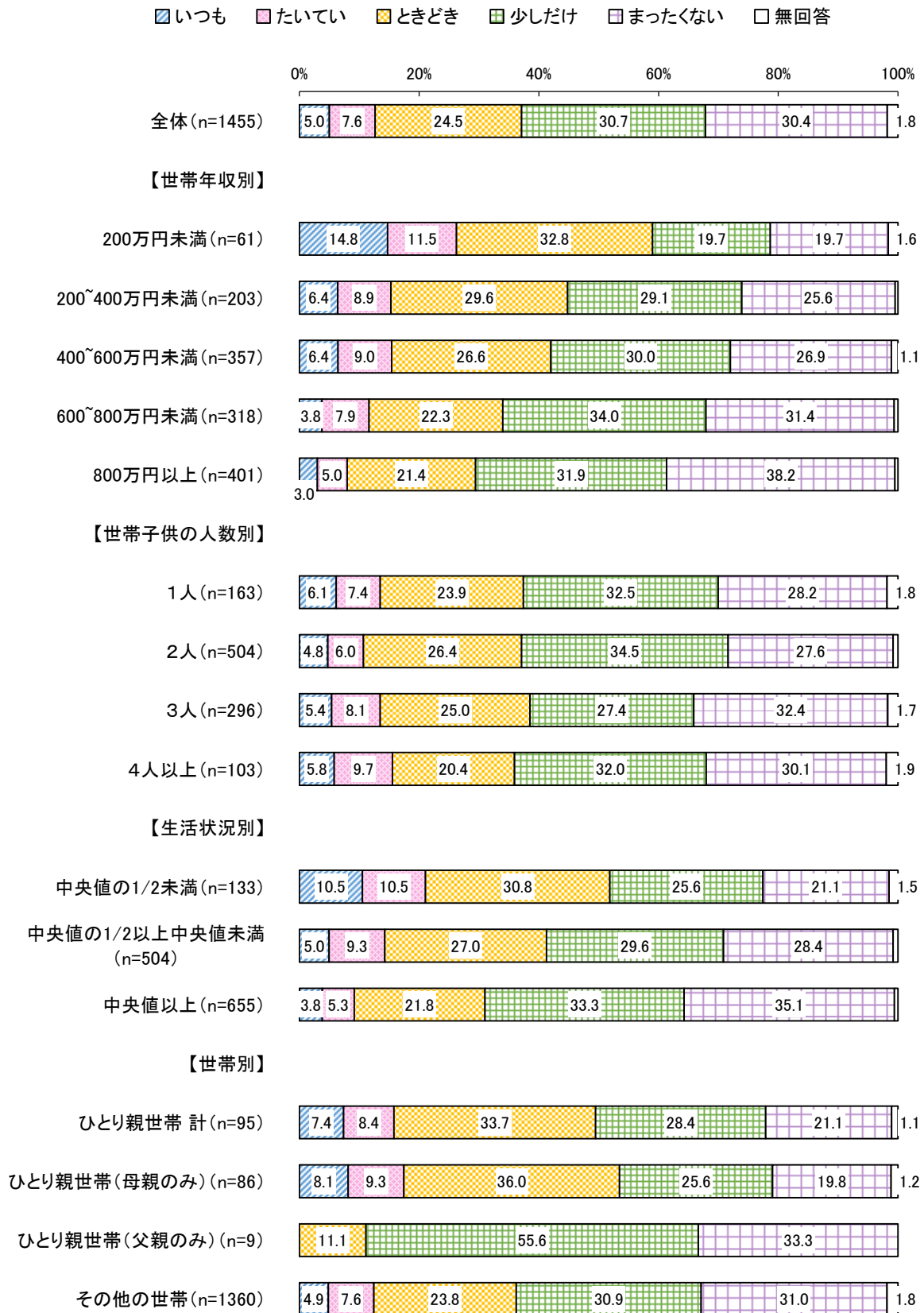


d) 気分が沈み込んで、何が起ころうとも気が晴れないように感じた

■いつも ■たいてい ■ときどき ■少しだけ ■まったくない ■無回答

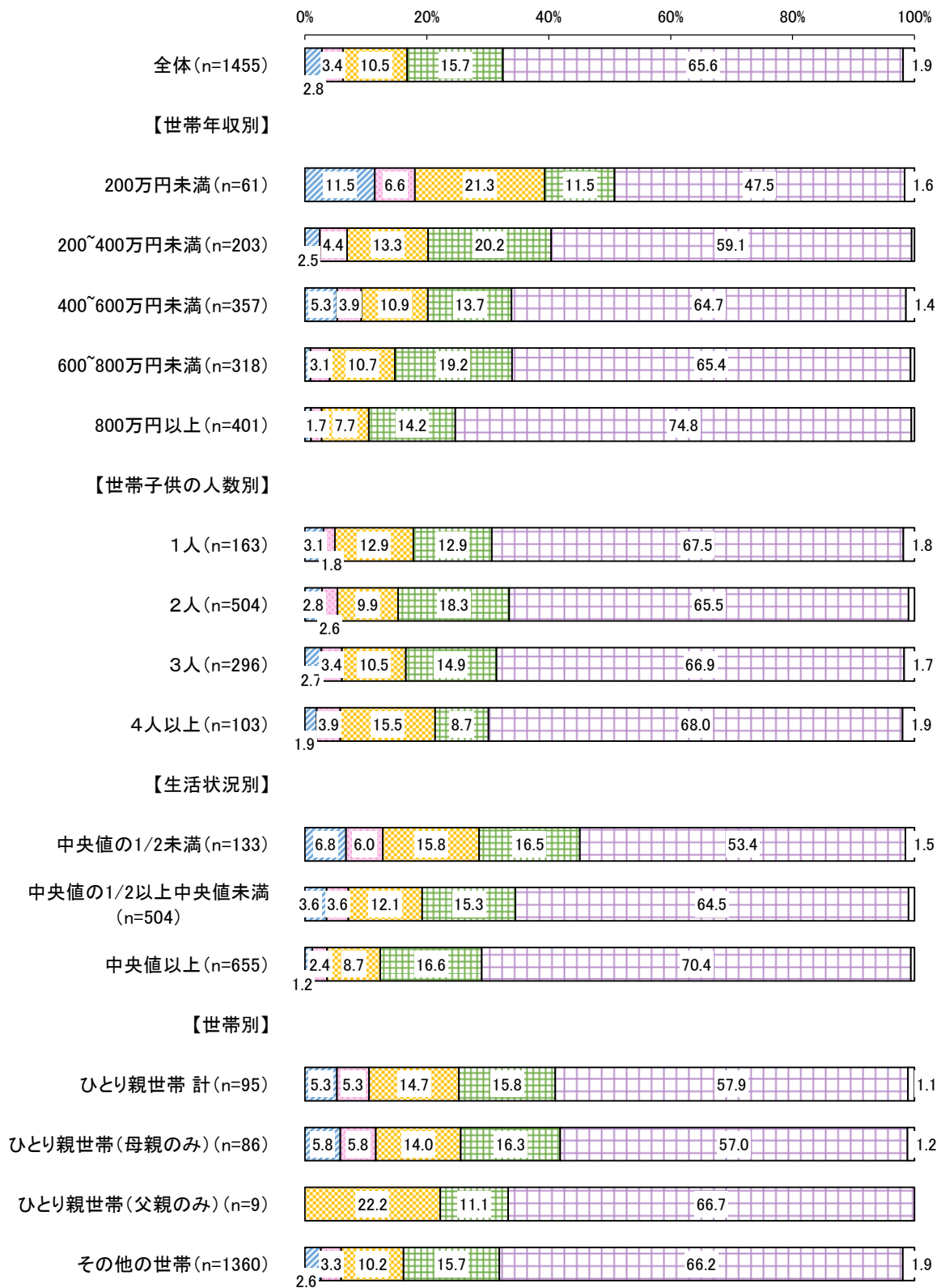


e) 何をするのも面倒だと感じた



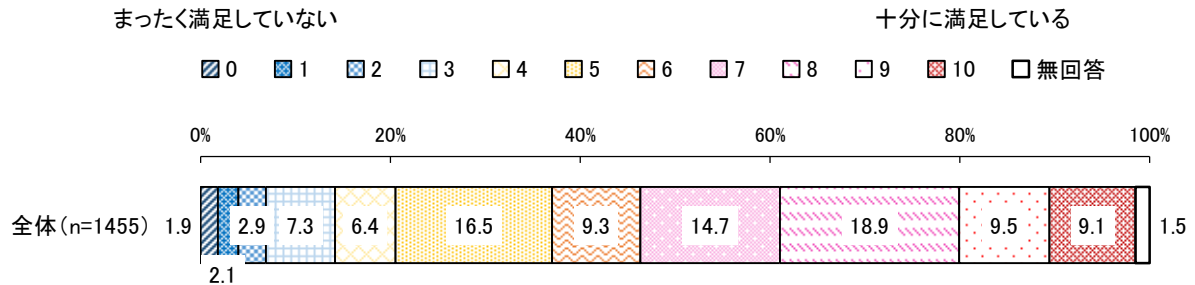
f) 自分は価値のない人間だと感じた

■いつも ■たいてい ■ときどき ■少しだけ ■まったくない ■無回答



(19) 主観的幸福（生活満足度）

問24 全体として、あなたは最近の生活に、どのくらい満足していますか。「0」（まったく満足していないから「10」（十分に満足している）の数字で教えてください。（あてはまるもの1つに○）



【全体】

生活の満足度について、過半数が7以上と回答している。

【属性別】（図表Ⅱ-1-22 参照）

世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど満足度が低く、200万円未満の世帯では「0（まったく満足していない）」（11.5%）の割合が約1割となっている。

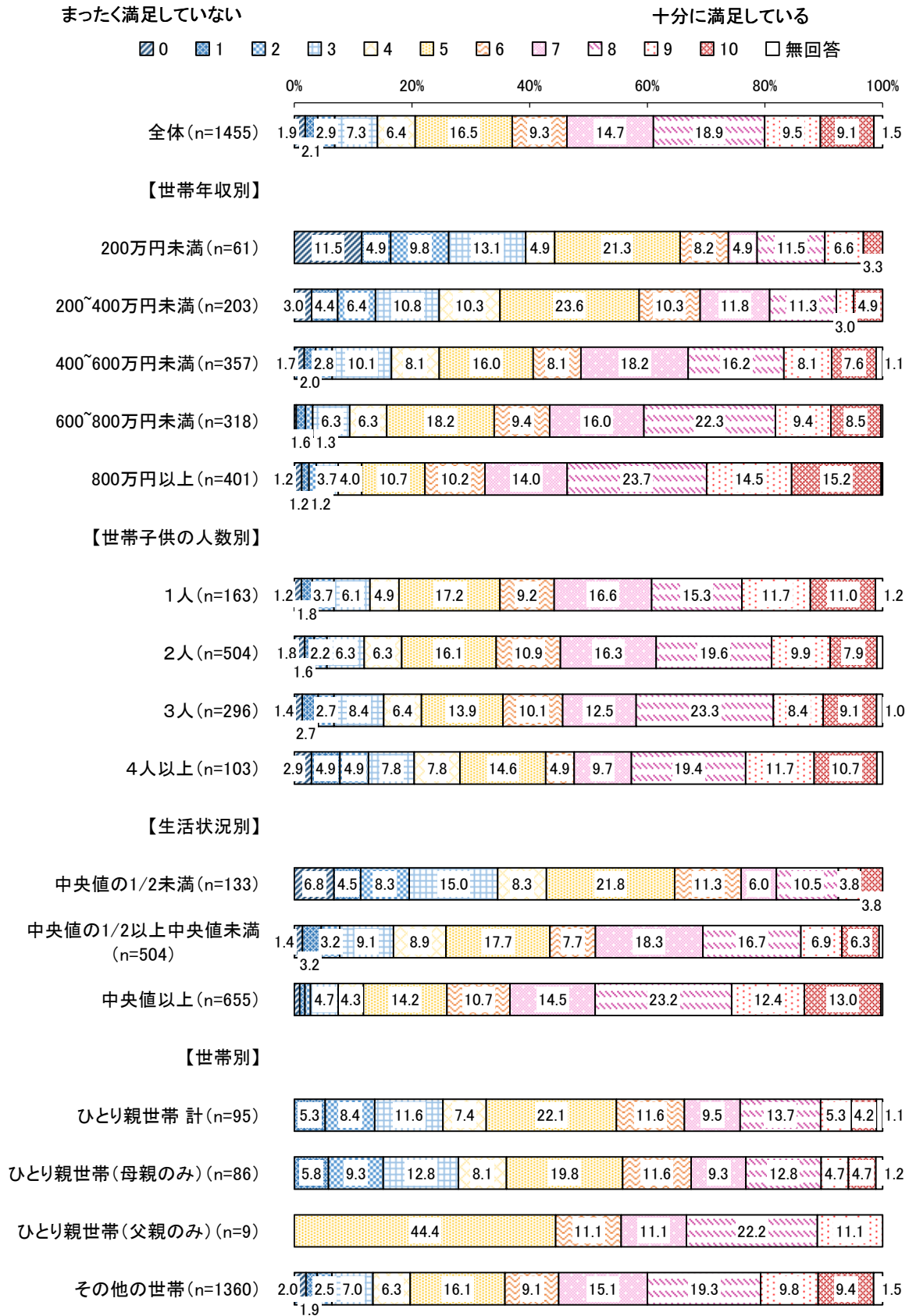
世帯子供の人数別にみると、満足度6以下割合は、子供の人数が多いほど高くなっている。

生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど満足度が低く、「中央値の1/2未満」では「0（まったく満足していない）」（6.8%）の割合が1割弱となっている。

世帯別にみると、ひとり親世帯ではその他の世帯より満足度が低くなっている。

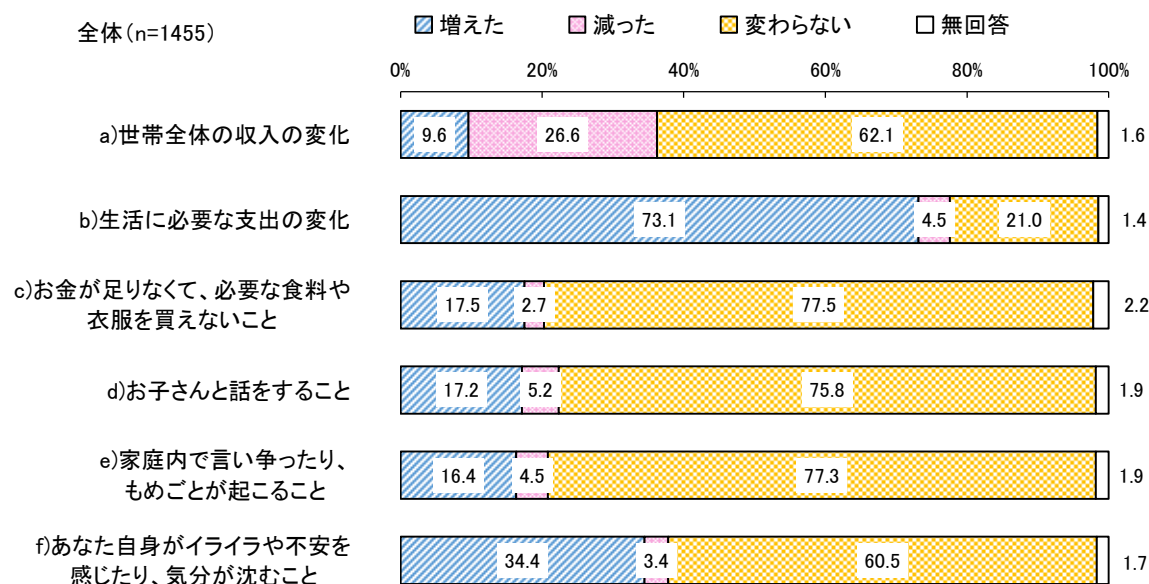
図表Ⅱ-1-22 主観的幸福（生活満足度）

（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）



(20) 新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響

問25 あなたのご家庭の現在の生活は、新型コロナウイルス感染症の拡大や物価高騰の影響を受け、2020年2月以前と比べ、どのように変わりましたか。(a~f それぞれについて、あてはまるもの1つに○)



【全体】

新型コロナウイルス感染症や物価高騰の影響について、「a)世帯全体の収入の変化」では「増えた」が9.6%、「減った」が26.6%、「変わらない」が62.1%となっている。

「b)生活に必要な支出の変化」では、「増えた」が73.1%、「減った」が4.5%、「変わらない」が21.0%となっている。

「c)お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」では、「増えた」が17.5%、「減った」が2.7%、「変わらない」が77.5%となっている。

「d)お子さんと話をすること」では、「増えた」が17.2%、「減った」が5.2%、「変わらない」が75.8%となっている。

「e)家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること」では、「増えた」が16.4%、「減った」が4.5%、「変わらない」が77.3%となっている。

「f)あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」では、「増えた」が34.4%、「減った」が3.4%、「変わらない」が60.5%となっている。

【属性別】（図表Ⅱ-1-23 参照）

世帯年収別にみると、「a)世帯全体の収入の変化」では、世帯年収が低いほど「減った」の割合が高く、200万円未満では6割を超えている。

「b)生活に必要な支出の変化」では、800万円以上の世帯で「変わらない」の割合が最も高くなっている。

「c)お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」では、世帯年収が低いほど「増えた」の割合が高く、200万円未満の世帯では約4割となっている。

「d)お子さんと話をすること」では、200万円未満の世帯で「増えた」の割合も「減った」の割合も高く、最も影響を受けている。

「e)家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること」では、200万円未満の世帯で「減った」の割合が高い。

「f)あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」では、世帯年収が低いほど「増えた」の割合が高い傾向にある。

世帯子供の人数別にみると、「a)世帯全体の収入の変化」では、子供の人数が多いほど「減った」の割合が高い。

「b)生活に必要な支出の変化」では、子供の人数が多いほど「増えた」の割合が高い。

「c)お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」では、子供の人数が多いほど「増えた」の割合が高い。

「d)お子さんと話をすること」では、子供の人数が4人以上の世帯で「増えた」の割合が高くなっている。

「e)家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること」では、子供の人数が1人の世帯で「変わらない」の割合が最も高くなっている。

「f)あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」では、大きな差はみられない。

生活状況別にみると、「a)世帯全体の収入の変化」では、等価世帯収入が低いほど「減った」の割合が高く、「中央値の1/2未満」では6割弱となっている。

「b)生活に必要な支出の変化」では、等価世帯収入が低いほど「減った」の割合が高い。

「c)お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」では、等価世帯収入が低いほど「増えた」の割合が高く、「中央値の1/2未満」では半数近くを占めている。

「d)お子さんと話をすること」では、「中央値の1/2未満」で「中央値以上」や「中央値の1/2以上中央値未満」より「増えた」の割合がやや高い。

「e)家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること」では、「中央値の1/2未満」で「増えた」の割合が高くなっているが、「減った」の割合も「中央値以上」や「中央値の1/2以上中央値未満」と比べて高い。

「f)あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」では、等価世帯収入が低いほど「増えた」の割合が高く、「中央値の1/2未満」では半数近くを占めている。

世帯別にみると、「a)世帯全体の収入の変化」では、ひとり親世帯ではその他の世帯より「減った」の割合が高い。

「b)生活に必要な支出の変化」では、大きな差はみられない。

「c)お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと」では、ひとり親世帯ではその他の世帯より「増えた」の割合が高い。

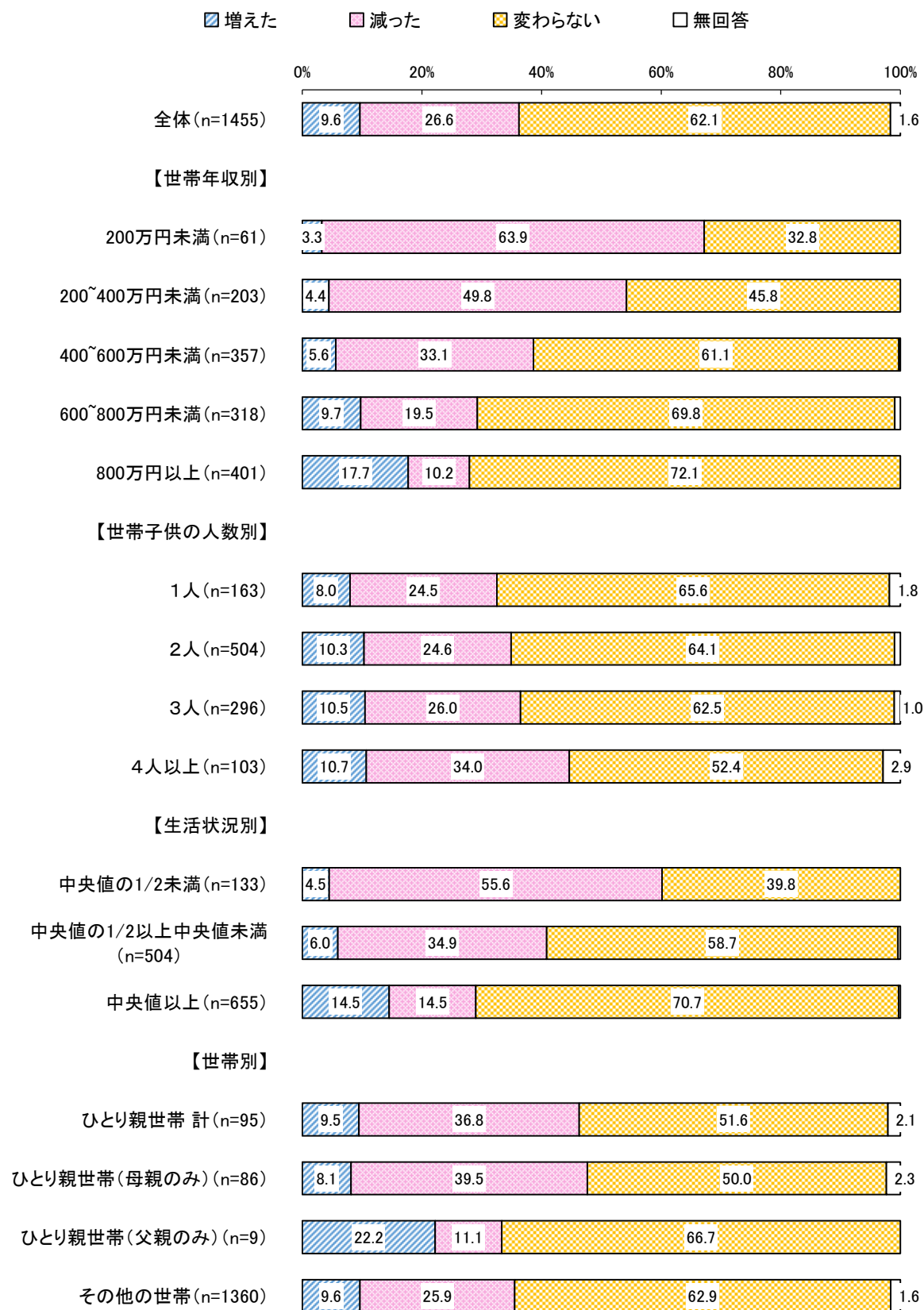
「d)お子さんと話をする事」では、ひとり親世帯ではその他の世帯より「減った」の割合が高い。

「e)家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること」では、ひとり親世帯ではその他の世帯より「減った」の割合が高い。

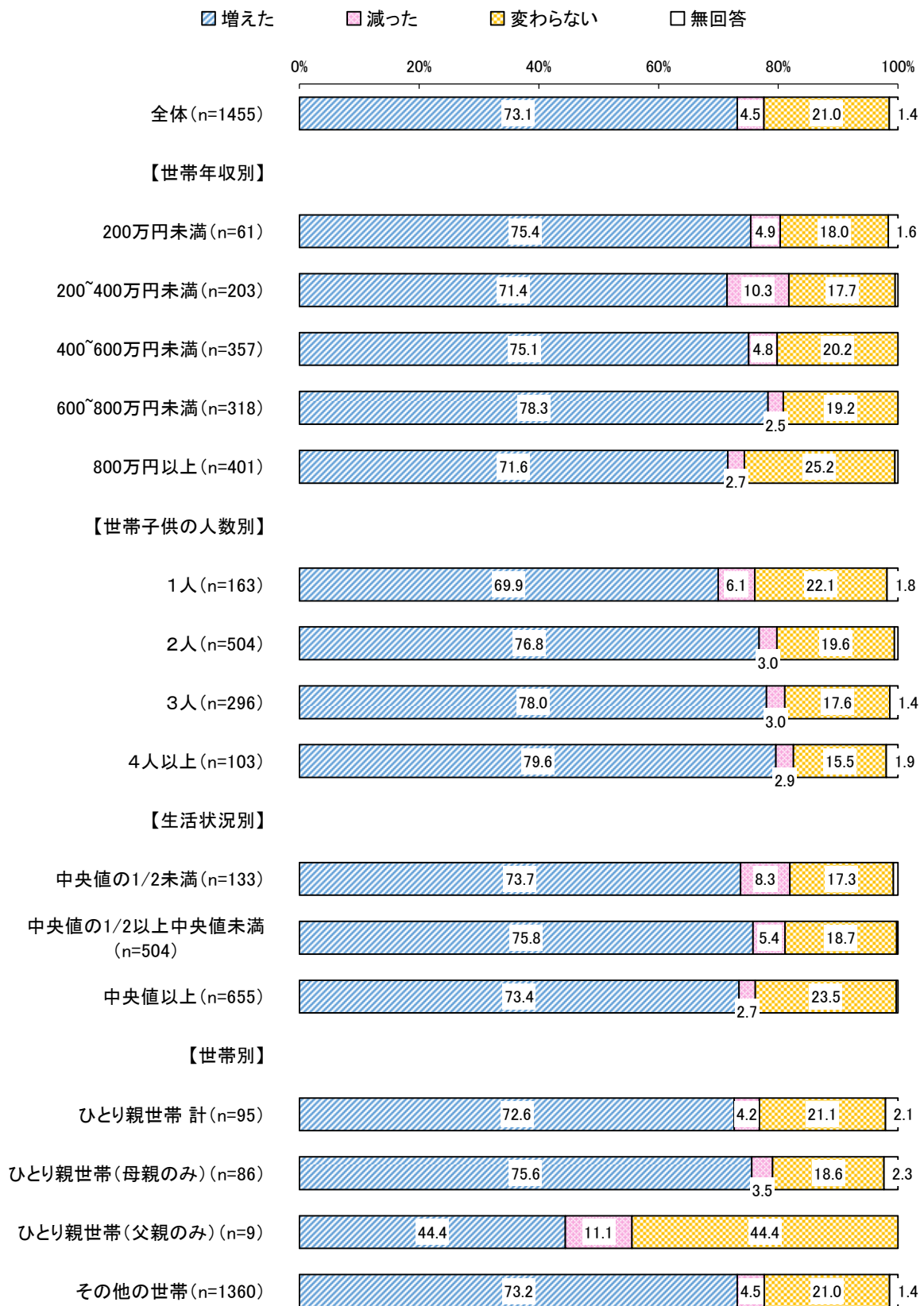
「f)あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと」では、ひとり親世帯ではその他の世帯より「増えた」の割合がやや高い。

図表Ⅱ-1-23 コロナ禍の影響（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

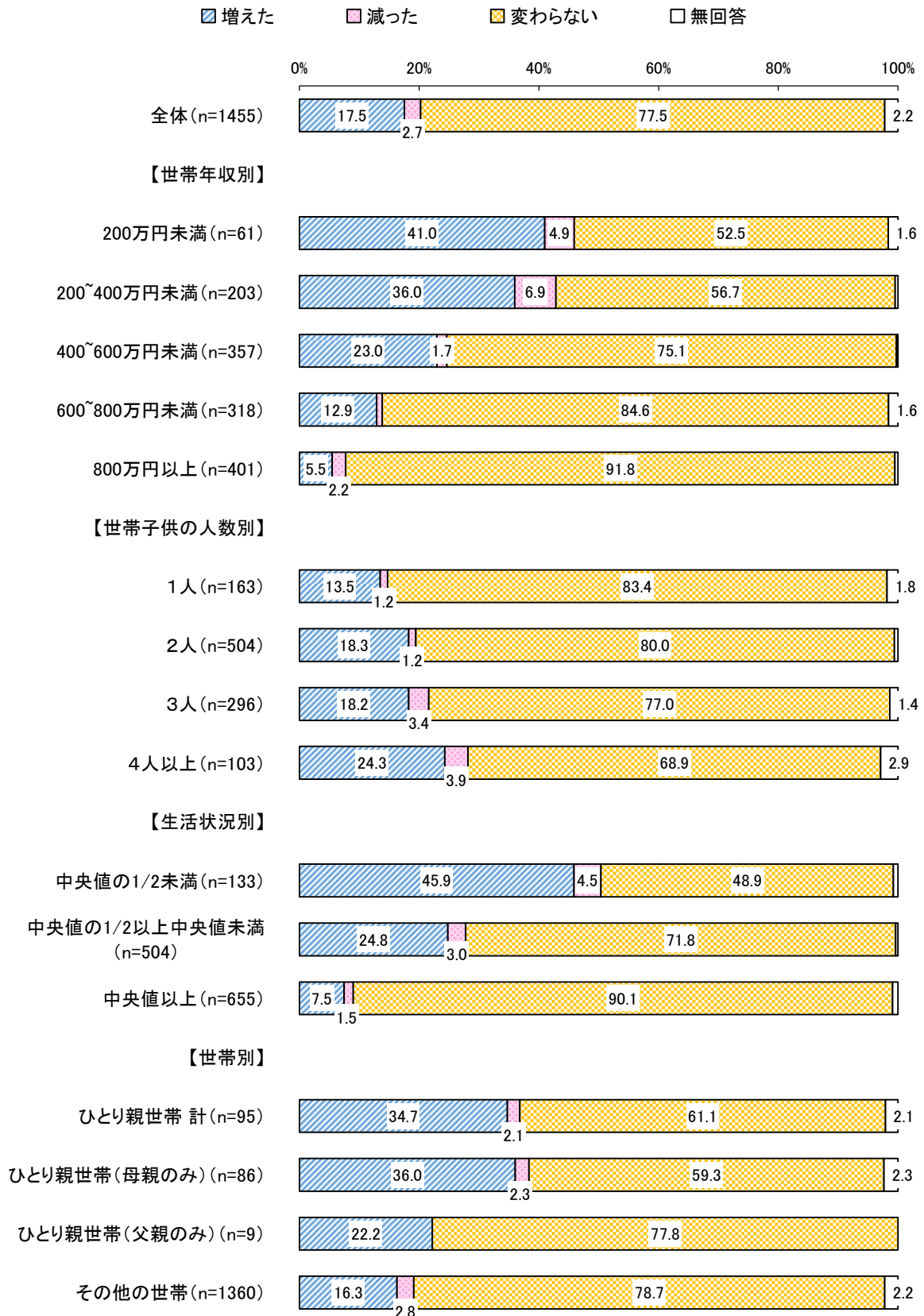
a) 世帯全体の収入の変化



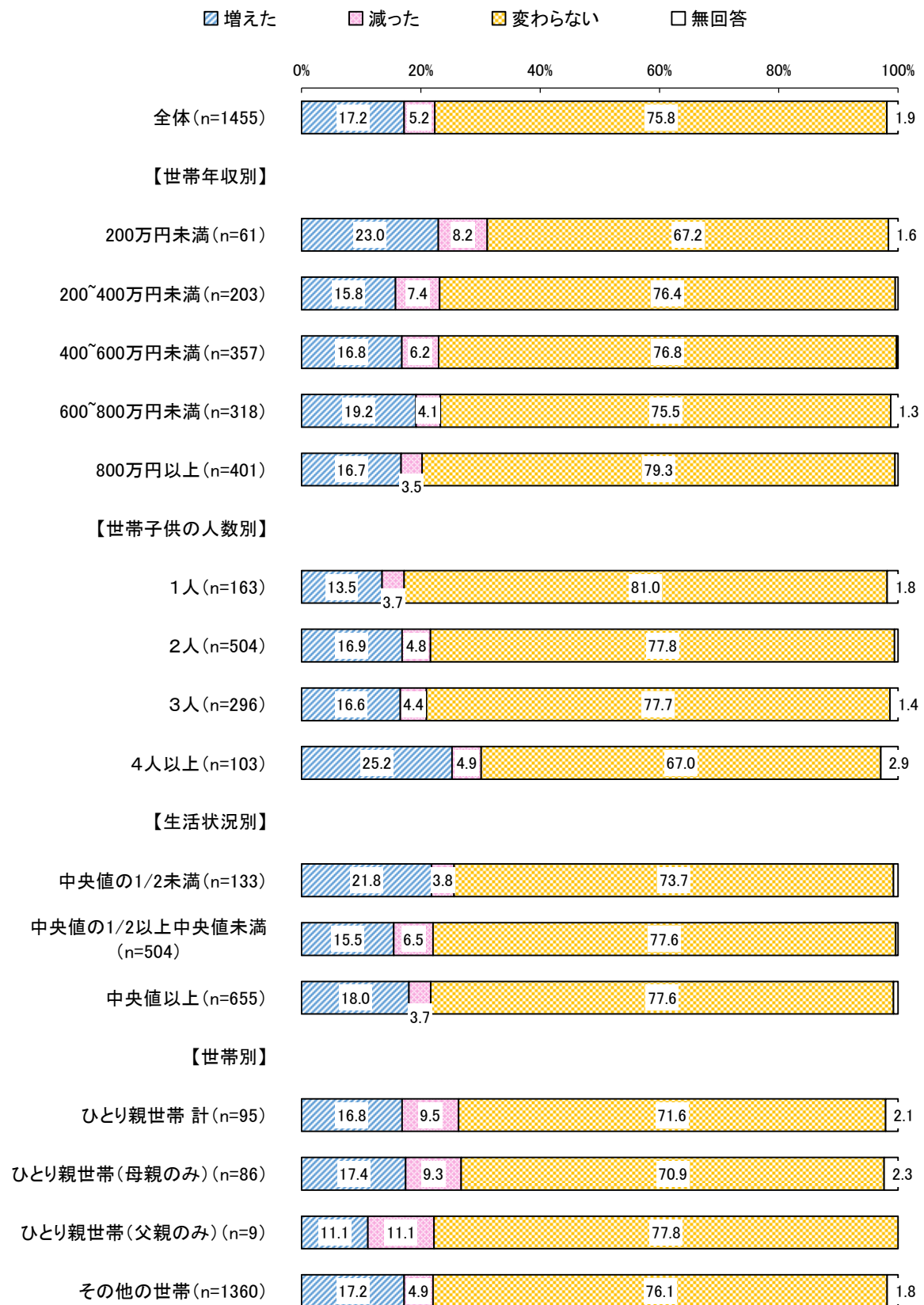
b) 生活に必要な支出の変化



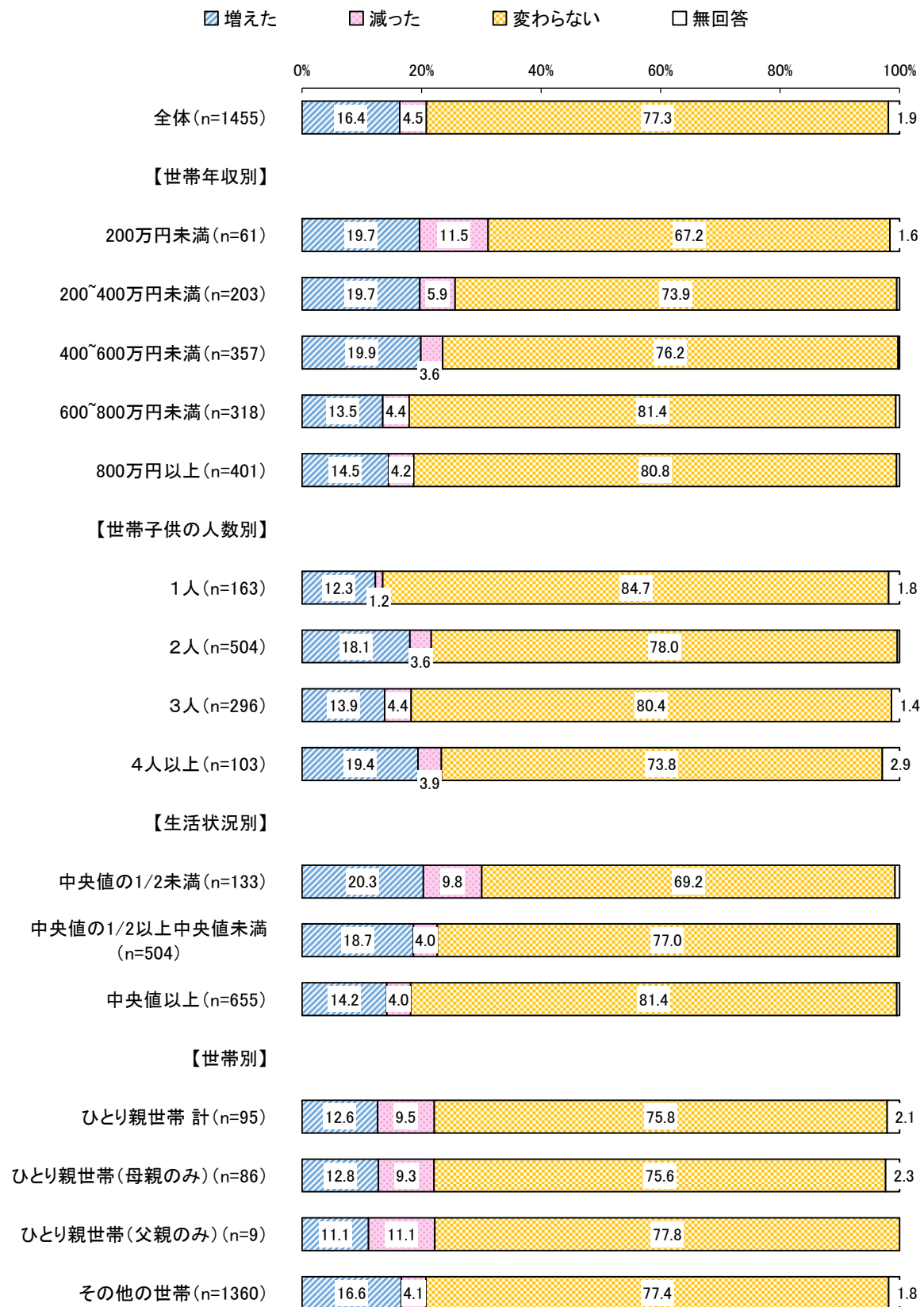
c) お金が足りなくて、必要な食料や衣服を買えないこと



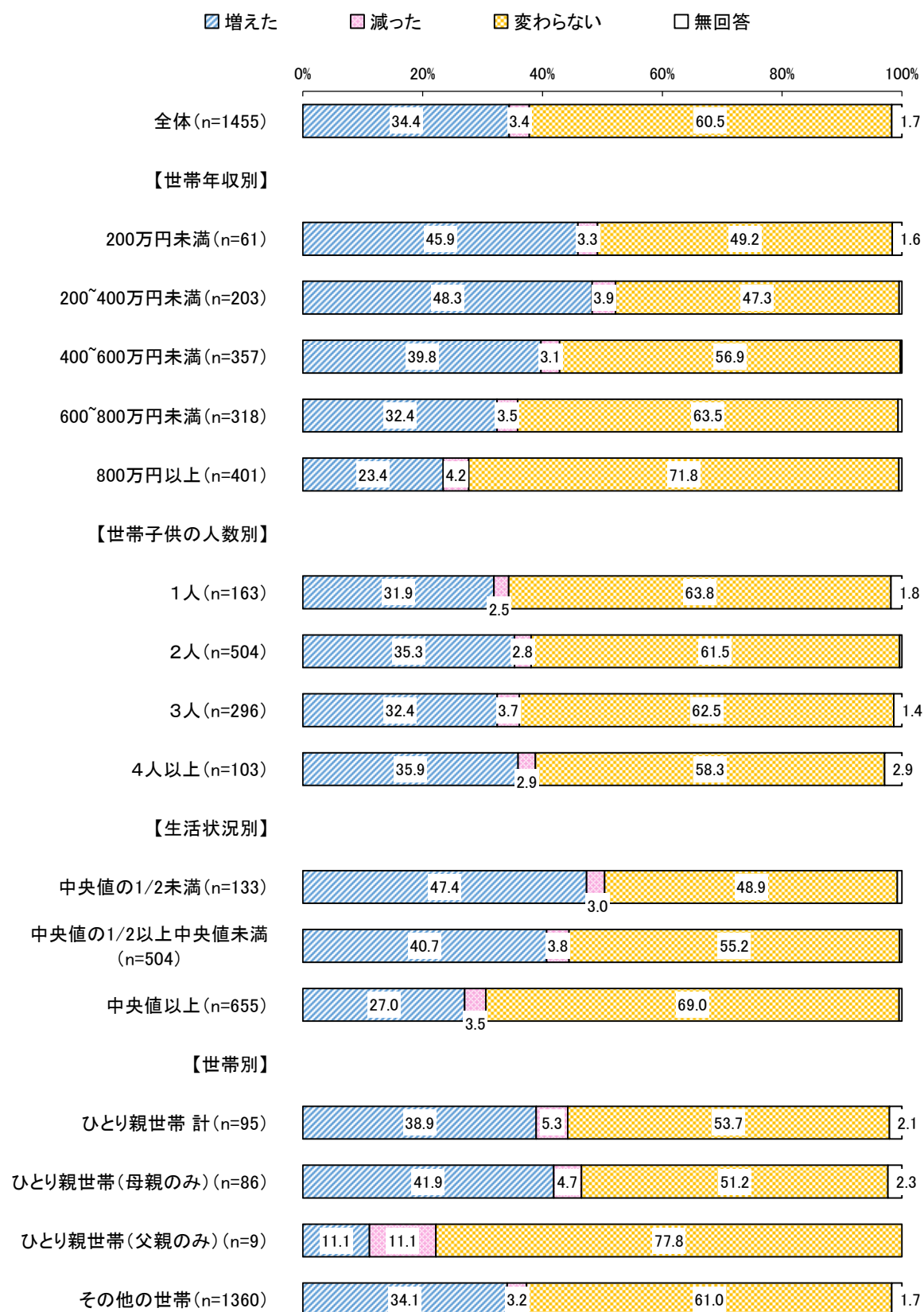
d) お子さんと話をすること



e) 家庭内で言い争ったり、もめごとが起こること

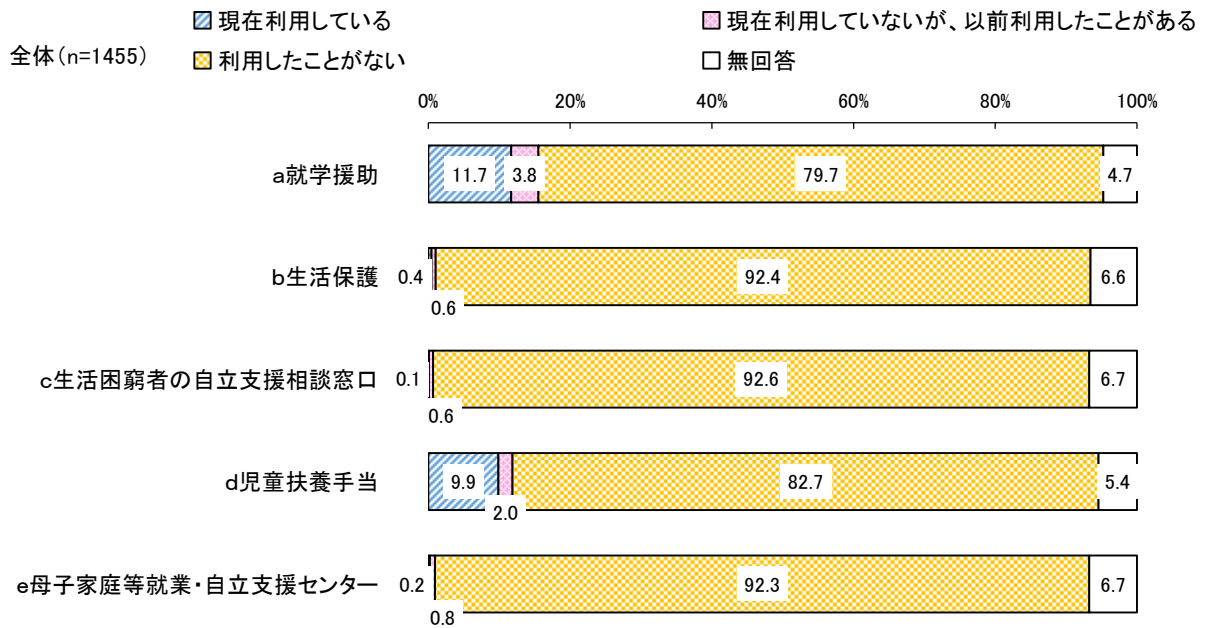


f) あなた自身がイライラや不安を感じたり、気分が沈むこと

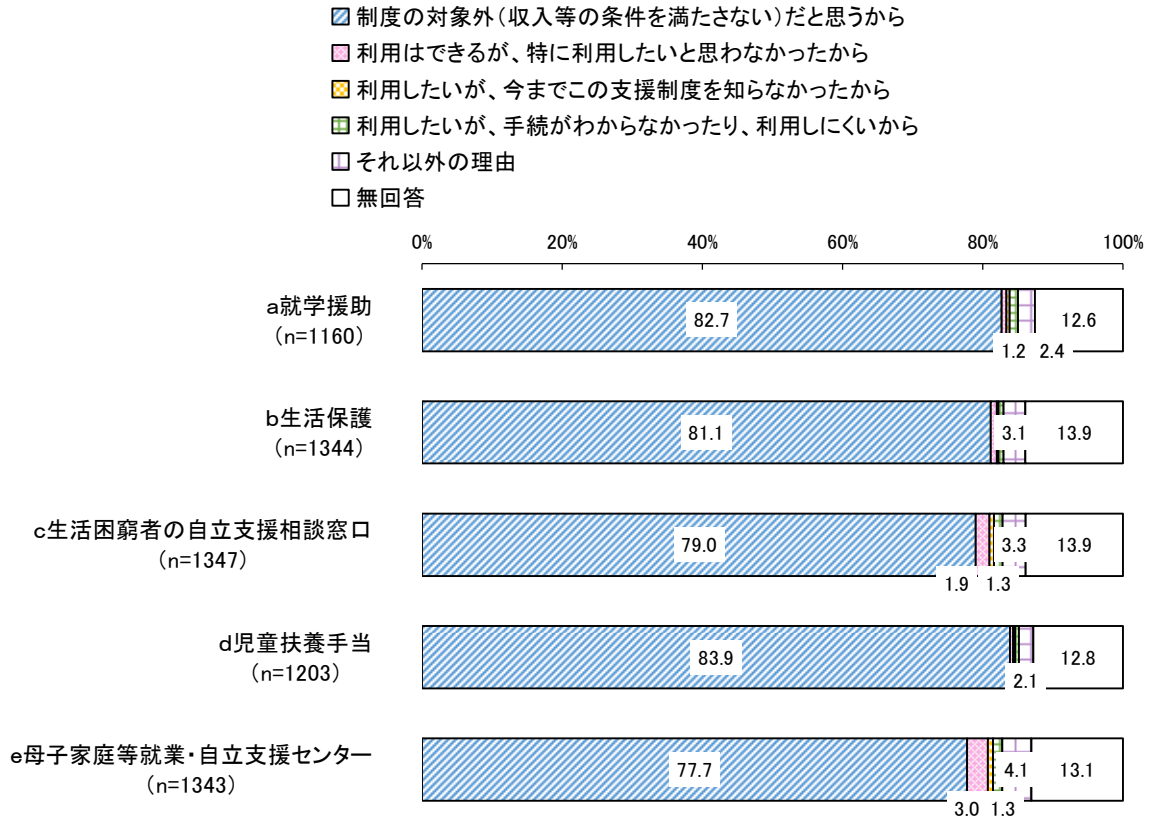


(21) 支援の利用状況

問26 あなたのご家庭では、以下の支援制度をこれまでに利用したことがありますか。
(a～eそれぞれについて、1～3のあてはまるもの1つに○)



・利用したことがない理由



【全体】

支援制度の利用状況について、「現在利用している」の割合は、「a 就学援助」（11.7%）と「d 児童扶養手当」（9.9%）で約1割となっている。「b 生活保護」、「c 生活困窮者の自立支援相談窓口」、「e 母子家庭等就業・自立支援センター」は「利用したことがない」が9割以上を占めている。

利用したことがない理由については、いずれの制度も「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」が8割前後となっている。

【属性別】（図表Ⅱ-1-24 参照）

世帯年収別にみると、世帯年収が低いほど「a 就学援助」、「d 児童扶養手当」の利用の割合が高い。200万円未満の世帯では「現在利用している」の割合が6割を超えている。「b 生活保護」、「c 生活困窮者の自立支援相談窓口」、「e 母子家庭等就業・自立支援センター」の利用の割合は、「現在利用していないが、以前利用したことがある」を含めて200万円未満の世帯で1割程度となっている。

世帯子供の数別にみると、子供の数が多いほど「a 就学援助」の利用の割合が高い傾向にある。子供の数が4人以上の世帯では「現在利用している」の割合が2割を超えている。

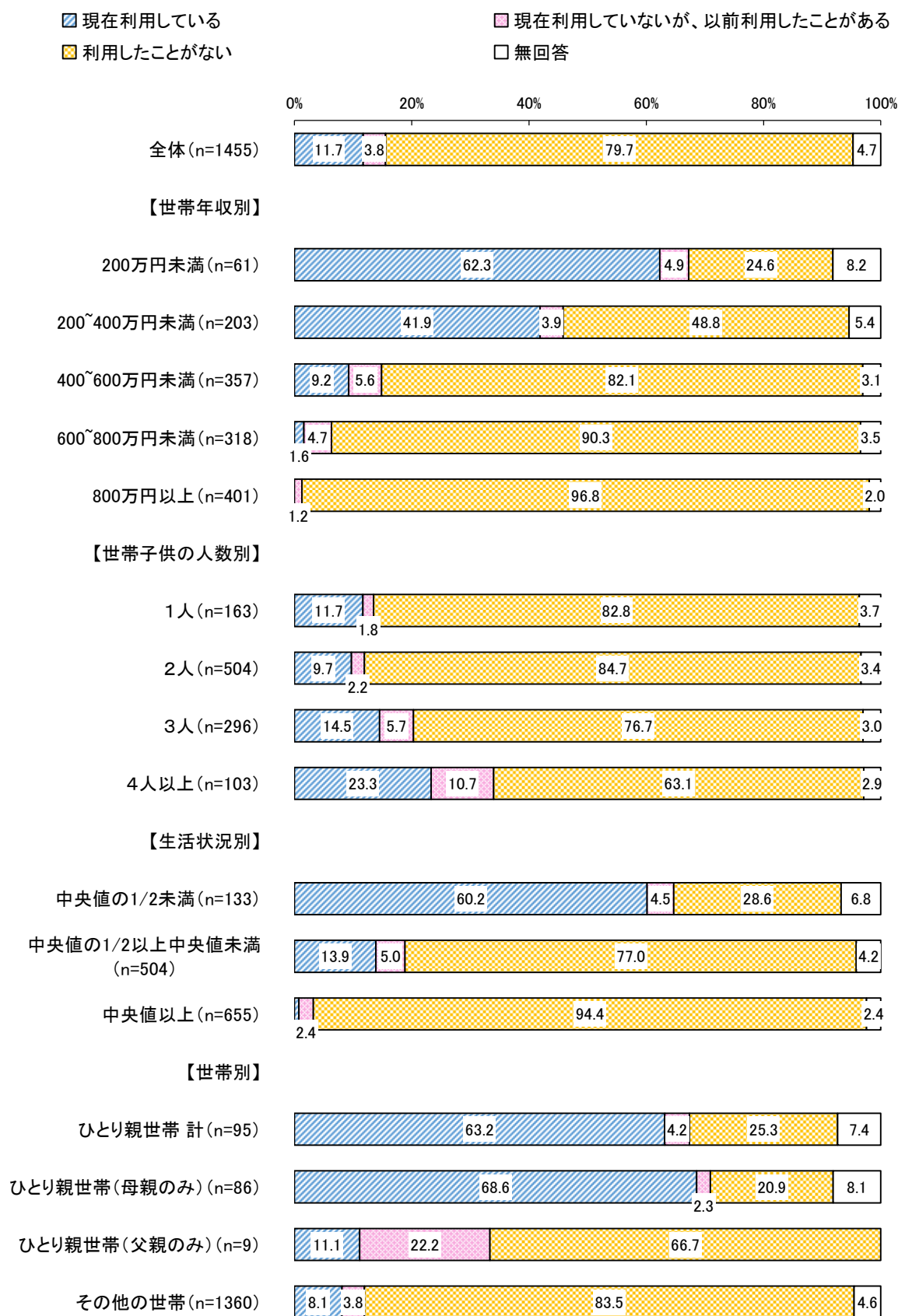
生活状況別にみると、等価世帯収入が低いほど「a 就学援助」、「d 児童扶養手当」の利用の割合が高い。「中央値の1/2未満」では「現在利用している」の割合が半数以上となっている。

世帯別にみると、ひとり親世帯はその他の世帯より「a 就学援助」、「d 児童扶養手当」の利用の割合が高い。ひとり親世帯では「現在利用している」の割合が6割を超えている。

利用したことがない理由については、いずれの属性でも「制度の対象外（収入等の条件を満たさない）だと思うから」の割合が最も高いが、「a 就学援助」ではひとり親世帯で「利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから」、「c 生活困窮者の自立支援相談窓口」では「中央値の1/2未満」で「利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから」の割合が約1割となっている。また、「e 母子家庭等就業・自立支援センター」では制度対象の世帯で「利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから」の割合が高くなっている。

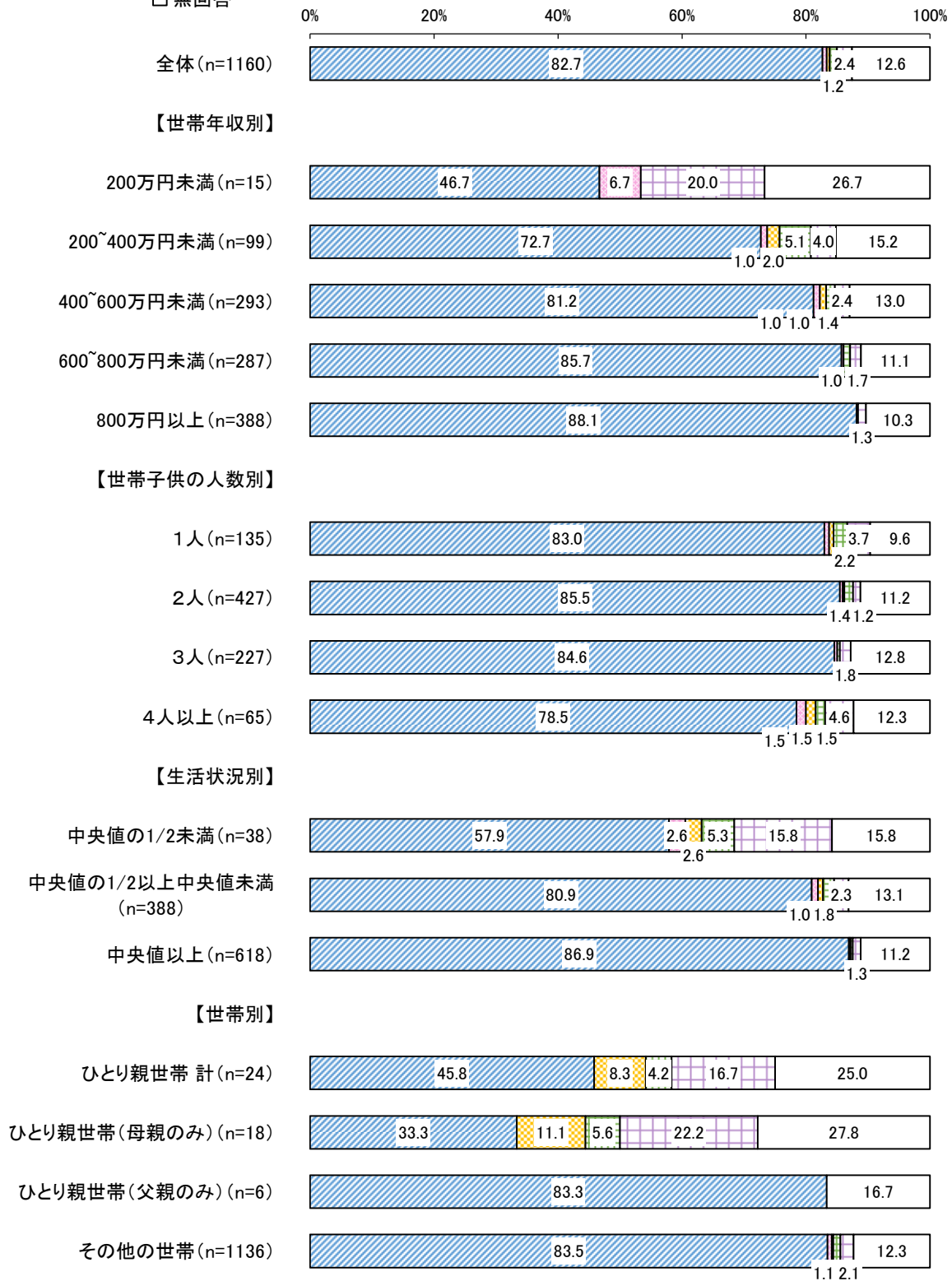
図表Ⅱ-1-24 支援の利用状況（世帯年収別/世帯子供の人数別/生活状況別/世帯別）

a 就学援助



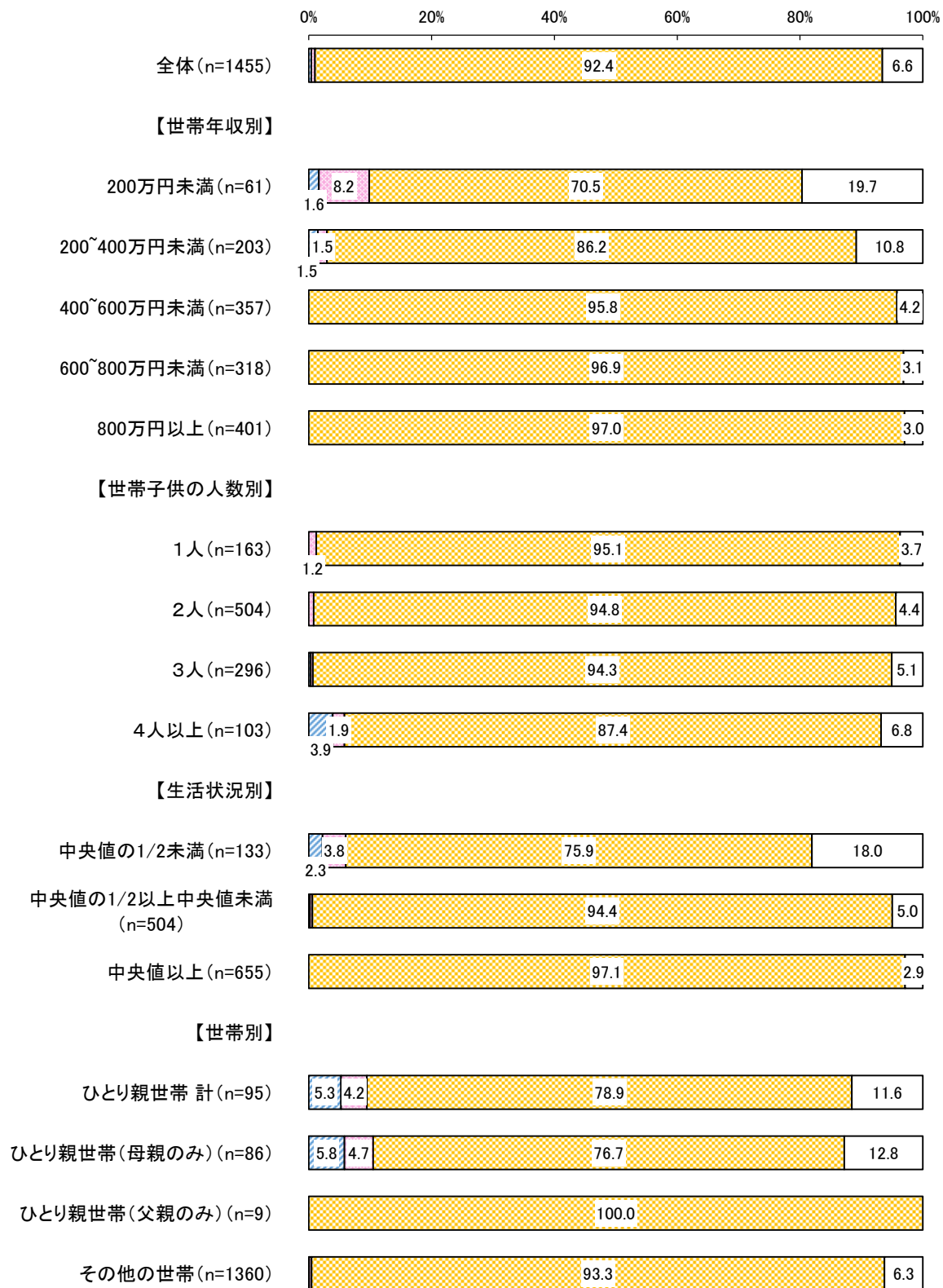
a 就学援助 利用したことがない理由

- 制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから
- 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
- 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
- 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
- それ以外の理由
- 無回答



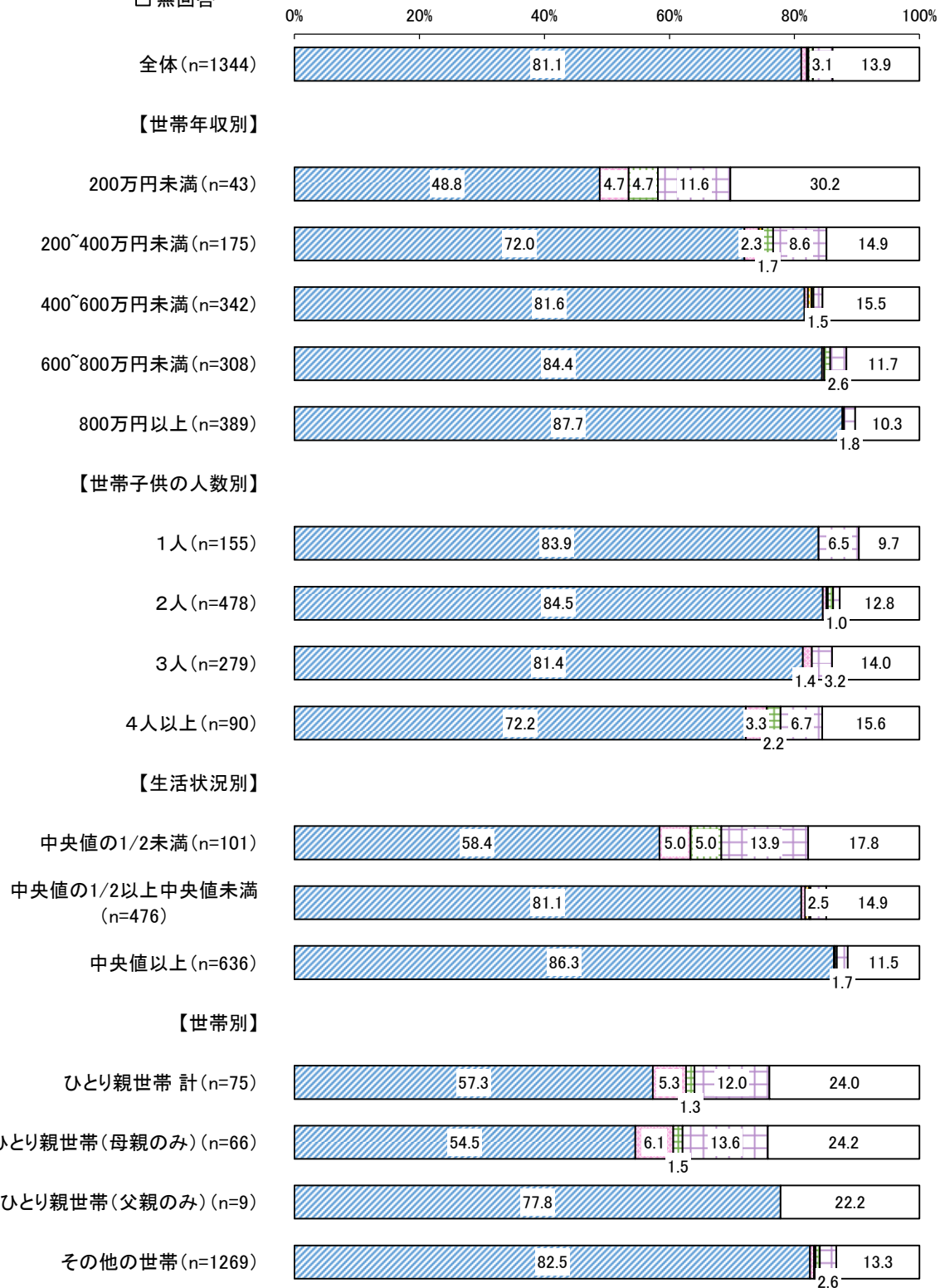
b 生活保護

- 現在利用している
- 利用したことがない
- 現在利用していないが、以前利用したことがある
- 無回答



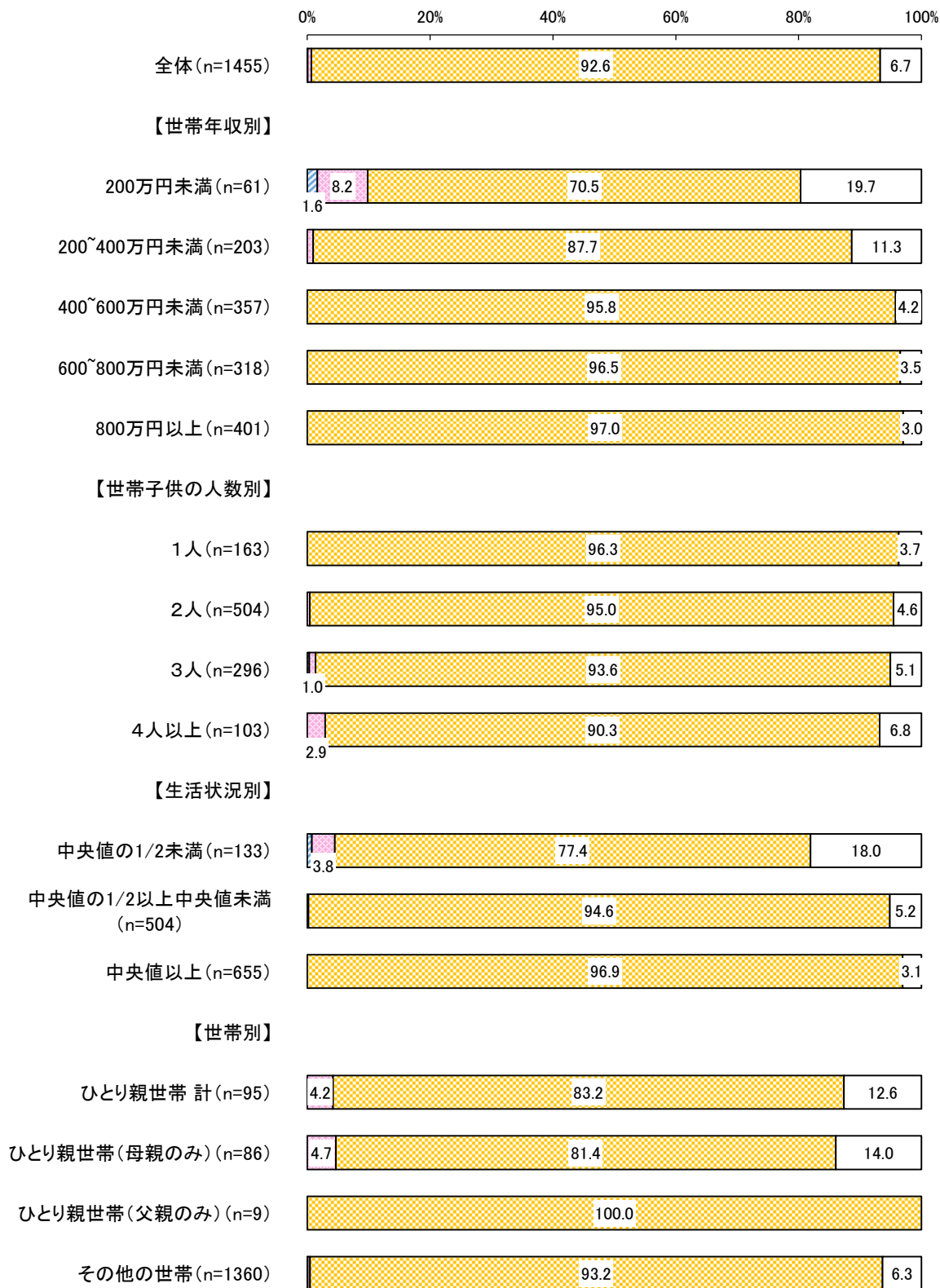
b 生活保護 利用したことがない理由

- 制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから
- 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
- 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
- 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
- それ以外の理由
- 無回答



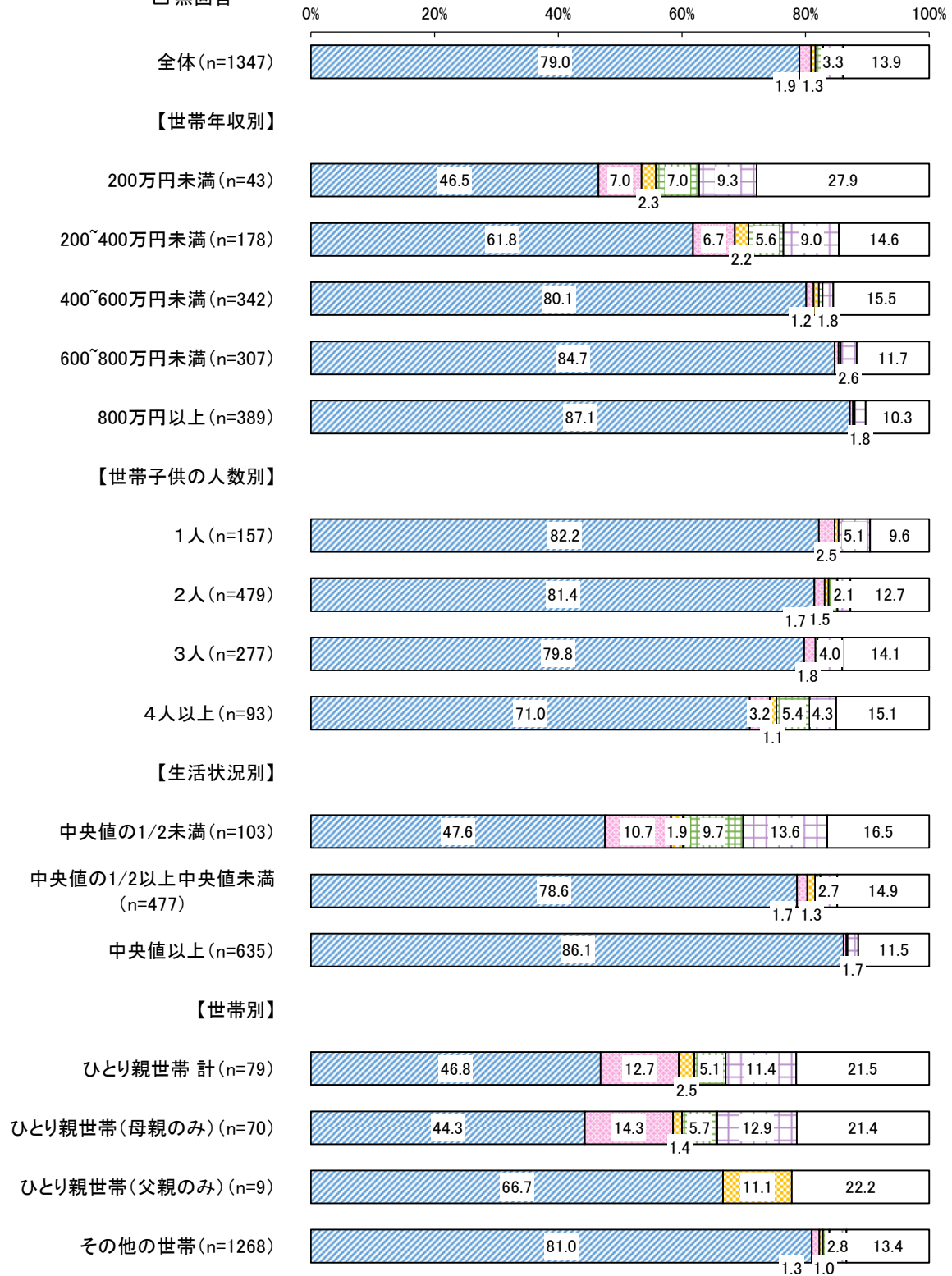
c 生活困窮者の自立支援相談窓口

- 現在利用している
- 利用したことがない
- 現在利用していないが、以前利用したことがある
- 無回答



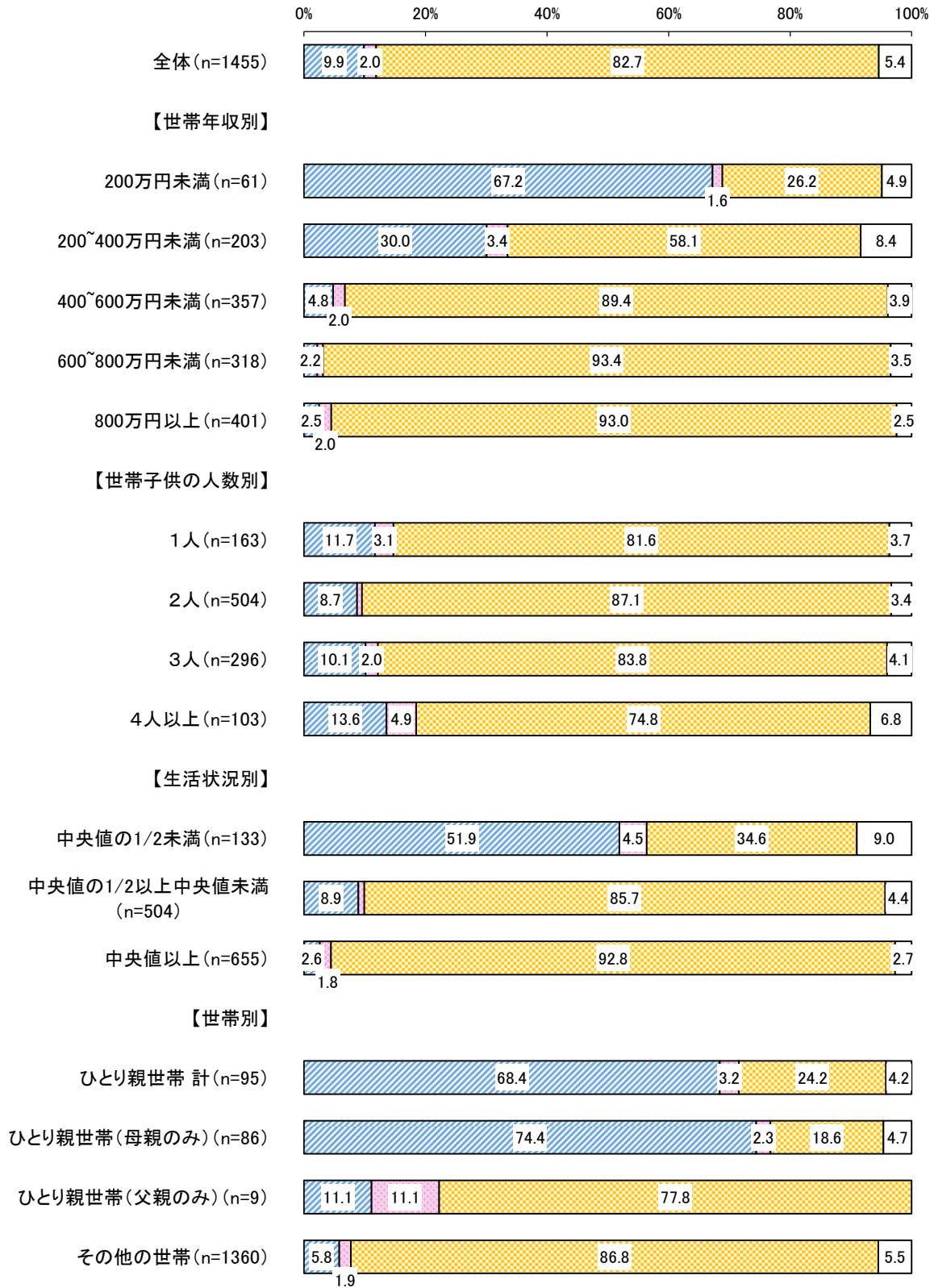
○生活困窮者の自立支援相談窓口 利用したことがない理由

- 制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから
- 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
- 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
- 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
- それ以外の理由
- 無回答



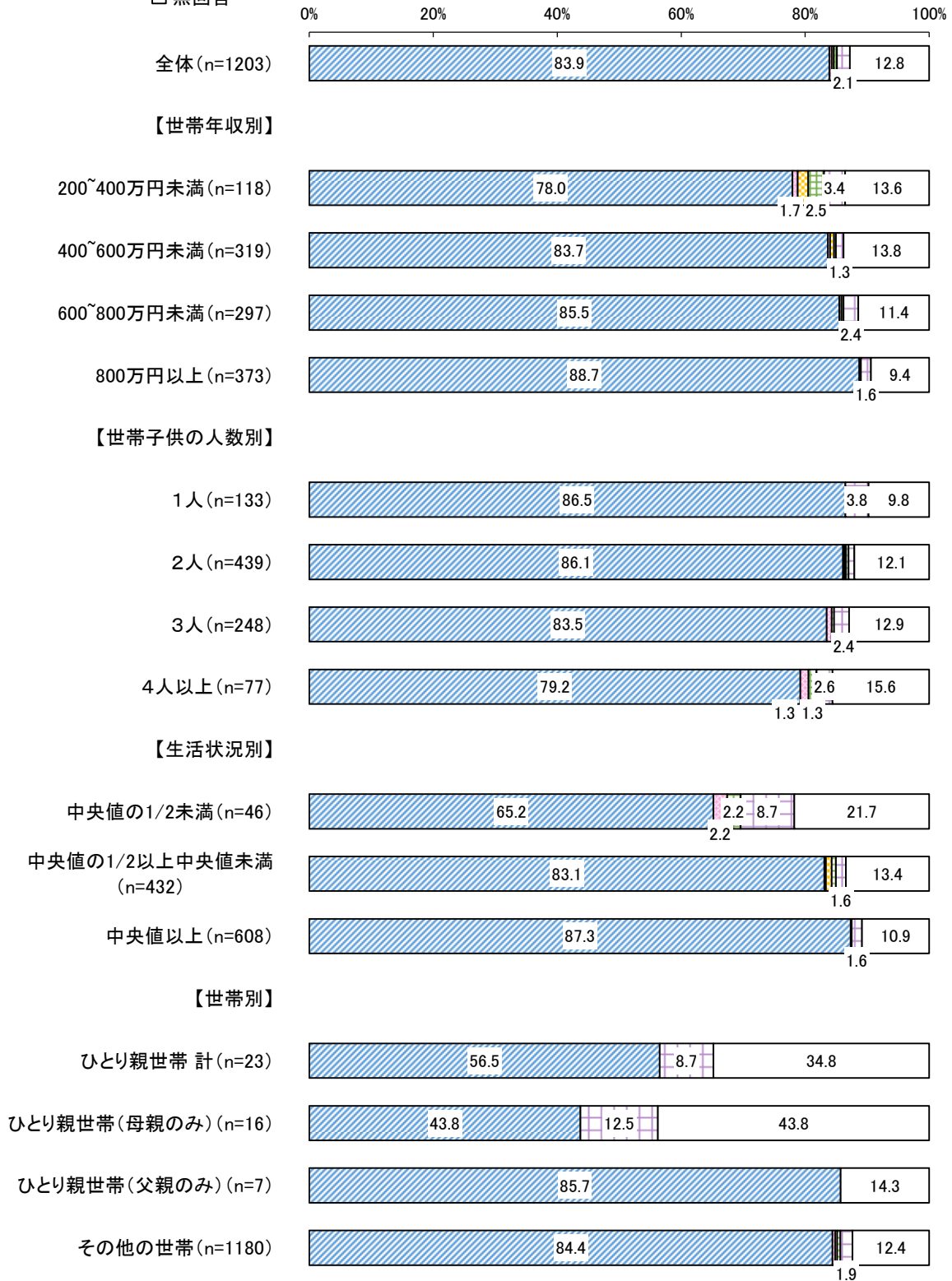
d 児童扶養手当

- 現在利用している
- 現在利用していないが、以前利用したことがある
- 利用したことがない
- 無回答



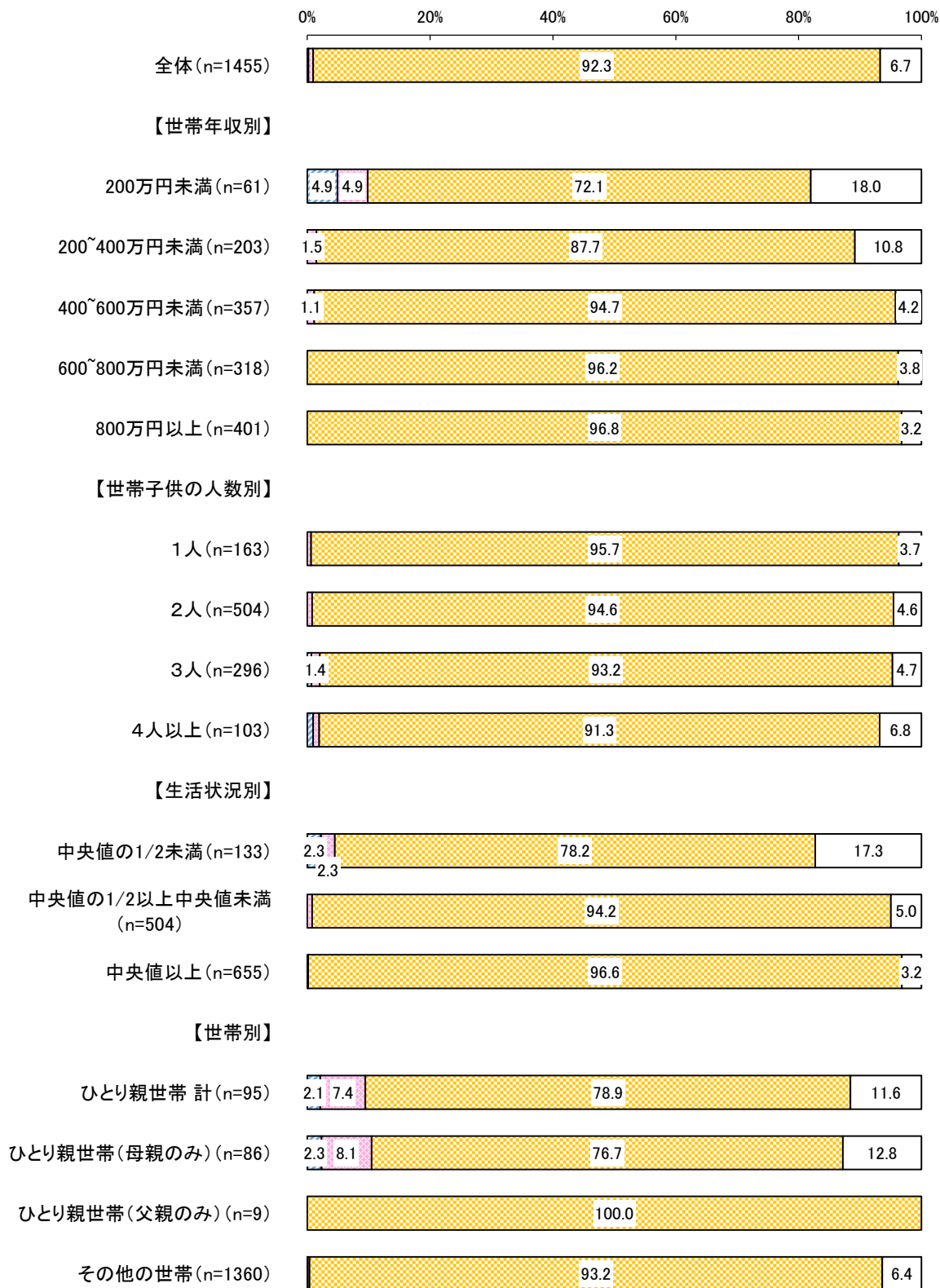
d 児童扶養手当 利用したことがない理由

- 制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから
- 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
- 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
- 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
- それ以外の理由
- 無回答



e 母子家庭等就業・自立支援センター

- 現在利用している
- 利用したことがない
- 現在利用していないが、以前利用したことがある
- 無回答



e 母子家庭等就業・自立支援センター 利用したことがない理由

- 制度の対象外(収入等の条件を満たさない)だと思うから
- 利用はできるが、特に利用したいと思わなかったから
- 利用したいが、今までこの支援制度を知らなかったから
- 利用したいが、手続きがわからなかったり、利用しにくいから
- それ以外の理由
- 無回答

